

北 区

障害者実態・意向調査報告書

令和8年3月



目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的と方法	3
(1) 調査の目的	3
(2) 調査の対象と調査方法	3
(3) 調査期間	3
(4) 配付・回収状況	3
2 調査結果の概要	4
第2章 調査結果の詳細	11
調査票の回答者	13
1 ご本人について	14
(1) 年齢	14
(2) 障害の種類	15
(3) 身体障害者手帳の等級と障害名	16
(4) 愛の手帳の程度	17
(5) 精神障害者保健福祉手帳の等級と疾病名	18
(6) (都) 医療券の疾病名	19
(7) 障害支援区分と介護保険制度の要支援・要介護認定	20
2 通院や入院について	21
(1) 最近1年間の通院状況	21
3 住居について	22
(1) 住まいの種類	22
(2) 同居している人	23
(3) 将来の住まいの希望	24
(4) グループホーム生活で不安なことや支援してほしいこと	26
(5) 入所施設生活で不安なことや支援してほしいこと	27
4 収入・就労について	28
(1) 本人の収入	28
(2) 就労状況	29
(3) 1ヶ月あたりの収入額	30
(4) 将来の仕事への希望	31
(5) 就労への不安	33
(6) 働くために必要な支援	35

5 介護・支援について	36
(1)介護者.....	36
(2)主な介護者の年齢.....	37
(3)介護者のための支援.....	38
6 日常生活について	39
(1)日中過ごしている場所.....	39
(2)余暇の過ごし方.....	40
7 外出・地域環境・交通について	41
(1)外出に関して困っていること.....	41
(2)バリアフリー化への希望.....	43
(3)外出頻度.....	45
8 情報や相談について	46
(1)区政や福祉サービス情報の入手先.....	46
(2)困ったときの相談先.....	47
(3)相談の内容.....	48
(4)相談しやすい体制作りに必要なこと.....	49
9 サービスの利用について	50
(1)障害福祉サービスの利用状況(現在利用).....	50
(2)障害福祉サービスの今後の利用意向.....	51
(3)障害福祉サービスの満足度.....	52
(4)障害福祉サービスの不満点.....	54
(5)北区独自サービスの利用状況(現在利用).....	57
(6)北区独自サービスの今後の利用意向.....	58
(7)北区独自サービスの満足度.....	59
(8)北区独自サービスの不満点.....	60
10 障害児について	61
(1)療育に関しての希望.....	61
(2)学校教育や学校生活に関しての希望.....	62
(3)発達について気になり始めた時期.....	63
(4)子どもの障害や心身の不調がはじめてわかった時.....	64
(5)子どもの発達や行動についての相談先.....	65
11 権利擁護について	66
(1)成年後見制度の認知と利用.....	66
(2)障害者差別解消法の認知状況.....	68
(3)障害を理由とする差別を感じた経験.....	69
(4)「障害者虐待防止センター」の認知状況.....	71
(5)虐待を見たり聞いたり、受けた経験.....	72

(6) 経験した虐待の内容	73
12 災害対策について	74
(1) 災害への不安として感じること	74
(2) 災害時の援助者	76
(3) 災害時避難場所	77
(4) 災害に備えた特別な対策	78
13 地域で安心して暮らしていくために	79
(1) 障害者・障害児が地域で安心して暮らしていくための施策	79
14 医療的ケア児について	80
(1) 医療的ケアの必要性	80
(2) 現在利用している障害サービス	81
(3) 今後利用したい障害サービス	82
(4) 今後利用したい理由	83
(5) 今後一番利用したい障害サービス	84
(6) 医療的ケア児に対するサービスや支援についての要望	85
15 強度行動障害について	87
(1) 強度行動障害者	87
(2) 行動上の特徴や問題行動特性の頻度	88
(3) 日常的に困っていること	89
(4) 負担を軽減するために必要と考える支援やサービス	90
(5) 強度行動障害に対するサービスや支援についての要望	91
16 中途失聴・難聴者、失語症者について	93
(1) 中途失聴・難聴者、失語症者	93
(2) 区政や福祉サービス情報入手先	94
(3) 情報入手、相談のための支援	95
自由意見	96
資料(調査票)	105

第 1 章

調査の概要

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、令和8年度に予定する「北区障害者計画」の改定及び「第8期北区障害福祉計画・第4期北区障害児福祉計画」の策定に向け、北区内在住の障害者(障害児を含む。)及び難病患者の生活実態及び障害福祉サービス等利用状況やニーズを調査するとともに、障害福祉政策への意向を把握することを目的としています。

(2) 調査の対象と調査方法

調査の対象	調査方法
北区内在住の、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証または(都)医療券をお持ちの方から無作為に抽出した約4,000人	調査票を郵送配布し、郵送とWebで回収する方法で実施しました。

(3) 調査期間

令和7年12月26日(金)～令和8年1月21日(水) (調査基準日 令和8年1月1日(木))

(4) 配付・回収状況

配付数	回収数	白票(無効票)	有効回収数	有効回収率
4,000	1,761	2	1,759	44.0%

※ 配付数の内訳・・・身体障害 1,800、知的障害 700、精神障害 700、難病 800

◆ 調査結果の見方について

- ① 集計した数値(%)は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値(%)を全て合計しても、100%にならない場合があります。
- ② 回答者数(n数)を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を越えます。
- ③ 表、グラフは、%(小数点以下第1位まで)を表示しています。
- ④ 回答結果を見やすくするため、グラフや表では無回答など一部の項目を省略したり、項目の表現を省略している場合があります。
- ⑤ 障害別の集計では、重複した2つ以上の障害がある方は、それぞれの障害の集計結果に含まれています。このため、障害別の集計を合計したのべ人数は、全体の人数よりも多くなります。
- ⑥ 集計区分によっては回答者数(n数)が少ないため、活用にあたっては注意が必要です。

2 調査結果の概要

●年齢(問 2)

全体では、「75 歳以上」が 30.0%で最も多く、次いで「50～59 歳」14.5%、「60～69 歳」13.2%、と高年齢層が多くなっています。

障害別にみると、身体障害では「75 歳以上」が 48.8%とほぼ半数で、知的障害では「18～29 歳」が 20.5%で最も多く、精神障害では「50～59 歳」が 25.8%で最も多くなっています。

●障害の種類(問 3)

「身体障害」が 51.7%で最も多く、次いで「難病」19.3%、「知的障害」17.2%、「精神障害」16.9%となっています。

●最近 1 年間の通院状況(問 5)

全体では、「月に 1～2 日以内(または 2 週間に 1 日)」が 41.7%で最も高く、次いで「年に数回」31.3%となっています。「週に 1 日以上」は 10.6%と 1 割程度です。

障害別にみると、精神障害では「月に 1～2 日以内」が 67.1%と特に高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満では「年に数回」が最も高いですが、年齢が高くなると「月に 1～2 日以内」「週に 1～3 日」が増えていき、年齢とともに通院頻度は増える傾向にあります。

●住まいの種類(問 6)

全体では、「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が 52.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅」19.8%、「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」18.6%となっています。

障害別にみると、精神障害では「民間賃貸住宅」が他の障害に比べて高くなっています。

●将来の住まいの希望(問 7)

全体では、「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が 44.4%で最も高く、次いで「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」22.0%、「入所施設」9.6%となっています。

障害別にみると、身体障害と難病では「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」、知的障害では「グループホーム」、精神障害では「民間賃貸住宅」「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」が他に比べて高くなっています。

●本人の収入(問 8)

全体では、「障害年金などの年金」が 42.0%で最も高く、次いで「仕事による収入(工賃を含む)」35.1%、「その他」26.4%となっています。

障害別にみると、身体障害では「障害年金などの年金」が最も高く、知的障害と精神障害では「障害年金などの年金」と「仕事による収入(工賃を含む)」が同程度、難病では「仕事による収入(工賃を含む)」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満では「その他」がほぼ 7 割と高く、次が「親族からの援助や仕送り」となっています。18～64 歳では「仕事による収入(工賃を含む)」が 6 割を超え、次いで「障害年金などの年金」となっています。65 歳以上では「障害年金などの年金」が 5 割を超え、次いで「その他」となっています。

●就労状況(問 8-1) <<問 8 で「仕事による収入(工賃を含む)」と回答した方への質問>>

全体では、「会社などの正社員」が 36.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」21.6%、「会社などの契約社員・派遣社員」15.7%となっています。

障害別にみると、知的障害では「就労継続支援B型」が最も高く、難病では「会社などの正社員」が 5 割を超えています。

年齢別にみると、18～64 歳では「会社などの正社員」が最も高いのに対し、65 歳以上では「パート・アルバイト」が最も高く、次いで「自営業」となっています。

●働くために必要な支援(問 10)

全体では、「能力や体調に合った仕事の紹介」47.1%と「障害についての職場での理解と協力」46.3%が同程度で高く、次いで「就職するために必要な情報提供や相談」36.7%となっています。

障害別にみると、知的障害では「障害についての職場での理解と協力」が 6 割弱と高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満は全体的に回答率が高く、多くの支援を必要としています。特に「障害についての職場での理解と協力」は 7 割を超えています。

●介護者(問 11)

全体では、「父母」が 28.2%で最も高く、次いで「夫または妻」26.9%、「子どもやその夫または妻」20.9%となっています。

障害別にみると、身体障害では「夫または妻」が最も高く、知的障害では「父母」が 8 割程度と突出して高くなっています。精神障害では「父母」、難病では「夫または妻」がそれぞれ最も高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満では「父母」が 9 割を超えています。18～64 歳でも「父母」が 4 割程度で最も高く、次は「夫または妻」になっています。65 歳以上では「夫または妻」が最も高くなっており、年齢層によって主な介護者が異なっています。

●主な介護者の年齢(問 11-1) <<問 11 で親族と回答した方への質問>>

全体では、「50 歳代」が 23.1%で最も高く、次いで「75 歳以上」20.5%、「40 歳代」14.6%、「60～64 歳」「65～69 歳」「70～74 歳」が 1 割程度と続き、40 代以上が介護者の中心となっています。

障害別にみると、身体障害と難病では「50 歳代」と「75 歳以上」がそれぞれ 25%程度で高くなっています。知的障害と精神障害では 40～50 代で 5 割弱となっています。

年齢別にみると、18 歳未満では親の年齢である「40 歳代」が半数弱、18～64 歳では 50～60 代で 5 割半ばとなっています。65 歳以上では「75 歳以上」が 3 割強で最も高く、老老介護の傾向がうかがえます。

●外出に関して困っていること(問 15)

全体では、「自力での歩行・移動が困難、不安がある」が31.0%で最も高く、次いで「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」30.6%、「自力での買い物が困難、不安がある」25.6%、「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」20.7%となっています。

障害別にみると、身体障害では「自力での歩行・移動が困難、不安がある」が最も高いのに対し、知的障害では「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」が最も高く、精神障害では「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」と「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」が同程度で高くなっています。一方、難病では「特にない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」と「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」が高く、65歳以上では「自力での歩行・移動が困難、不安がある」が最も高くなっています。

●困ったときの相談先(問 19)

全体では、「家族・親族」が64.4%で最も高く、次いで「かかりつけ医などの医療機関」28.0%、「友人・知人」26.5%となっています。

障害別にみると、どの障害でも「家族・親族」が最も高くなっています。他に知的障害では「障害福祉サービスに係る事業所の職員」が高くなり、精神障害と難病では「かかりつけ医などの医療機関」も高くなっています。

年齢別にみても、どの年齢でも「家族・親族」が最も高く、特に18歳未満では8割近くになっています。18歳未満では「家族・親族」に次いで「学校の先生」が高くなっています。

●相談の内容(問 20)

全体では、「病気や障害の状態について」が48.3%で最も高く、次いで「日常生活について」36.8%、「仕事について」18.5%、「生活費や税金、年金などについて」15.9%、「通院する医療機関について」14.9%となっています。

障害別にみると、身体障害と精神障害、難病では「病気や障害の状態について」が最も高く、知的障害では「日常生活について」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満は「日常生活について」が最も高いのに対し、18歳以上は「病気や障害の状態について」が最も高くなります。18～64歳では、他に比べて「仕事について」も高くなっています。

●相談しやすい体制作りのために必要なこと(問 21)

全体では、「身近なところで相談できること」が 39.7%で最も高く、次いで「プライバシーが守られること」35.0%、「専門的な相談ができること」30.1%、「電話での相談が充実していること」28.9%となっています。

障害別にみると、身体障害では「身近なところで相談できること」「プライバシーが守られること」「電話での相談が充実していること」が 3 割強となっています。知的障害と精神障害では「身近なところで相談できること」が最も高く、難病では「プライバシーが守られること」と「身近なところで相談できること」が高くなっています。

年齢別にみると、年齢が若いほど、「専門的な相談ができること」「相談窓口に関する情報が提供されること」「同じ障害がある人やその家族と相談ができること」は高くなり、逆に年齢が高くなると「電話での相談が充実していること」が高くなっています。

●障害福祉サービスの利用(問 22(1)(2))

現在利用している (n=1, 759)			今後利用したい (n=1, 759)		
1	居宅介護(ホームヘルプ)	7.8%	1	短期入所(ショートステイ)	8.1%
2	放課後等デイサービス	6.9%	2	居宅介護(ホームヘルプ)	7.3%
3	短期入所(ショートステイ)	4.4%	3	同行援護	5.6%
4	生活介護	4.0%	4	生活介護	5.5%
5	就労継続支援(B型)	3.8%	5	放課後等デイサービス	5.2%
	計画相談支援・障害児相談支援	3.8%			

●北区独自サービスの利用(問 23(1)(2))

現在利用している (n=1, 759)			今後利用したい (n=1, 759)		
1	移動支援	7.1%	1	移動支援	11.6%
2	区の相談窓口	6.0%	2	区の相談窓口	9.2%
3	日中一時支援	2.4%	3	日中一時支援	6.5%

●療育に関する希望(問 24)《18 歳未満の障害児の保護者の方への質問》

全体では、「学習に関する支援」57.5%と「友人など人とのかかわり方に関する支援」57.0%がほぼ同率で高く、次いで「療育を行う施設の増設」49.7%、「送り迎えなど通園・通所に関するサービス」47.5%となっています。

障害別にみると、精神障害では「友人など人とのかかわり方に関する支援」「学習に関する支援」が 7 割を超えています。

●学校教育や学校生活への希望(問 25)《18 歳未満の障害児の保護者の方への質問》

全体では、「学習指導」が 76.5%で最も高く、次いで「教職員の理解・支援」62.6%、「生活に関する支援」61.5%、「友人との関係づくり」60.9%までが 6 割を超えています。

障害別にみると、知的障害と精神障害では「学習指導」が 8 割を超えています。精神障害では「教職員の理解・支援」と「友人との関係づくり」も 8 割前後と高くなっています。

●成年後見制度の認知と利用(問 29)

全体では「知っているが、利用したことはない」が 52.9%で最も高く、「知らない」37.2%となっています。「利用したことがある、または、現在利用している」は 1.5%と非常に少なくなっています。

障害別にみると、知的障害では「知っているが、利用したことはない」がほぼ 6 割に達し、「利用したことがある、または、現在利用している」は 2.6%ですが他の障害に比べると高くなっています。精神障害では「知らない」が 4 割を超え、他の障害と比べて高くなっています。

●障害者差別解消法の認知状況(問 30)

全体では、「まったく知らない」が 48.6%で約半数を占めており、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」34.7%となっています。「聞いたことがあり、内容も知っている」は 9.2%と 1 割にとどいていません。

障害別にみると、難病では「まったく知らない」が 5 割を超え、精神障害では「聞いたことがあり、内容も知っている」が他の障害より高くなっています。

●障害を理由とする差別を感じた経験(問 31)

全体では、「特にない」が 56.2%で最も高くなっています。場面別では「電車・バスなどの交通機関で」14.3%が最も高く、次いで「職場で」10.4%となっています。

障害別にみると、知的障害は「特にない」が他の障害に比べて低く、差別を感じた経験が高い傾向があります。具体的には「電車・バスなどの交通機関で」が最も高く、次いで「学校で」、「職場で」、「お店(小売店、飲食店、銀行など)で」となっています。精神障害では「職場で」が最も高く、次いで「電車・バスなどの交通機関で」「学校で」となっています。

年齢別にみると、18 歳未満は「電車・バスなどの交通機関で」「学校で」が高く、18~64 歳は「職場で」が高くなっています。65 歳以上は「特にない」が 6 割を超え、差別を感じたことが少なくなっています。

●災害への不安として感じること(問 34)

全体では、「避難所で必要な支援を受けられるか」が 44.5%で最も高く、次いで「避難所へ移動できるか」41.8%、「必要な情報を入手できるか」41.6%となっています。

障害別にみると、知的障害では「周囲の人に助けてもらえるか」「避難所で必要な支援を受けられるか」「避難所へ移動できるか」が 5 割前後に達しています。精神障害と難病では「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」が 5 割を超えています。

年齢別にみると、18 歳未満では「避難所で必要な支援を受けられるか」「周囲の人に助けてもらえるか」「必要な情報を入手できるか」が 5 割を超えています。

●地域で安心して暮らすために重要な施策(問 38)

全体では、「障害に対する理解や交流の促進」が 45.3%で最も高く、次いで「経済的支援の充実」43.1%、「医療の充実」42.5%と上位 3 項目はあまり差がなく、いずれも 4 割を超えています。

障害別にみると、身体障害では、「医療の充実」「経済的支援の充実」「障害に対する理解や交流の促進」が 4 割程度で高くなっています。知的障害では「障害に対する理解や交流の促進」が最も高く、精神障害では「経済的支援の充実」が最も高くなっています。難病では「医療の充実」が最も高くなっており、障害により、重要と思う施策に違いがでてきます。

年齢別にみると、18 歳未満では「障害児保育・教育・療育の充実」がほぼ 7 割で最も高く、「障害に対する理解や交流の促進」「就労支援の充実」までが 6 割を超えています。65 歳以上では「医療の充実」が最も高くなっています。

●医療的ケア児の方が必要な医療的ケア(問 39) <<医療的ケア児の保護者への質問>>

全体では、「医療的ケアを必要としていない」が 44.2%で最も高く、次いで「その他」30.8%となっています。

障害別にみると、身体障害では「その他」が最も高く、多様なケアが求められています。

※今回の調査では医療的ケア児は 52 人です。

●医療的ケア児のサービス利用状況(問 40～問 41) <<医療的ケア児の保護者への質問>>

区内・区外を合わせた現在利用しているサービスとしては、「放課後等デイサービス」が 19.2%で最も高く、次いで「居宅介護」13.5%、「児童発達支援」「相談支援」がともに 9.6%となっています。「児童発達支援」以外は区内の方が区外より、よく利用されています。

現在利用率と現在利用していない中で今後利用したいサービスを合計した「現在利用も含めた今後利用したいサービス」では、「放課後等デイサービス」が 26.9%で最も高く、次いで「相談支援」25.0%、「移動支援」「居宅介護」「短期入所」「日中一時支援」が 2 割前後となっています。

最も利用したいサービスでは「放課後等デイサービス」「相談支援」が最も高くなっています。

	現在利用している (n=52)				今後利用 (n=52)			
	順位	計	区内	区外	順位	計	現在未利用	最も
放課後等デイサービス	1	19.2%	17.3%	3.8%	1	26.9%	7.7%	15.4%
居宅介護	2	13.5%	11.5%	1.9%	4	19.3%	5.8%	1.9%
児童発達支援	3	9.6%	3.8%	7.7%	7	15.4%	5.8%	9.6%
相談支援		9.6%	9.6%	—	2	25.0%	15.4%	15.4%
在宅レスパイト	5	7.7%	7.7%	—	8	13.5%	5.8%	7.7%
短期入所		7.7%	5.8%	3.8%	5	17.3%	9.6%	9.6%
訪問入浴		7.7%	7.7%	—	9	11.5%	3.8%	1.9%
移動支援	8	5.8%	3.8%	1.9%	3	21.2%	15.4%	7.7%
居宅訪問型児童発達支援	9	3.8%	3.8%	—	10	7.6%	3.8%	—
保育所等訪問支援		3.8%	3.8%	—	11	5.7%	1.9%	—
日中一時支援	11	1.9%	1.9%	—	5	17.3%	15.4%	1.9%

●負担を軽減するために必要と考える支援やサービス(問 46)

《強度行動障害がある方の保護者への質問》

全体では、「送迎などの移動支援」が 43.8%で最も高く、次いで「宿泊での預かり支援」40.6%、「外出時のヘルパー同行支援」34.4%と続いており、外出・移動に関する支援ニーズが強くなっています。

※「強度行動障害者」は 32 人(1.8%)でした。

●情報入手、相談のための支援(問 50) 《中途失聴・難聴者、失語症者の方への質問》

全体では、「身近なところで相談できること」が 27.9%で最も高く、次いで「メールで相談できること」25.4%、「プライバシーが守られること」と「専門的な相談ができること」がともに 21.3%で続いています。

※「中途失聴・難聴者、失語症者」は 122 人(6.9%)でした。

第 2 章

調査結果の詳細

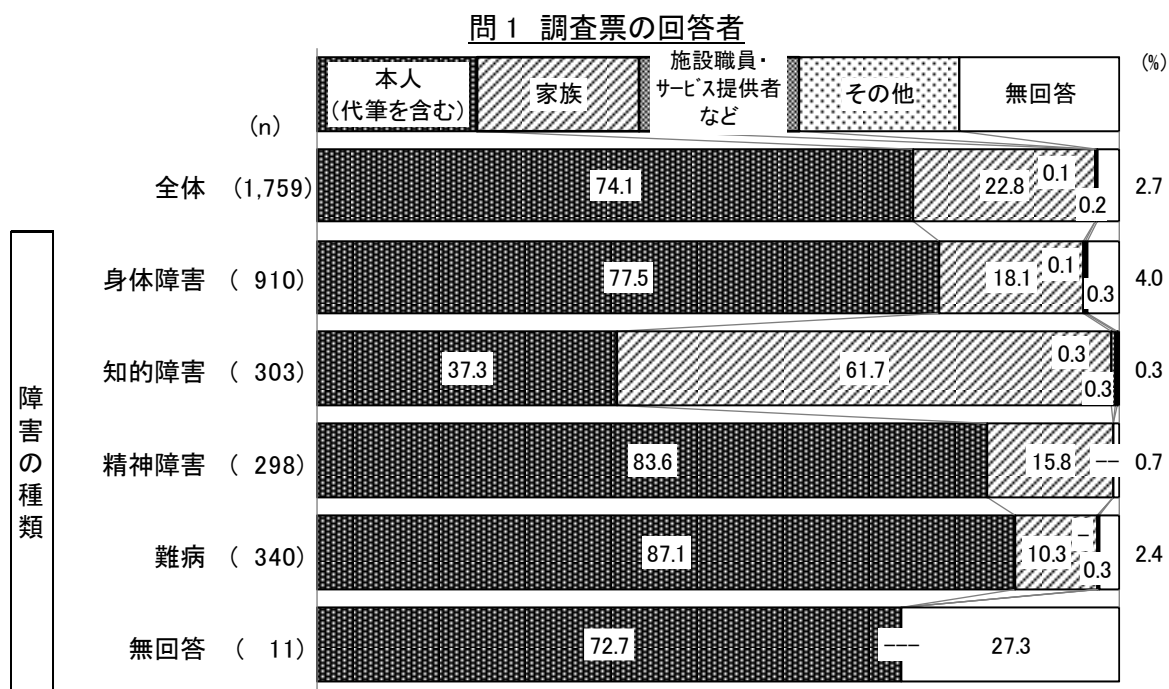
調査票の回答者

問1 すべての方にうかがいます。

このアンケートに回答していただく方はどなたですか。(回答は1つだけ)

全体では、「本人(代筆を含む)」が74.1%で最も高く、次いで「家族」22.8%となっています。

障害別にみると、知的障害では「家族」が61.7%で最も高く、難病では「本人(代筆を含む)」が87.1%と特に高くなっています。



1 ご本人について

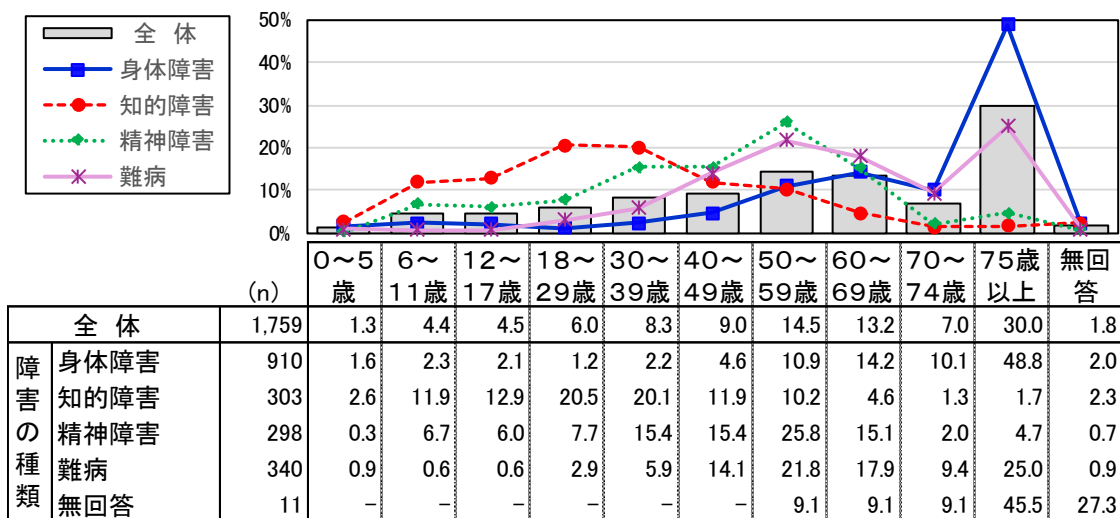
(1) 年齢

問2 すべての方にうかがいます。あなたの年齢をお答えください。

全体では、「75歳以上」が30.0%で最も多く、次いで「50～59歳」14.5%、「60～69歳」13.2%、と高齢層が多くなっています。

障害別にみると、身体障害では「75歳以上」が48.8%とほぼ半数で、知的障害では「18～29歳」が20.5%で最も多く、精神障害では「50～59歳」が25.8%で最も多くなっています。

問2 年齢



身体障害の種類別にみると、免疫機能障害、その他以外では「75歳以上」が5割前後を占めています。回答者数(n)が25人と少なく参考程度となりますが、免疫機能障害では「75歳以上」は4.0%と少なく、「50～59歳」「70～74歳」がそれぞれ24.0%と多くなっています。

問2 年齢(身体障害の種類別)

		(n)	0～5歳	6～11歳	12～17歳	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
全体		910	1.6	2.3	2.1	1.2	2.2	4.6	10.9	14.2	10.1	48.8	2.0
身体障害の種類	視覚	61	-	8.2	1.6	1.6	1.6	1.6	18.0	13.1	4.9	47.5	1.6
	聴覚・平衡機能	89	3.4	4.5	3.4	1.1	4.5	6.7	5.6	5.6	12.4	51.7	1.1
	音声・言語機能・そしゃく	26	-	3.8	-	-	-	3.8	7.7	11.5	19.2	50.0	3.8
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹・運動)	384	0.8	3.4	3.1	1.0	1.8	4.2	10.7	17.2	10.2	46.1	1.6
	内部障害(心臓・肝臓・呼吸器・小腸など)	345	2.6	0.9	1.4	0.9	1.4	3.2	10.4	14.2	9.3	53.0	2.6
	免疫機能障害	25	-	-	-	4.0	12.0	16.0	24.0	16.0	24.0	4.0	-
	その他	22	-	-	4.5	-	-	18.2	36.4	9.1	13.6	18.2	-
無回答	17	-	-	-	5.9	-	-	5.9	-	5.9	70.6	11.8	

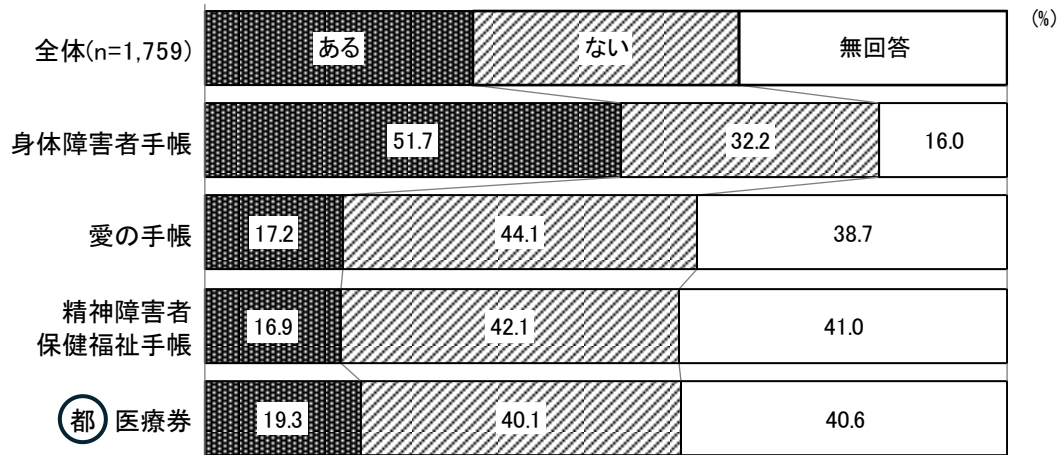
(2) 障害の種類

問3 すべての方にうかがいます。

あなたは次の手帳や(都)医療券をお持ちですか。(回答はそれぞれ1つずつ)

全体では、「身体障害者手帳がある」が51.7%で最も高く、次いで「都医療券(難病医療費助成)がある」19.3%、「愛の手帳がある」17.2%、「精神障害者保健福祉手帳がある」16.9%となっています。

問3 障害の種類



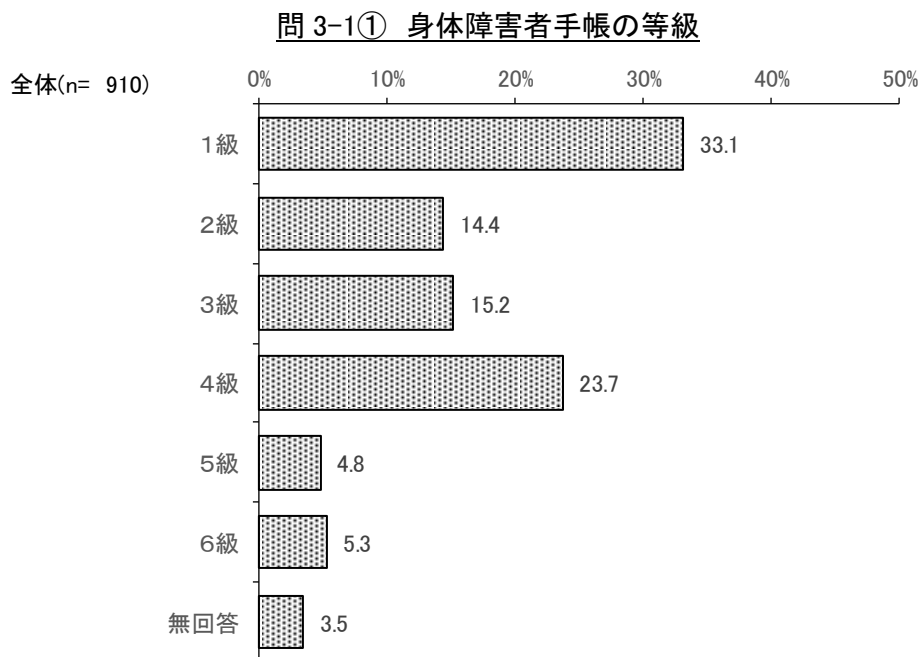
(3) 身体障害者手帳の等級と障害名

《問3の身体障害者手帳で、「2. ある」に回答した方にかがいます》

問3-1 あなたが持っている身体障害者手帳の等級と障害名はどれですか。

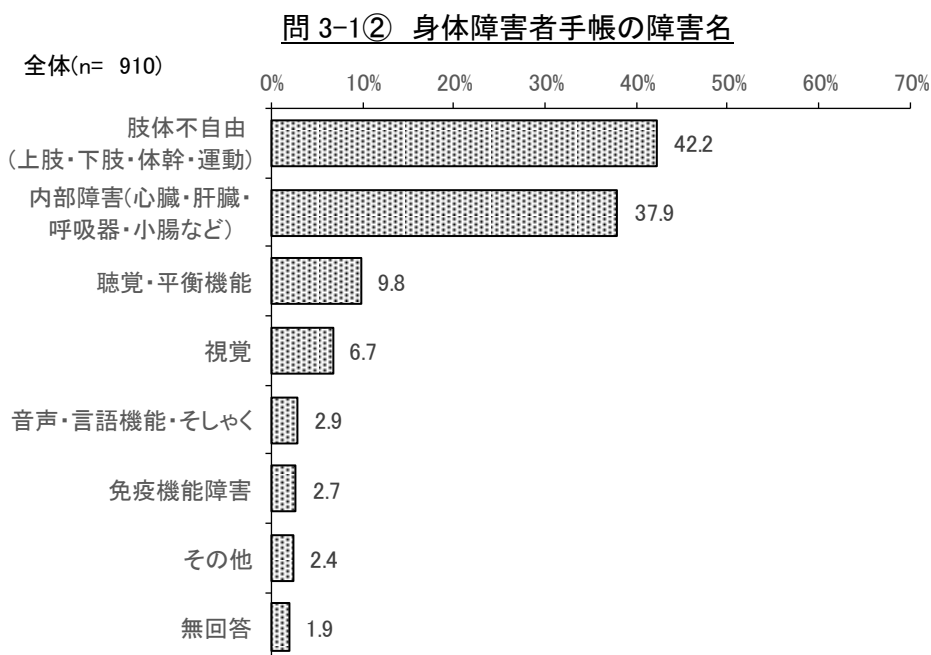
①身体障害者手帳の等級(回答は1つだけ)

全体では、「1級」が33.1%で最も高く、次いで「4級」23.7%、「3級」15.2%、「2級」14.4%となっています。重度な障害に相当する「1級」と「2級」を合わせると47.5%で5割近くになっています。



②身体障害者手帳の障害名(回答はいくつでも)

全体では、「肢体不自由(上肢・下肢・体幹・運動)」が42.2%で最も高く、次いで「内部障害(心臓・肝臓・呼吸器・小腸など)」37.9%、「聴覚・平衡機能」9.8%、「視覚」6.7%となっています。

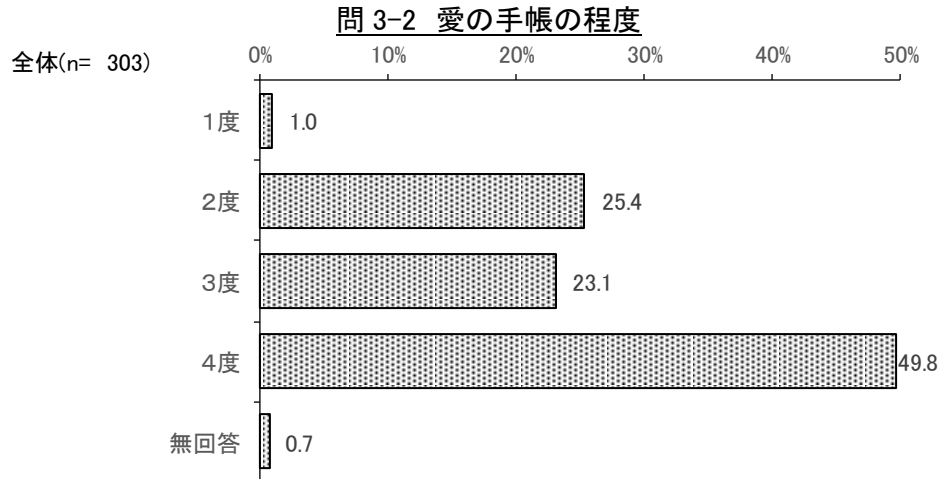


(4) 愛の手帳の程度

《問3の愛の手帳で、「2. ある」に回答した方にうかがいます》

問3-2 あなたが持っている愛の手帳の度数はどれですか。(回答は1つだけ)

全体では、「4度」が49.8%で最も高く、次いで「2度」25.4%、「3度」23.1%、「1度」1.0%となっています。障害の程度が重い「1度」「2度」を合わせると26.4%となっています。



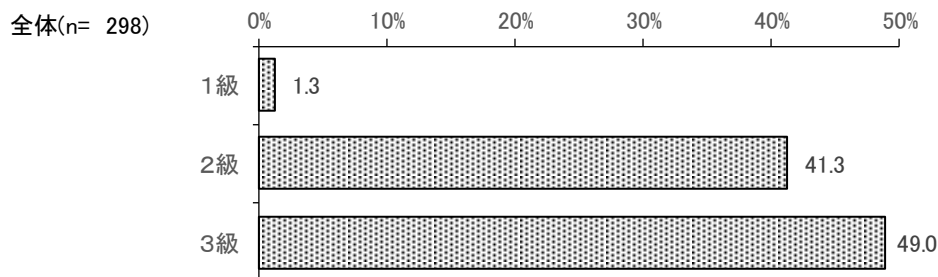
(5) 精神障害者保健福祉手帳の等級と疾病名

「問3の精神障害者保健福祉手帳で、「2. ある」に回答した方にかかっています」
問3-3 あなたが持っている精神障害者保健福祉手帳の等級と疾病名はどれですか。

①精神障害者保健福祉手帳の等級(回答は1つだけ)

全体では、「3級」が49.0%でほぼ5割、次いで「2級」41.3%までで9割を超えます。「1級」は1.3%と非常に少なくなっています。

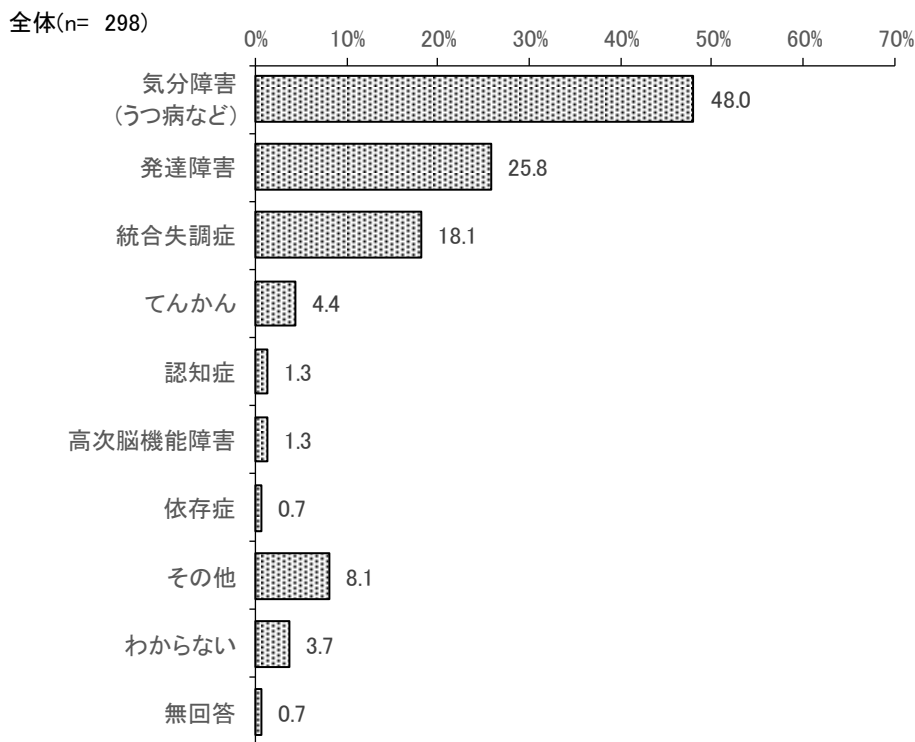
問3-3① 精神障害者保健福祉手帳の等級



②精神障害者保健福祉手帳の疾病名(回答はいくつでも)

全体では、「気分障害(うつ病など)」が48.0%で最も高く、次いで「発達障害」25.8%、「統合失調症」18.1%となっています。

問3-3② 精神障害者保健福祉手帳の疾病名

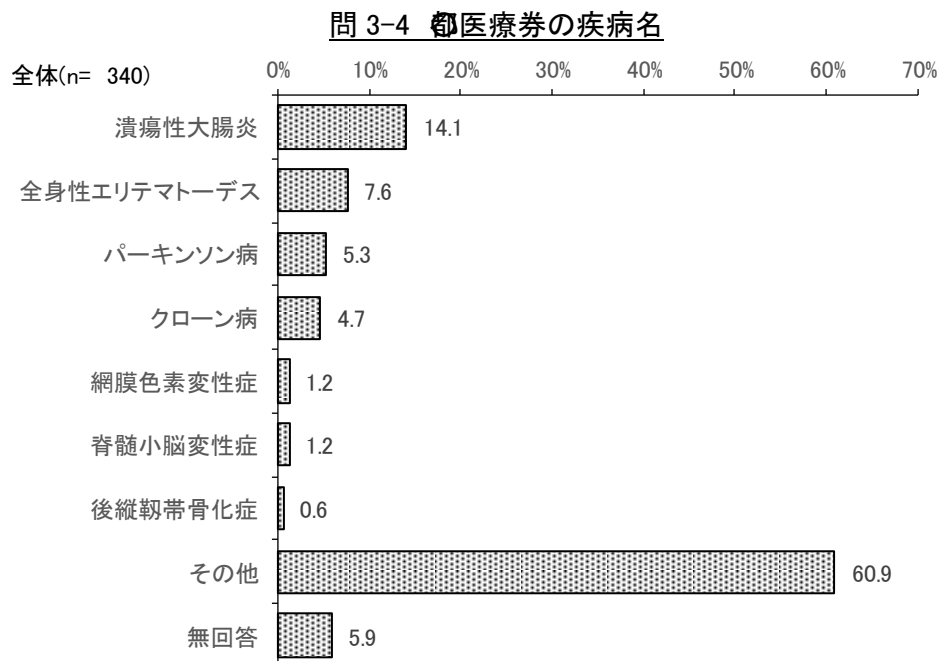


(6) 都医療券の疾病名

《問3の 都医療券(難病医療費助成)で「2. ある」に回答した方にうかがいます》

問3-4 あなたが持っている 都医療券(難病医療費助成)に記されている疾病名はどれですか。(回答はいくつでも)

全体では、「その他」が60.9%で最も高く、難病の疾患が多岐にわたることが示されています。個別疾病では「潰瘍性大腸炎」が14.1%で最も高く、次いで「全身性エリテマトーデス」7.6%、「パーキンソン病」5.3%、「クローン病」4.7%となっています。



(7) 障害支援区分と介護保険制度の要支援・要介護認定

問4 すべての方にうかがいます。あなたの障害支援区分はどれですか。また、介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(それぞれ回答は1つだけ)

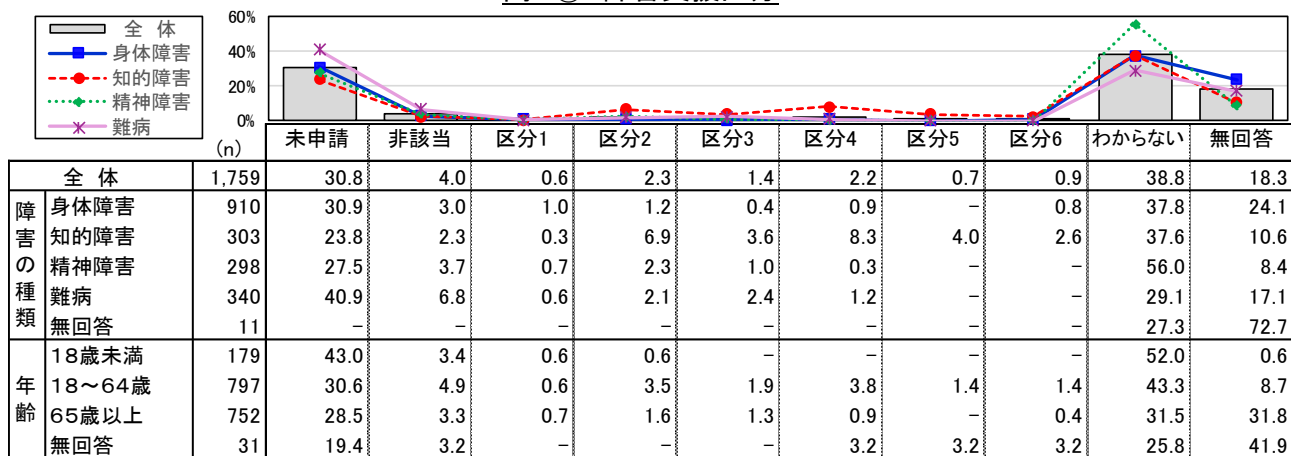
①障害支援区分

全体では、「わからない」が38.8%で最も高く、次の「未申請」30.8%を合わせると約7割が区分未確定となっています。区分認定を受けている方では「区分2」2.3%が最も高くなっています。

障害別にみると、知的障害では「区分4」以上が14.9%と上位区分が多くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「わからない」52.0%と「未申請」43.0%でほとんどを占めています。18～64歳では「わからない」43.3%、「未申請」30.6%、65歳以上では「わからない」31.5%、「未申請」28.5%と、この2項目は年齢が高くなると減少していきます。

問4① 障害支援区分



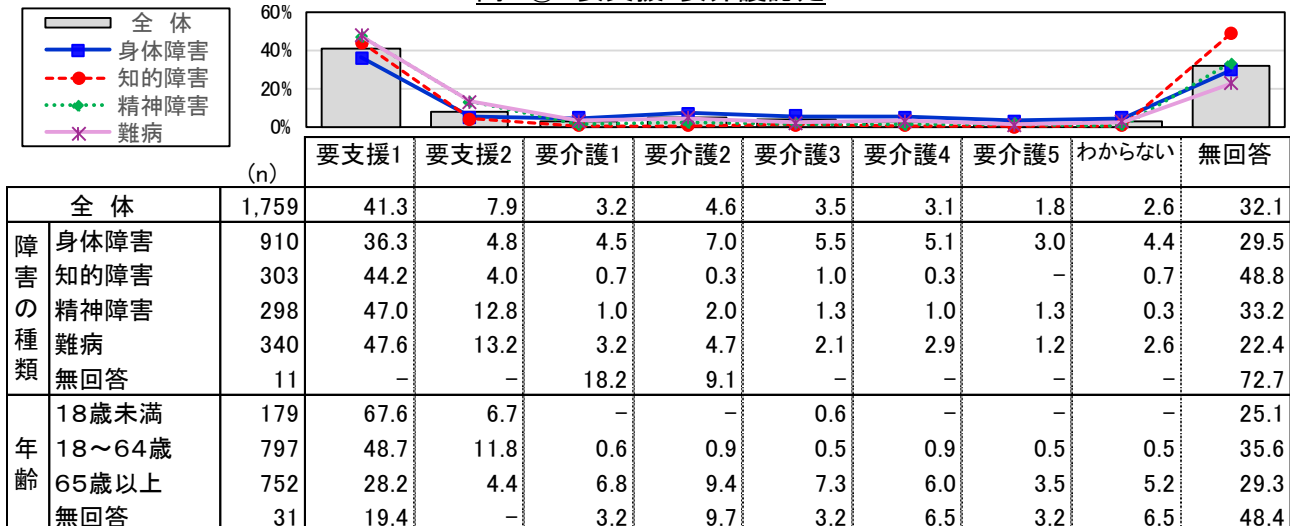
②要支援・要介護認定

全体では、「要支援1」が41.3%で最も高く、次いで「無回答」32.1%となっています。

障害別にみると、どの障害でも「要支援1」が最も高くなっていますが、身体障害は36.3%と少し低く、「要介護1～5」が25.1%と他に比べて高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「要支援1」が7割近くを占めますが、18～64歳では5割程度、65歳以上では3割程度と、年齢が高くなると減少し、介護度は高くなっていきます。

問4② 要支援・要介護認定



2 通院や入院について

(1) 最近 1 年間の通院状況

問 5 すべての方にうかがいます。

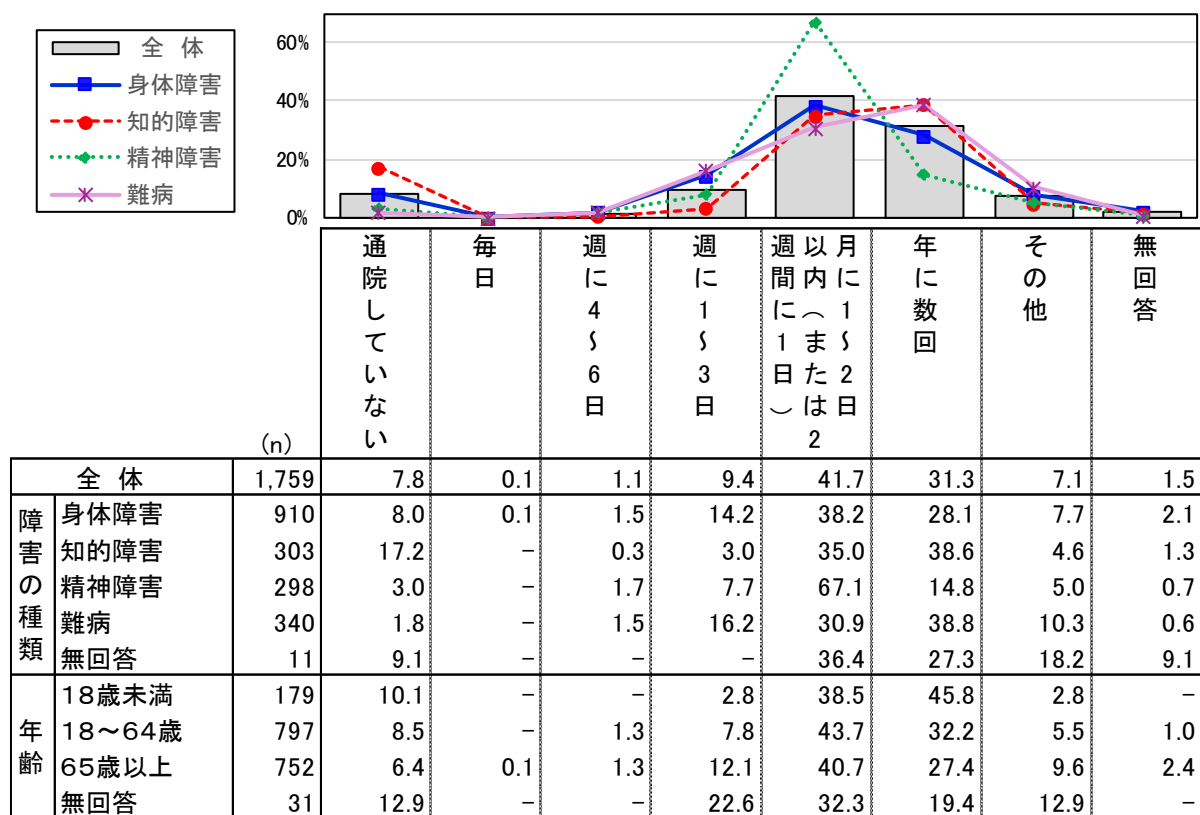
あなたは最近 1 年間で、どれくらい通院しましたか。※入院はのぞく。(回答は 1 つだけ)

全体では、「月に 1～2 日以内(または 2 週間に 1 日)」が 41.7%で最も高く、次いで「年に数回」31.3%となっています。「週に 1 日以上」は 10.6%と 1 割程度です。

障害別にみると、精神障害では「月に 1～2 日以内」が 67.1%と特に高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満では「年に数回」45.8%が最も高いですが、年齢が高くなると「月に 1～2 日以内」「週に 1～3 日」が増えていき、年齢とともに通院頻度は増える傾向にあります。

問 5 最近 1 年間の通院状況



3 住居について

(1) 住まいの種類

問6 すべての方にうかがいます。

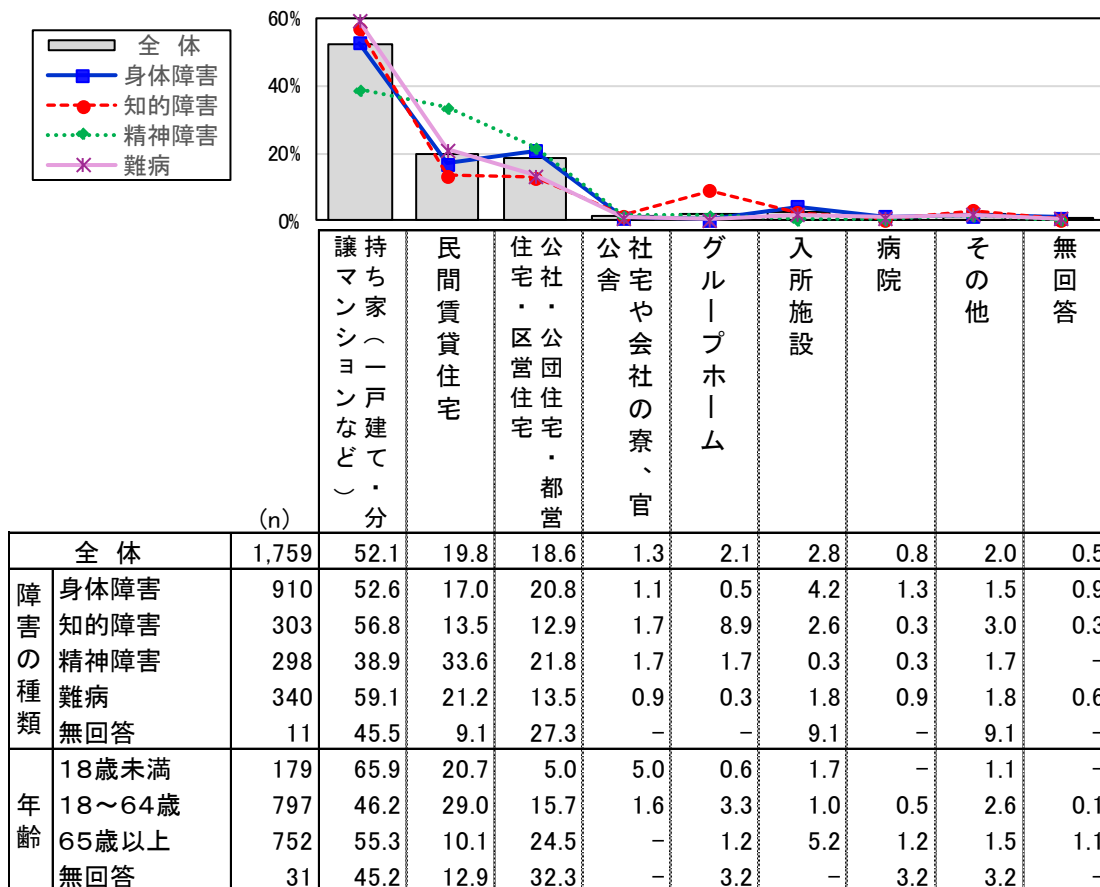
現在、あなたが暮らしているところは次のどれですか。(回答は1つだけ)

全体では、「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が52.1%で最も高く、次いで「民間賃貸住宅」19.8%、「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」18.6%となっています。

障害別にみると、精神障害では「民間賃貸住宅」が33.6%と他の障害に比べて高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢でも「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が最も高くなっていますが、18歳未満では65.9%と特に高くなっています。18～64歳では「民間賃貸住宅」29.0%が他に比べてやや高く、65歳以上では「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」24.5%が他に比べてやや高くなっています。

問6 住まいの種類



(2)同居している人

《問6で「1」～「4」、「8.その他」に回答した方にかがいます》

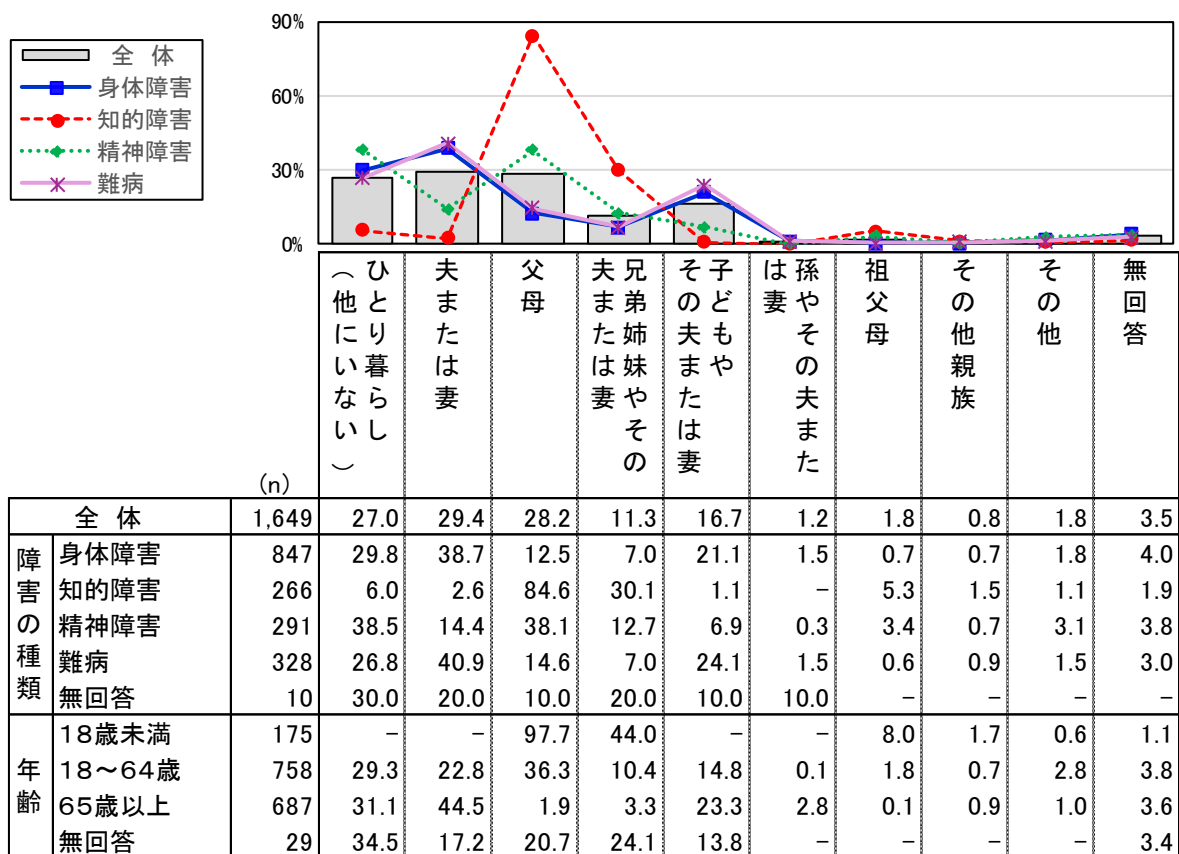
問6-1 現在、だれと暮らしていますか。(回答はいくつでも)

全体では、「夫または妻」が29.4%で最も高く、僅差で「父母」28.2%、「ひとり暮らし(他にいない)」27.0%となっています。

障害別にみると、知的障害では「父母」が84.6%と突出して高く、精神障害では「ひとり暮らし」38.5%と「父母」38.1%がほぼ同じくらいになっています。難病では「夫または妻」40.9%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満は「父母」が97.7%と突出して高く、18～64歳でも「父母」が36.3%で最も高くなっています。65歳以上では「夫または妻」が44.5%で最も高くなっています。

問6-1 同居している人



(3) 将来の住まいの希望

問7 すべての方にうかがいます。

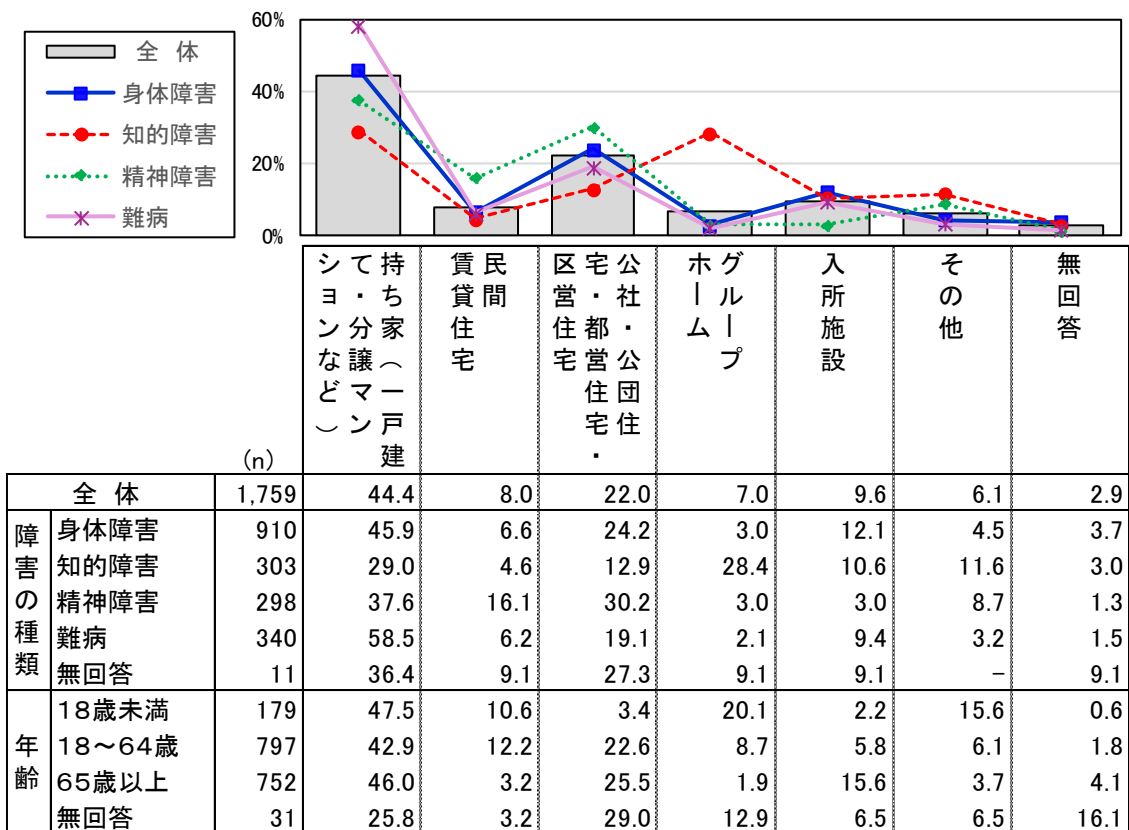
将来はどこで暮らしたいですか。(回答は1つだけ)理由もお答えください。(自由回答)

全体では、「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が44.4%で最も高く、次いで「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」22.0%、「入所施設」9.6%となっています。

障害別にみると、知的障害では「グループホーム」28.4%が他の障害に比べて高く、精神障害では「民間賃貸住宅」16.1%と「公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅」30.2%が他に比べて高く、難病では「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」58.5%が高くなっています。

年齢別にみると、どの年齢も「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が4~5割で最も高くなっていますが、18歳未満では「グループホーム」20.1%が他に比べて高くなっており、65歳以上では「入所施設」15.6%が他に比べて高くなっています。

問7 将来の住まいの希望



問7 将来の住まいの希望(理由)

回 答	理 由
持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	住み慣れた場所で暮らしたい。
持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	物音などを気にせず生活したい。
持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	介護を受けることなく、自分の力で生活するのが理想だから。
持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	家族といたい。
民間賃貸住宅	持ち家に比べて生活様式の変更に伴い転居が容易な為。
公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅	家賃が安いから。
公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅	更新料が無く、清掃等管理体制がしっかりしている。
公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅	足が悪いので手すりなどの付いている公団などに住みたい。
グループホーム	一人暮らしは難しく、サポートが必要な為。
グループホーム	支援してくれるスタッフがいたら安心だから。1人ではなく寂しくないから。
グループホーム	子供たちに迷惑をかけたくない。ショートステイを利用しているが楽しい。
入所施設	介護が必要になったら、介護の専門家がいる施設に入ることが、私自身と家族にとって安全であり合理的と考えている。
入所施設	これ以上介護が必要な状態になると家族だけの介護が難しいため。
入所施設	生活全般に介護が必要なため。

(4) グループホーム生活で不安なことや支援してほしいこと

《問7で「4. グループホーム」に回答した方にうかがいます》

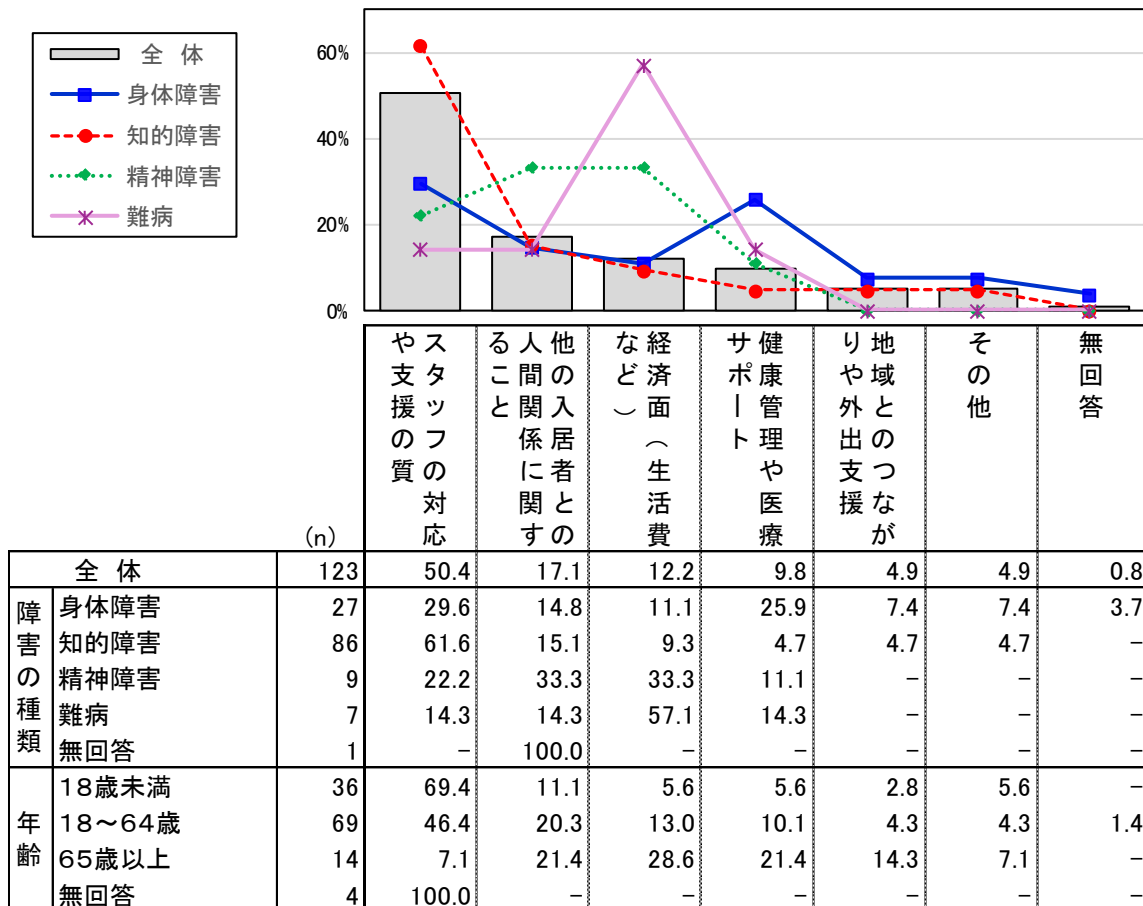
問7-1 グループホームで生活するにあたり不安なことや支援してほしいことはどんなことですか。(回答は1つだけ)

全体では、「スタッフの対応や支援の質」が50.4%で最も高く、次いで「他の入居者との人間関係に関すること」17.1%、「経済面(生活費など)」12.2%、「健康管理や医療サポート」9.8%となっています。

障害別にみると、知的障害では「スタッフの対応や支援の質」が61.6%と6割を超えています。回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、精神障害(n=9)では「他の入居者との人間関係に関すること」「経済面(生活費など)」が3割を超えており、難病(n=7)では「経済面(生活費など)」が3割近くになっています。

年齢別にみると、18歳未満では「スタッフの対応や支援の質」が69.4%とかなり高くなっています。回答者数が少なく参考程度となりますが、65歳以上(n=14)では「経済面(生活費など)」が3割弱で最も高くなっています。

問7-1 グループホーム生活で不安なことや支援してほしいこと



(5) 入所施設生活で不安なことや支援してほしいこと

《問7で「5. 入所施設」に回答した方にうかがいます》

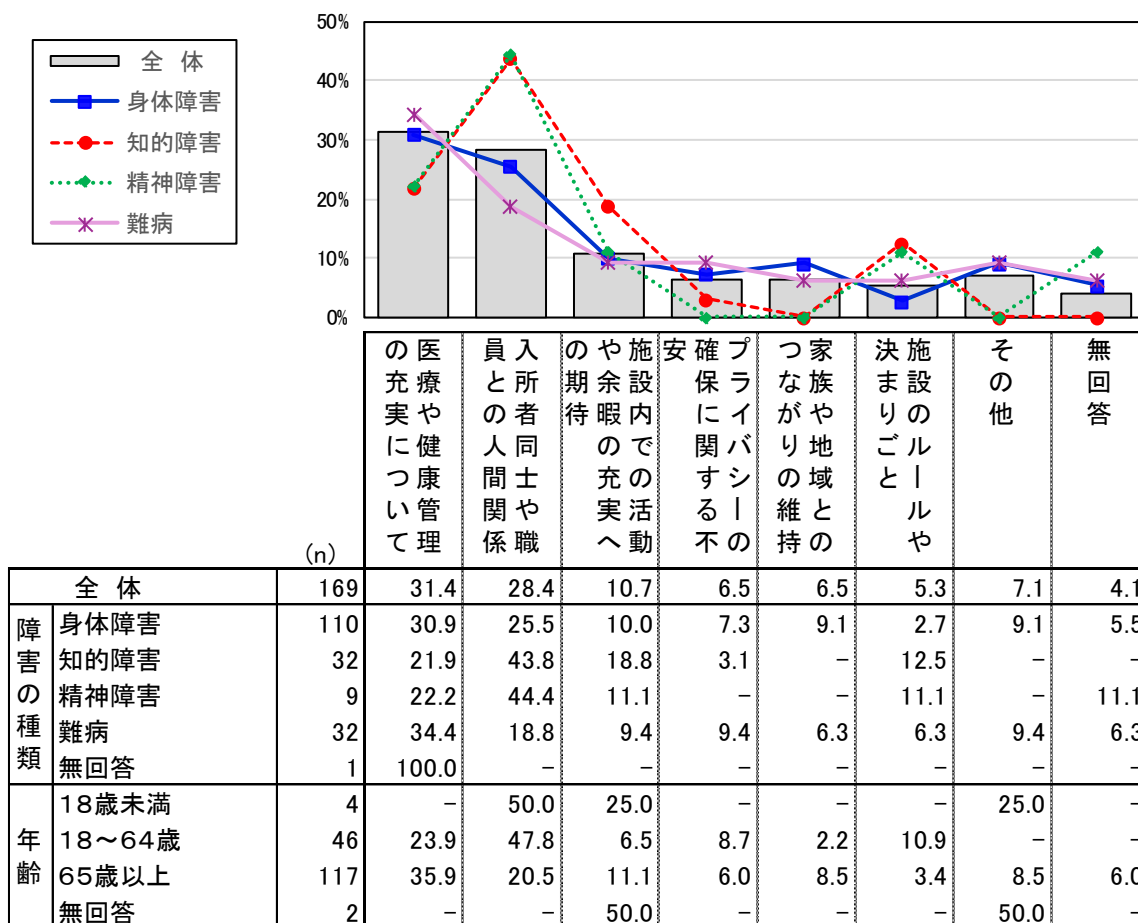
問7-2 入所施設で生活するにあたり不安なことや支援してほしいことはどんなことですか。
(回答は1つだけ)

全体では、「医療や健康管理の充実について」31.4%と「入所者同士や職員との人間関係」28.4%が3割前後で高くなっています。

障害別にみると、知的障害と回答者数が少なく参考程度となりますが、精神障害(n=9)では「入所者同士や職員との人間関係」が4割を超え、最も高くなっています。

年齢別にみると、18～64歳では「入所者同士や職員との人間関係」47.8%が最も高く、65歳以上では「医療や健康管理の充実について」35.9%が最も高くなっています。

問7-2 入所施設生活で不安なことや支援してほしいこと



4 収入・就労について

(1) 本人の収入

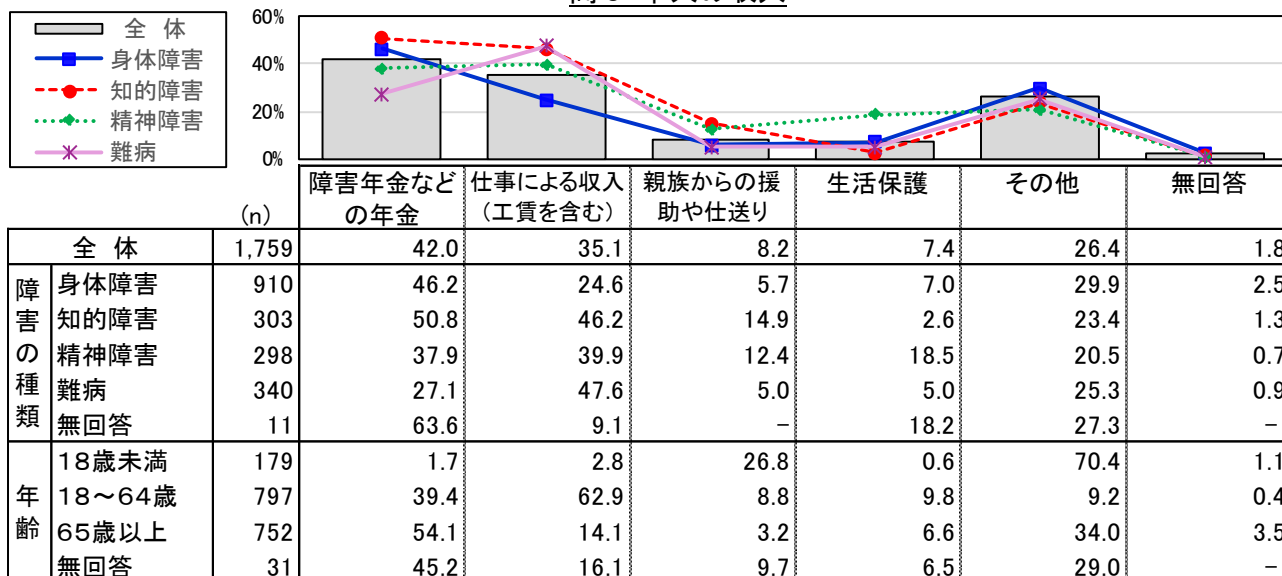
問8 すべての方にうかがいます。
あなたの収入はどれですか。(回答はいくつでも)

全体では、「障害年金などの年金」が42.0%で最も高く、次いで「仕事による収入(工賃を含む)」35.1%、「その他」26.4%となっています。

障害別にみると、身体障害では「障害年金などの年金」が最も高く、知的障害と精神障害では「障害年金などの年金」と「仕事による収入(工賃を含む)」が同程度、難病では「仕事による収入(工賃を含む)」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「その他」70.4%が最も高く、次が「親族からの援助や仕送り」26.8%となっています。18～64歳では「仕事による収入(工賃を含む)」62.9%が最も高く、次いで「障害年金などの年金」39.4%となっています。65歳以上では「障害年金などの年金」54.1%が最も高く、次いで「その他」34.0%となっています。

問8 本人の収入



精神障害の種類別にみると、統合失調症では「障害年金などの年金」が51.9%と最も高く、気分障害(うつ病など)では「仕事による収入」43.4%と「障害年金などの年金」41.3%が同程度で、発達障害では「仕事による収入」37.7%と「その他」36.4%が高くなっています。

問8 本人の収入(精神障害の種類別)

		(n)	障害年金などの年金	仕事による収入(工賃を含む)	親族からの援助や仕送り	生活保護	その他	無回答
全体		298	37.9	39.9	12.4	18.5	20.5	0.7
精神障害の種類	統合失調症	54	51.9	38.9	14.8	25.9	3.7	-
	気分障害(うつ病など)	143	41.3	43.4	10.5	23.8	16.1	0.7
	発達障害	77	20.8	37.7	20.8	10.4	36.4	-

※回答者数(n数)が30以上のものだけを記載

(2) 就労状況

《問 8 で「1. 仕事による収入(工賃を含む)」に回答した方にうかがいます》

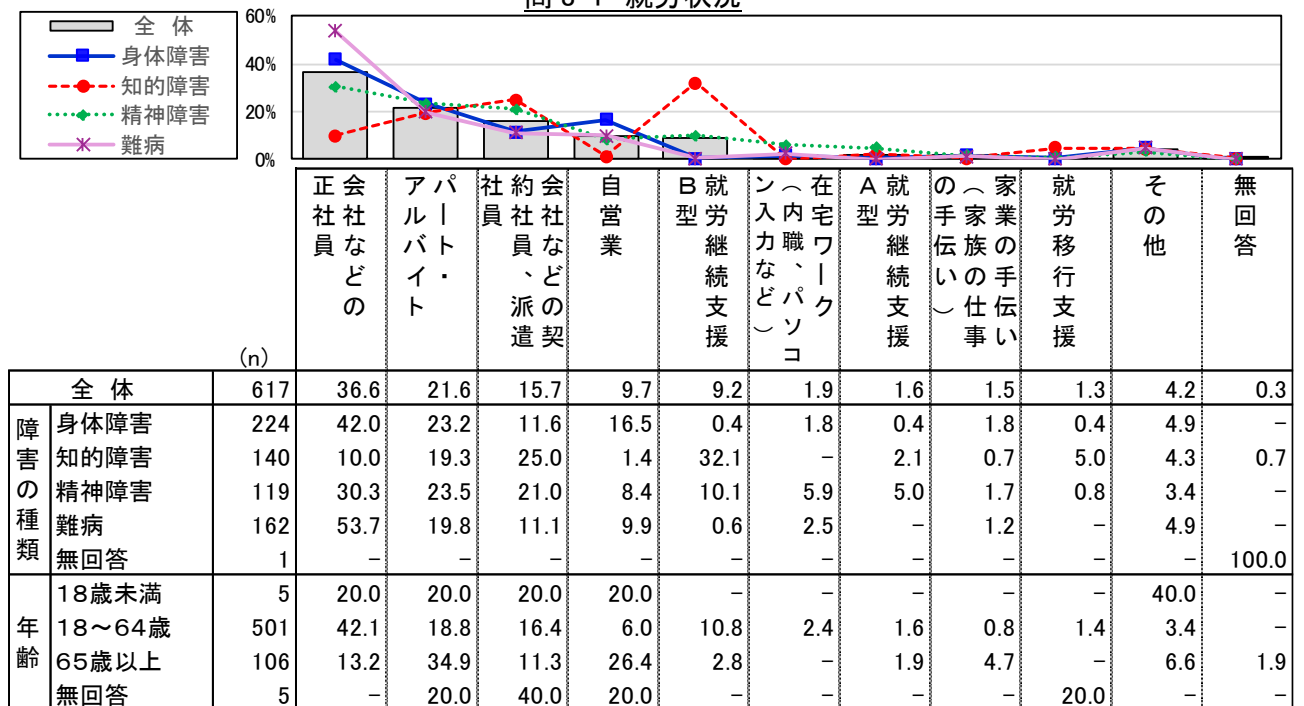
問 8-1 現在、どのような形で仕事をしていますか。(回答はいくつでも)

全体では、「会社などの正社員」が 36.6%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」21.6%、「会社などの契約社員・派遣社員」15.7%となっています。

障害別にみると、知的障害では「就労継続支援B型」32.1%が最も高く、難病では「会社などの正社員」が 5 割を超えています。

年齢別にみると、18～64 歳では「会社などの正社員」42.1%が最も高いのに対し、65 歳以上では「パート・アルバイト」34.9%が最も高く、次いで「自営業」26.4%となっています。

問 8-1 就労状況



精神障害の種類別にみると、気分障害(うつ病など)と発達障害では「会社などの正社員」が最も高くなっているのに対して、回答者数が少なく参考程度となりますが、統合失調症(n=21)では「パート・アルバイト」が最も高くなっています。

問 8-1 就労状況(精神障害の種類別)

		(n)	正社員などの	パート・アルバイト	社員、派遣契約	自営業	B型就労継続支援	(内職、パソコン入力など)	在宅ワーク	A型就労継続支援	(家族の手伝い)	家業の手伝い	就労移行支援	その他	無回答
全体		119	30.3	23.5	21.0	8.4	10.1	5.9	5.0	1.7	0.8	3.4	-		
精神障害の種類	統合失調症	21	14.3	38.1	9.5	9.5	19.0	-	14.3	-	-	-	-	-	-
	気分障害(うつ病など)	62	32.3	17.7	24.2	11.3	8.1	6.5	3.2	3.2	1.6	4.8	-		
	発達障害	29	41.4	13.8	27.6	3.4	6.9	10.3	-	-	-	3.4	-		
	その他	10	20.0	20.0	30.0	10.0	-	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	

※回答者数(n数)が10以上のものだけを記載

(3) 1ヶ月あたりの収入額

「問8で「1. 仕事による収入(工賃を含む)」に回答した方にうかがいます」

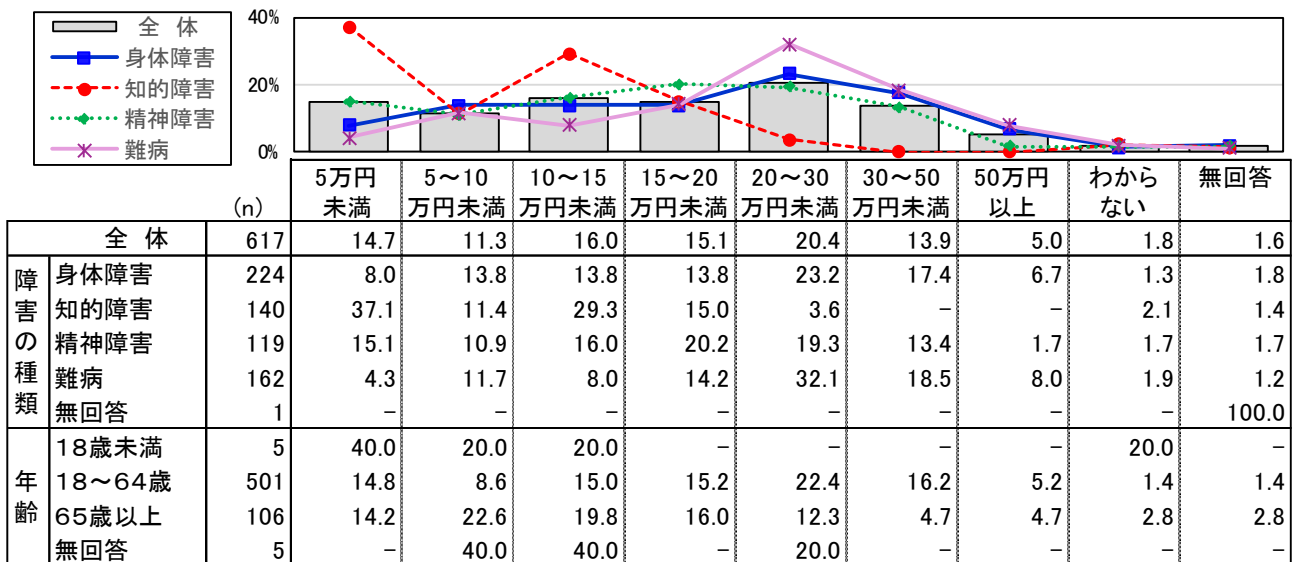
問8-2 あなたの収入額は月平均どれぐらいですか。(回答は1つだけ)

全体では、「20～30万円未満」20.4%が最も高く、次いで「10～15万円未満」16.0%、「15～20万円未満」15.1%、僅差で「5万円未満」14.7%が続きます。

障害別にみると、知的障害では「5万円未満」37.1%が最も高いのに対し、難病では「20～30万円未満」32.1%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18～64歳では「20～30万円未満」22.4%が最も高く、次いで「30～50万円未満」16.2%と、比較的高額の収入を得ています。65歳以上では「5～10万円未満」22.6%が最も高く、次いで「10～15万円未満」19.8%となっています。

問8-2 1ヶ月あたりの収入額



就労形態別にみると、会社などの正社員では「20～30万円未満」38.5%が最も高く、パート・アルバイトでは「5～10万円未満」33.1%が最も高くなっています。就労継続支援B型では「5万円未満」84.2%が大多数を占めており、就労形態による収入格差が顕著となっています。

問8-2 1ヶ月あたりの収入額(就労形態別)

		(n)	5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～30万円未満	30～50万円未満	50万円以上	わからない	無回答
全体		617	14.7	11.3	16.0	15.1	20.4	13.9	5.0	1.8	1.6
就労形態	自営業	60	11.7	13.3	18.3	11.7	16.7	15.0	6.7	5.0	1.7
	会社などの正社員	226	1.3	0.4	5.3	11.1	38.5	30.1	11.9	0.9	0.4
	会社などの契約社員、派遣社員	97	2.1	8.2	28.9	33.0	22.7	2.1	-	1.0	-
	パート・アルバイト	133	12.0	33.1	26.3	20.3	4.5	0.8	-	1.5	1.5
	就労継続支援B型	57	84.2	3.5	8.8	-	-	-	-	1.8	-

※回答者数(n数)が30以上のものだけを記載

(4) 将来の仕事への希望

問9 すべての方にうかがいます。

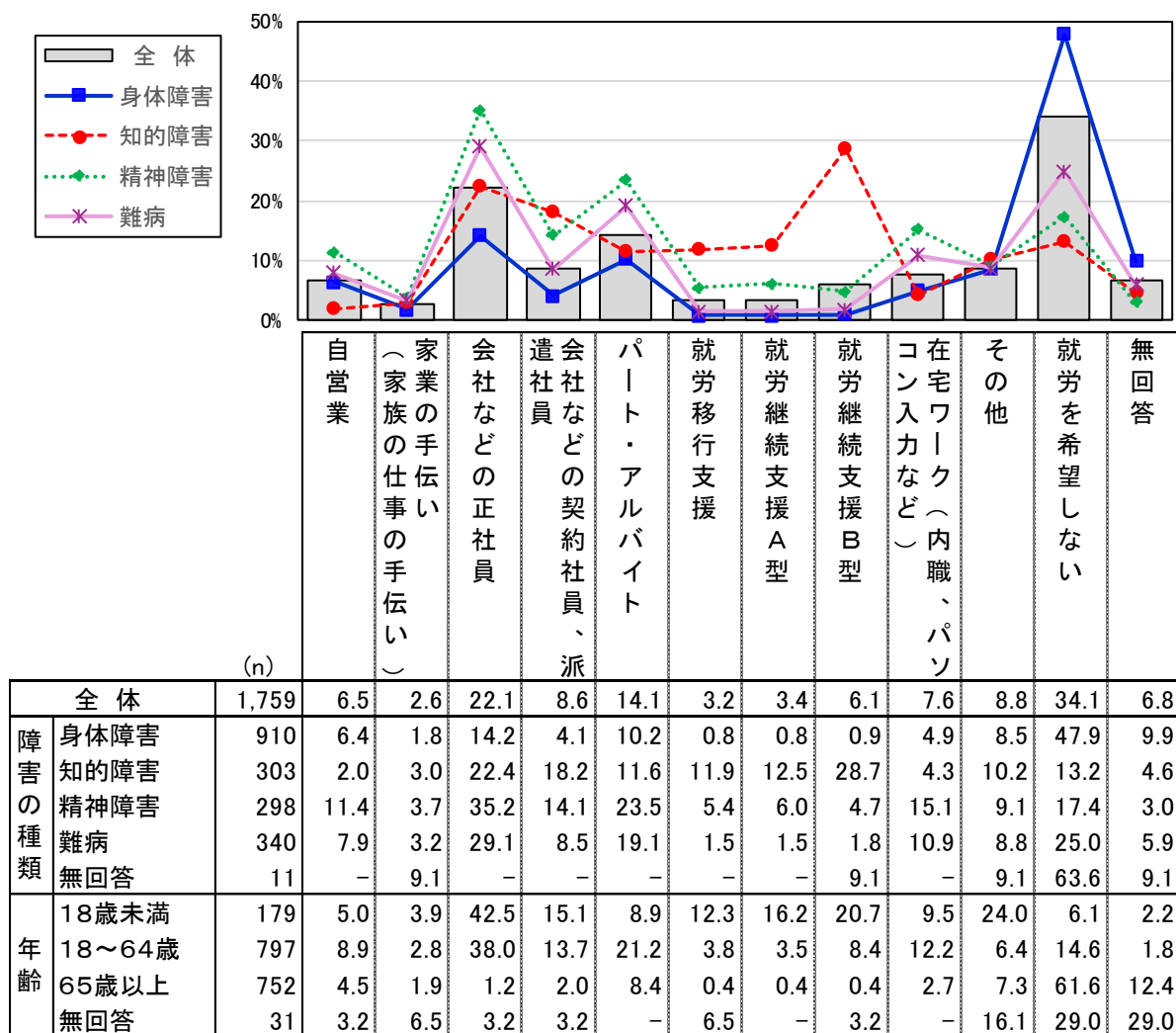
あなたは今後、どのような形で仕事をしたいですか。(回答はいくつでも)

全体では、「就労を希望しない」が34.1%で最も高く、次いで「会社などの正社員」22.1%、「パート・アルバイト」14.1%となっています。

障害別にみると、身体障害では「就労を希望しない」47.9%が最も高いのに対し、知的障害では「就労継続支援B型」28.7%が最も高く、精神障害では「会社などの正社員」35.2%が最も高くなっています。

年齢別にみると、64歳以下では「会社などの正社員」が4割程度で最も高いのに対し、65歳以上では「就労を希望しない」が61.6%と6割を超えています。

問9 将来の仕事への希望



精神障害の種類別にみると、発達障害では「会社などの正社員」58.4%が特に高くなっています。気分障害(うつ病など)でも「会社などの正社員」33.6%が最も高く、統合失調症では「パート・アルバイト」25.9%、「就労を希望しない」24.1%が高くなっています。

問9 将来の仕事への希望(精神障害の種類別)

		(n)	自営業	家の仕事の手伝い(家族の手伝い)	会社などの正社員	会社などの契約社員、派遣社員	パート・アルバイト	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	在宅ワーク(内職、パソコン入力など)	その他	就労を希望しない	無回答
全体		298	11.4	3.7	35.2	14.1	23.5	5.4	6.0	4.7	15.1	9.1	17.4	3.0
精神障害の種類	統合失調症	54	9.3	3.7	20.4	9.3	25.9	5.6	14.8	13.0	14.8	7.4	24.1	3.7
	気分障害(うつ病など)	143	14.0	3.5	33.6	16.1	28.7	6.3	4.2	3.5	18.2	7.7	16.8	2.1
	依存症	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-
	てんかん	13	23.1	7.7	30.8	-	23.1	7.7	15.4	-	30.8	-	15.4	15.4
	認知症	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	発達障害	77	14.3	3.9	58.4	19.5	19.5	5.2	3.9	3.9	13.0	13.0	9.1	-
	高次脳機能障害	4	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	その他	24	16.7	8.3	25.0	16.7	16.7	-	4.2	-	20.8	8.3	16.7	4.2
	わからない	11	-	-	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	-	-	18.2	36.4	-
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

(5) 就労への不安

「問9で「3. 会社などの正社員」、「4. 会社などの契約社員、派遣社員」、「5. パート・アルバイト」に回答した方にかがいます」

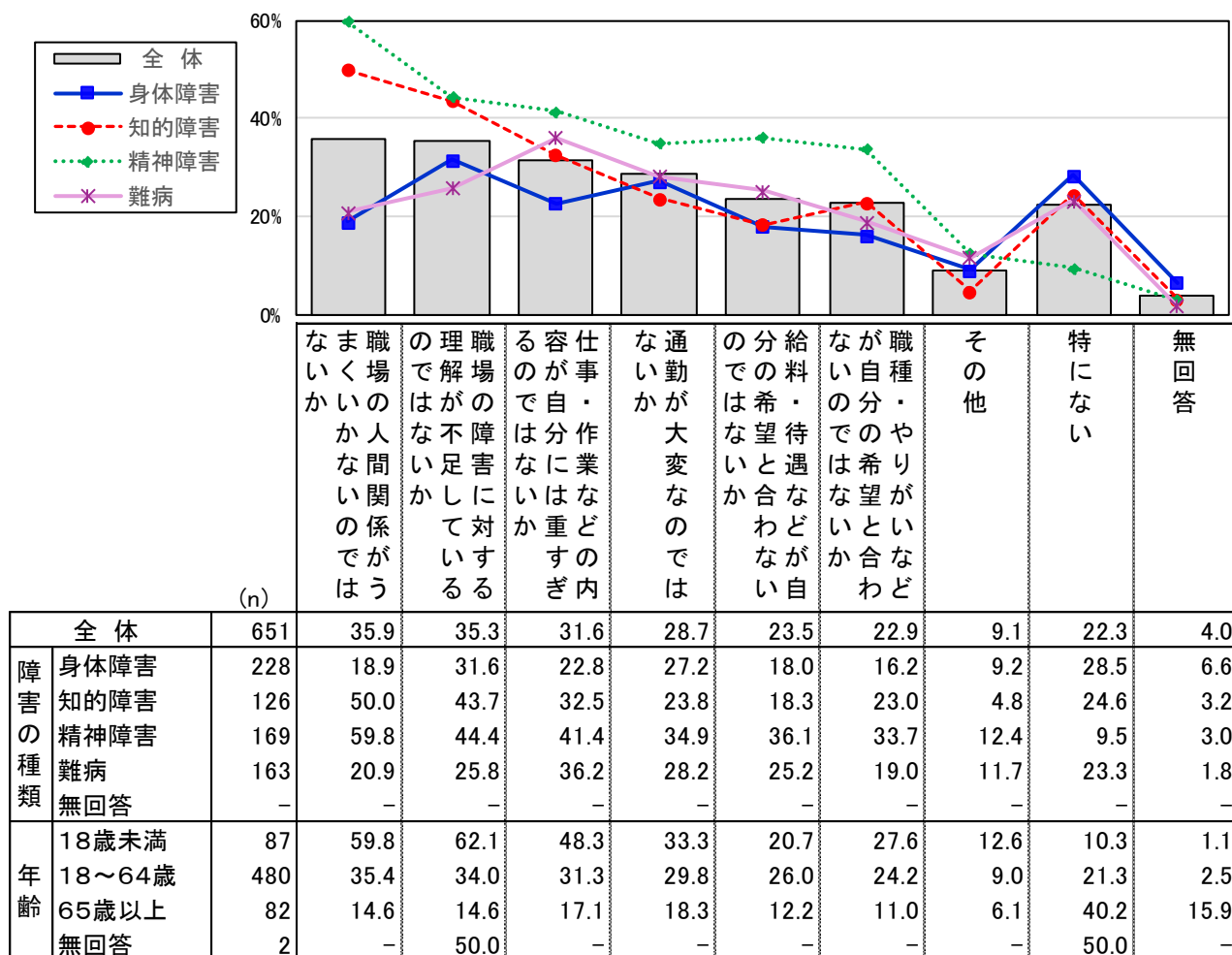
問9-1 会社などで働くにあたり心配なことはありますか。(回答はいくつでも)

全体では、「職場の人間関係がうまくいかないのではないか」35.9%と「職場の障害に対する理解が不足しているのではないか」35.3%が同程度で高く、次いで「仕事・作業などの内容が自分には重すぎるのではないか」31.6%、「通勤が大変なのではないか」28.7%となっています。

障害別にみると、身体障害では「職場の障害に対する理解が不足しているのではないか」31.6%が最も高いのに対し、知的障害と精神障害では「職場の人間関係がうまくいかないのではないか」が5～6割で最も高くなっています。一方、難病では「仕事・作業などの内容が自分には重すぎるのではないか」36.2%が最も高くなっています。

年齢別にみると、年齢が若いほど「特にない」は低く、不安が大きくなっています。特に18歳未満では「職場の障害に対する理解が不足しているのではないか」と「職場の人間関係がうまくいかないのではないか」が6割程度になっています。一方、65歳以上では「特にない」が40.2%と他よりも高く、不安自体が64歳以下に比べて少ないです。不安の内容も「通勤が大変なのではないか」18.3%、「仕事・作業などの内容が自分には重すぎるのではないか」17.1%と自分の体力や能力に対するものが高くなっています。

問9-1 就労への不安



将来の仕事への希望別にみると、回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、就労移行支援(n=30)、就労継続支援A型(n=28)、就労継続支援B型(n=24)では「職場の人間関係がうまくいかないのではないか」「職場の障害に対する理解が不足しているのではないか」「仕事・作業などの内容が自分には重すぎるのではないか」が6割以上と不安が強くなっています。

問 9-1 就労への不安(将来の仕事への希望別)

		(n)	なま いく か い の か な 間 い の 係 で が は う	職 場 の 人 間 関 係 が う ま く い か な い の で は な い か	の 理 解 が 不 足 し て い る か	職 場 の 障 害 に 対 し て 理 解 が 不 足 し て い る か	容 易 な 作 業 な ど の 内 容 が 自 分 に は 重 さ り な い か	仕 事 の 内 容 が 自 分 に は 重 さ り な い か	な 通 勤 が 大 変 な の で は な い か	分 給 の 料 金 が 高 い の で は な い か	給 料 の 希 望 と 合 わ な い の で は な い か	な が 自 分 の 希 望 と 合 わ な い の で は な い か	職 種 の 希 望 と 合 わ な い の で は な い か	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		651	35.9	35.3	31.6	28.7	23.5	22.9	9.1	22.3	4.0					
将来の 仕事 への 希望	自営業	36	44.4	38.9	38.9	27.8	38.9	36.1	16.7	19.4	2.8					
	家業の手伝い (家族の仕事の手伝い)	16	56.3	50.0	62.5	56.3	31.3	50.0	12.5	12.5	-					
	会社などの正社員	389	39.8	37.5	32.1	33.4	27.8	25.2	9.8	17.2	1.5					
	会社などの契約社員、 派遣社員	152	46.7	41.4	38.8	32.9	26.3	32.9	12.5	23.0	-					
	パート・アルバイト	248	36.3	37.5	39.5	28.2	21.8	25.8	10.5	23.8	8.1					
	就労移行支援	30	63.3	66.7	66.7	40.0	43.3	53.3	6.7	3.3	3.3					
	就労継続支援A型	28	67.9	71.4	64.3	53.6	39.3	57.1	7.1	3.6	3.6					
	就労継続支援B型	24	75.0	79.2	70.8	54.2	33.3	62.5	12.5	4.2	-					
	在宅ワーク(内職、パソ コン入力など)	85	50.6	58.8	58.8	57.6	35.3	47.1	15.3	4.7	1.2					
	その他	12	50.0	50.0	58.3	50.0	25.0	50.0	8.3	16.7	-					

(6) 働くために必要な支援

問 10 すべての方にうかがいます。

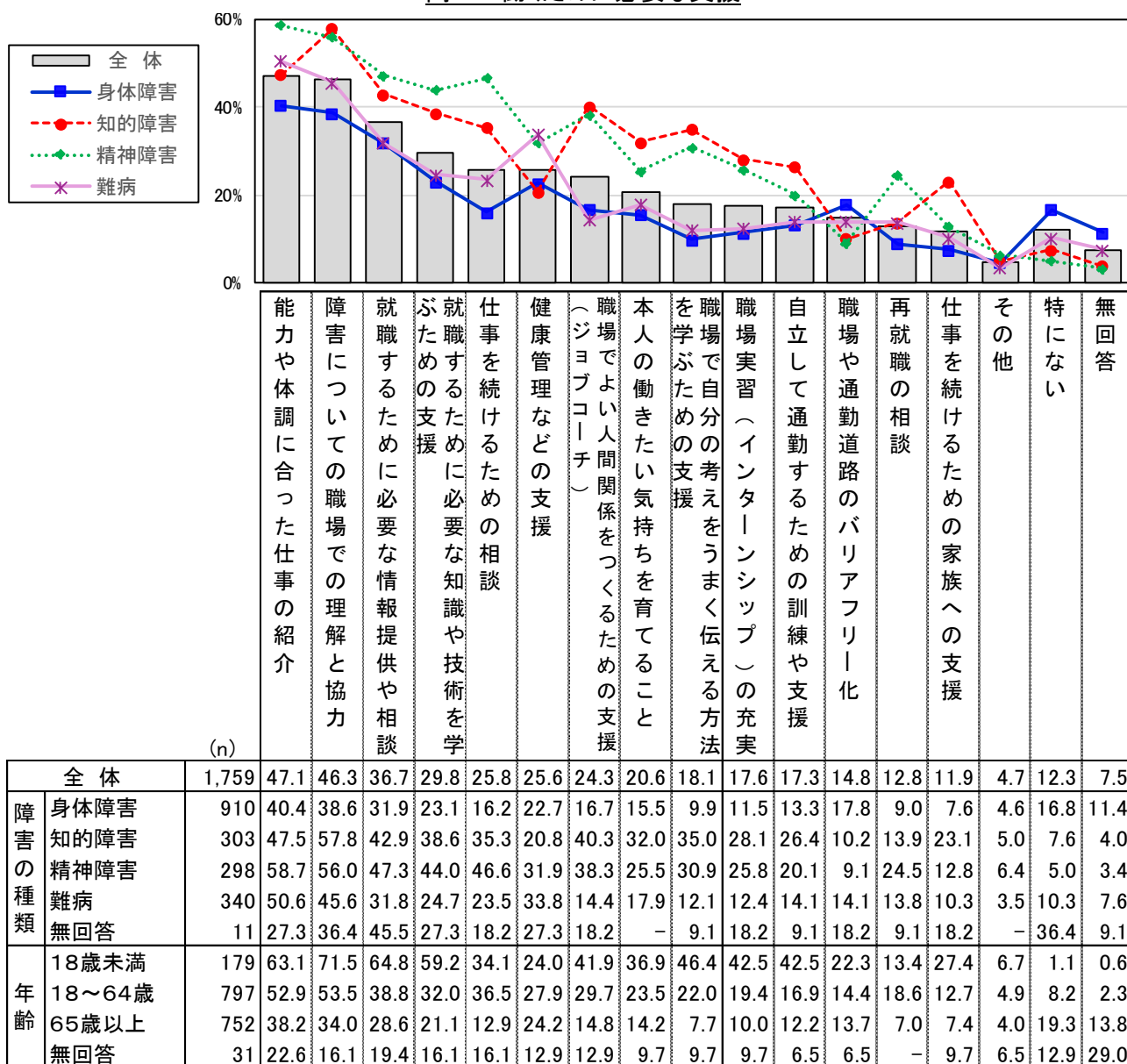
障害者が働くにあたり、必要な支援は何だと思えますか。(回答はいくつでも)

全体では、「能力や体調に合った仕事の紹介」47.1%と「障害についての職場での理解と協力」46.3%が同程度で高く、次いで「就職するために必要な情報提供や相談」36.7%となっています。

障害別にみると、知的障害では「障害についての職場での理解と協力」57.8%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満は全体的に回答率が高く、多くの支援を必要としています。特に「障害についての職場での理解と協力」は71.5%と7割を超えています。65歳以上は「特にない」19.3%が64歳以下より高く、最も回答率が高い「能力や体調に合った仕事の紹介」でも38.2%と4割に達していません。

問 10 働くために必要な支援



5 介護・支援について

(1) 介護者

問 11 すべての方にうかがいます。

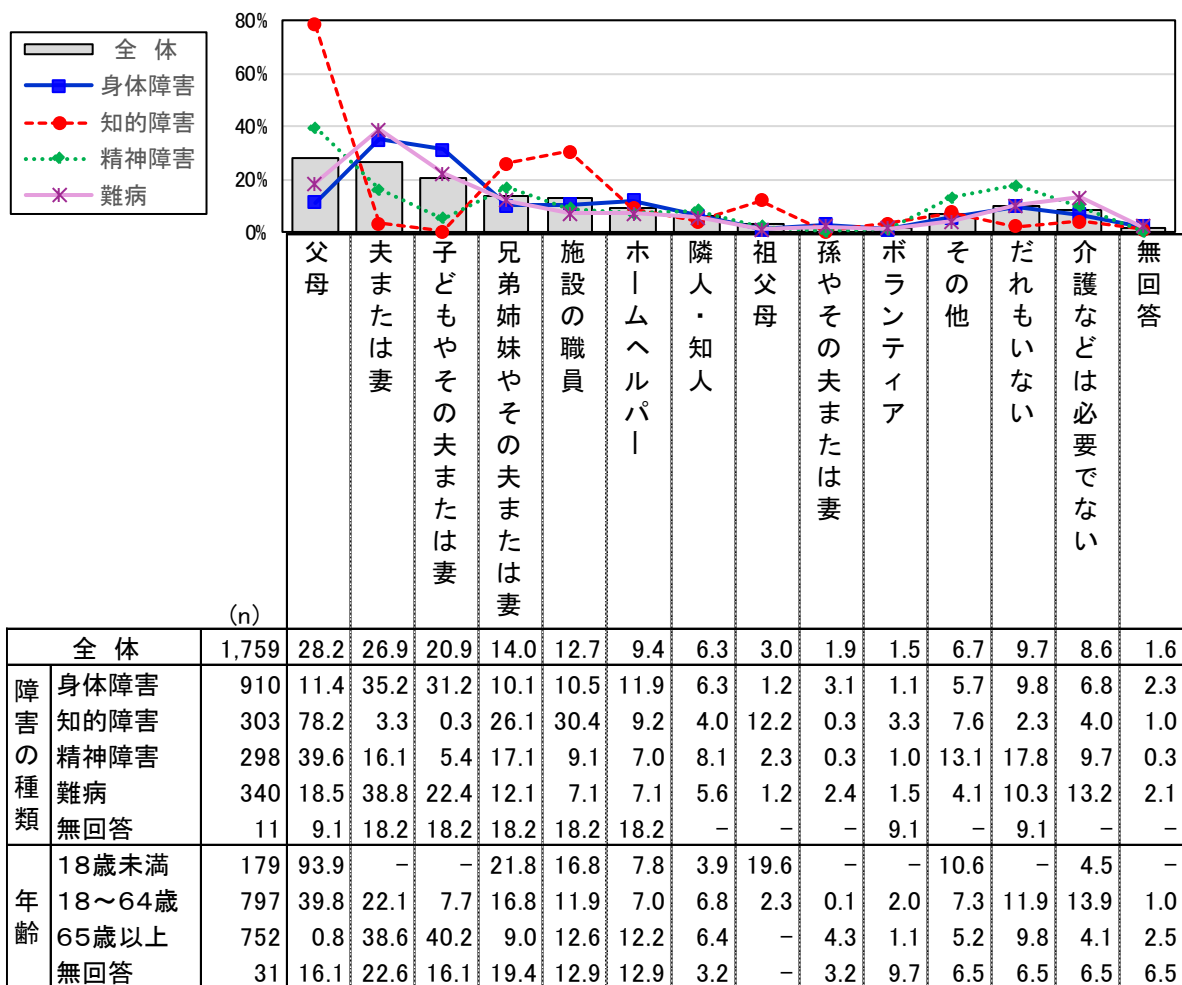
介護や支援など、あなたを支えてくれる人はだれですか。(回答はいくつでも)

全体では、「父母」が 28.2%で最も高く、次いで「夫または妻」26.9%、「子どもやその夫または妻」20.9%となっています。

障害別にみると、身体障害では「夫または妻」が 35.2%で最も高く、知的障害では「父母」が 78.2%と突出して高くなっています。精神障害では「父母」39.6%、難病では「夫または妻」38.8%がそれぞれ最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「父母」が 93.9%とほとんどを占めています。18～64歳でも「父母」39.8%が最も高くなっていますが、次は「夫または妻」22.1%になっています。65歳以上では「夫または妻」38.6%が最も高くなっており、年齢層によって主な介護者が異なっています。

問 11 介護者



(2) 主な介護者の年齢

「問 11 で「1～6」の親族に回答した方にかがいます」

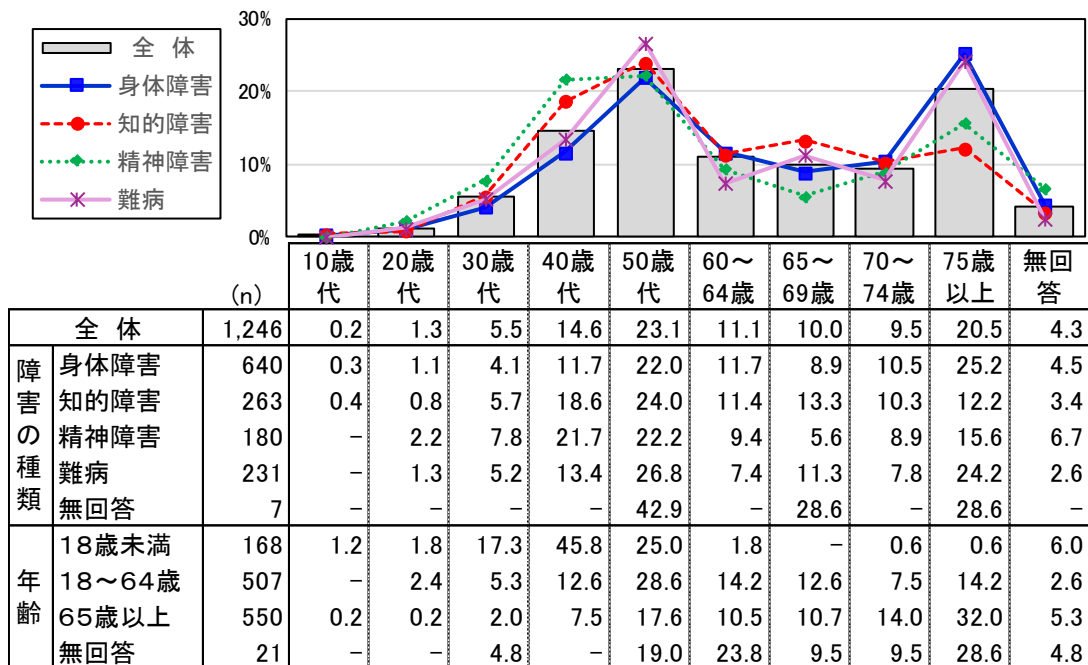
問 11-1 主な介護者の年齢をかがいます。(回答は 1 つだけ)

全体では、「50 歳代」が 23.1% で最も高く、次いで「75 歳以上」20.5%、「40 歳代」14.6%、「60～64 歳」「65～69 歳」「70～74 歳」が 1 割程度と続き、40 代以上が介護者の中心となっています。

障害別にみると、身体障害と難病では「50 歳代」と「75 歳以上」がそれぞれ 25% 程度で高くなっています。知的障害と精神障害では「50 歳代」が 2 割強、「40 歳代」が 2 割前後と 40～50 代で 4 割強となっています。

年齢別にみると、18 歳未満では親の年齢である「40 歳代」45.8% が半数弱を占め、18～64 歳では「50 歳代」と「60 歳代」で 5 割半ばとなり、65 歳以上では「75 歳以上」32.0% が最も高く、老老介護の傾向がうかがえます。

問 11-1 主な介護者の年齢



(3) 介護者のための支援

問 12 すべての方にうかがいます。

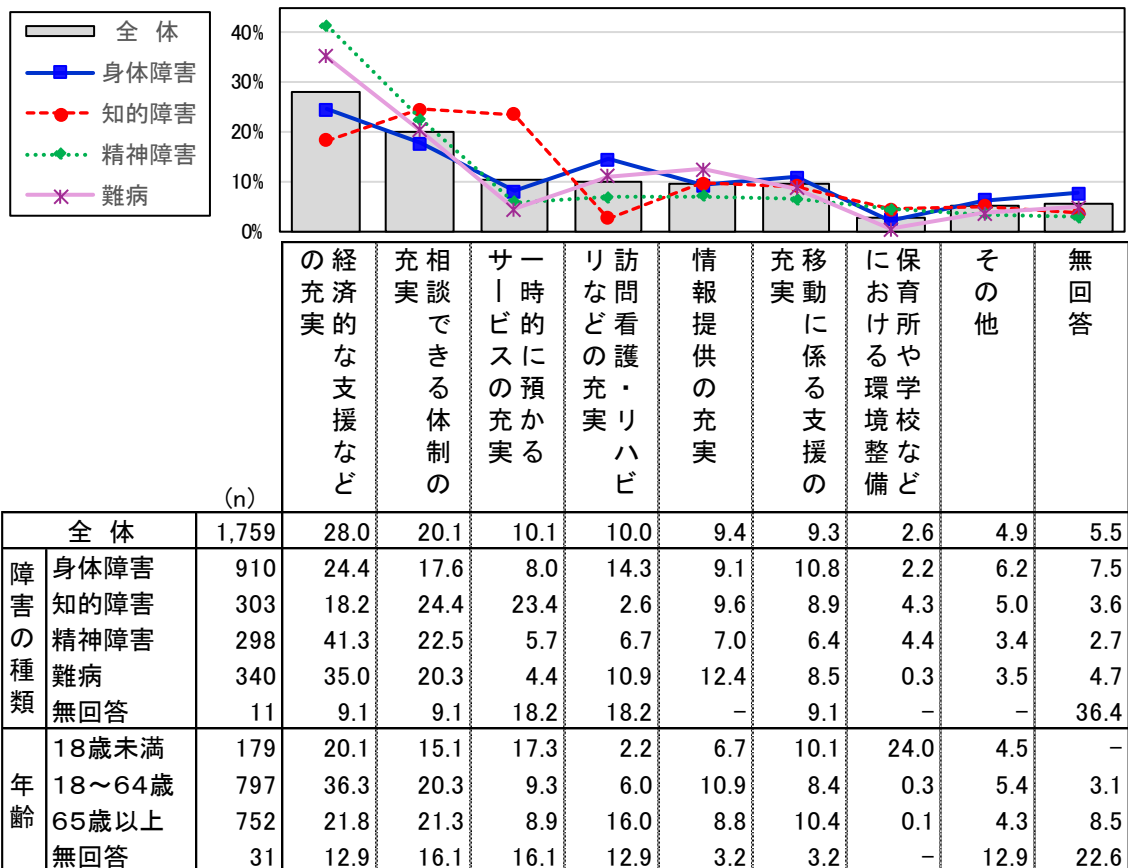
あなたや介護者のためにどのような支援が必要ですか。(回答は1つだけ)

全体では、「経済的な支援などの充実」が 28.0%で最も高く、次いで「相談できる体制の充実」20.1%までが2割を超えています。

障害別にみると、身体障害では「経済的な支援などの充実」24.4%が最も高く、知的障害では「相談できる体制の充実」24.4%と「一時的に預かるサービスの充実」23.4%が高くなっています。精神障害では「経済的な支援などの充実」41.3%が特に高く、難病でも「経済的な支援などの充実」35.0%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「保育所や学校などにおける環境整備」24.0%が最も高いのに対し、18～64歳では「経済的な支援などの充実」36.3%が最も高く、65歳以上では「経済的な支援などの充実」21.8%と「相談できる体制の充実」21.3%が高くなっています。

問 12 介護者のための支援



6 日常生活について

(1) 日中過ごしている場所

問 13 すべての方にうかがいます。

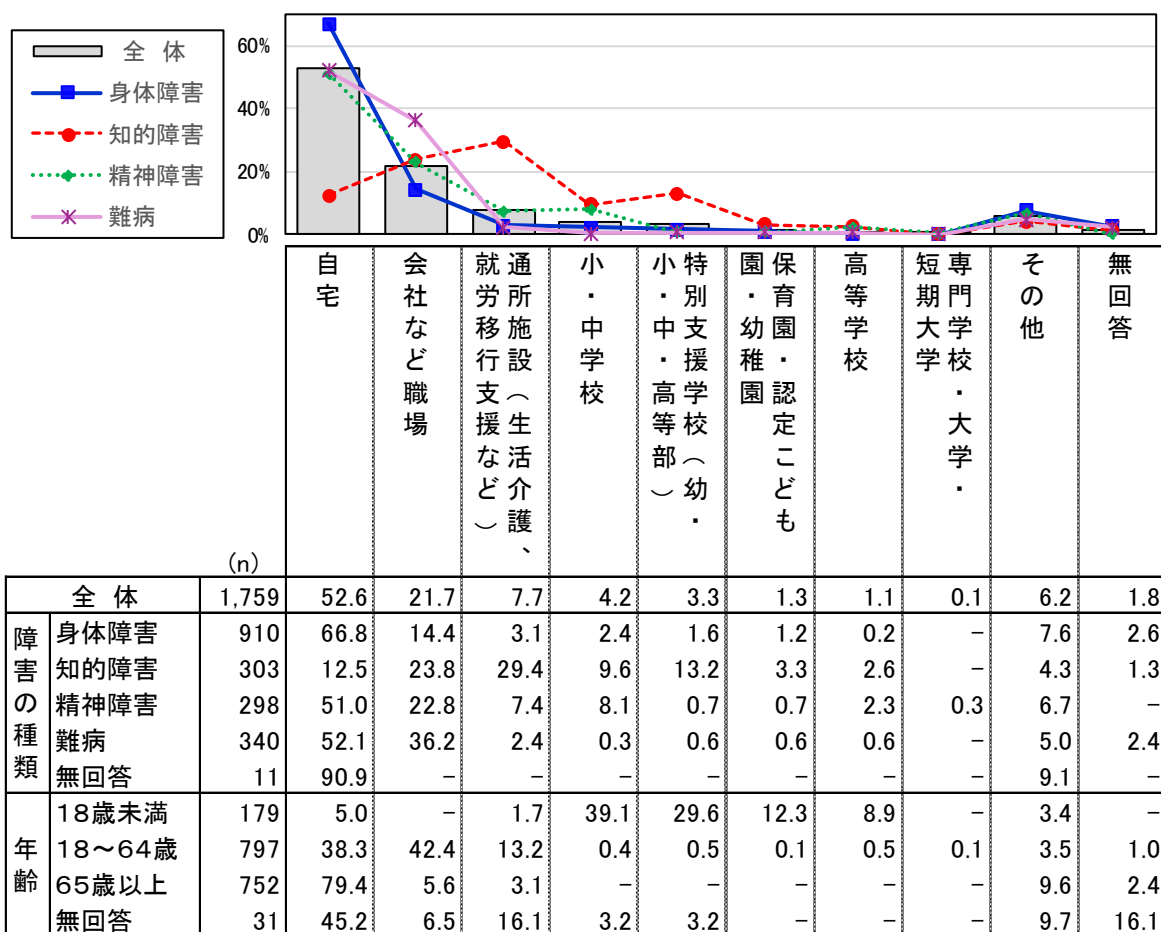
あなたは、平日の昼間、主にどこで過ごしていますか。(回答は1つだけ)

全体では、「自宅」が52.6%で最も高く、次いで「会社など職場」21.7%となっています。

障害別にみると、身体障害では「自宅」66.8%が最も高く、精神障害と難病でも「自宅」が5割強で最も高くなっています。難病では「会社など職場」36.2%も高くなっています。知的障害では「通所施設(生活介護、就労移行支援など)」29.4%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「小・中学校」39.1%と「特別支援学校(幼・小・中・高等部)」29.6%が中心です。18～64歳では「会社など職場」42.4%と「自宅」38.3%が中心で、65歳以上では「自宅」79.4%が大半を占めています。

問 13 日中過ごしている場所



(2) 余暇の過ごし方

問 14 すべての方にうかがいます。

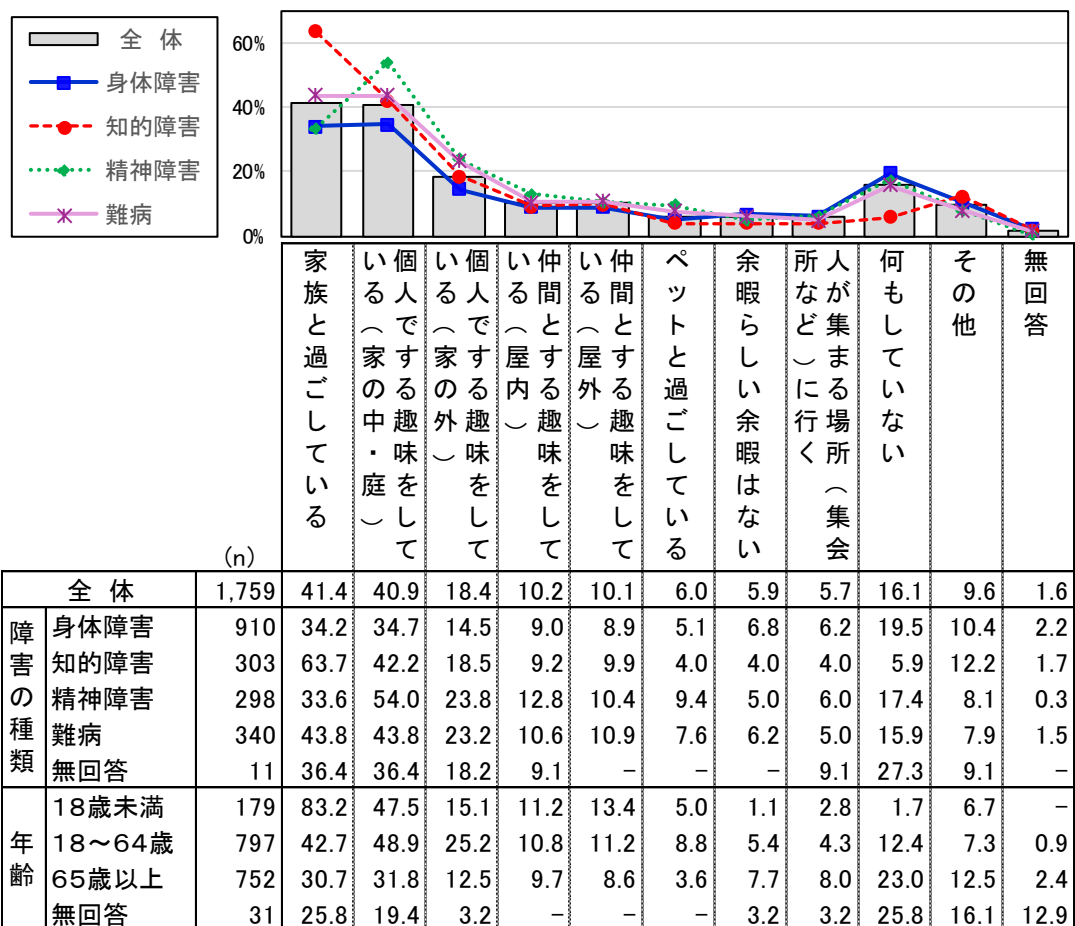
あなたは、余暇をどのように過ごしていますか。(回答はいくつでも)

全体では、「家族と過ごしている」41.4%と「個人でする趣味をしている(家の中・庭)」40.9%が同程度で高く、次いで「個人でする趣味をしている(家の外)」18.4%となっています。

障害別にみると、身体障害と難病では「個人でする趣味をしている(家の中・庭)」と「家族と過ごしている」がほぼ同程度です。知的障害では「家族と過ごしている」63.7%が最も高く、精神障害では「個人でする趣味をしている(家の中・庭)」54.0%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「家族と過ごしている」83.2%が大半を占めています。18～64歳では「個人でする趣味をしている(家の中・庭)」48.9%が最も高く、次いで「家族と過ごしている」42.7%となっています。65歳以上では「個人でする趣味をしている(家の中・庭)」31.8%と「家族と過ごしている」30.7%がほぼ同程度となっています。

問 14 余暇の過ごし方



7 外出・地域環境・交通について

(1) 外出に関して困っていること

問 15 すべての方にうかがいます。

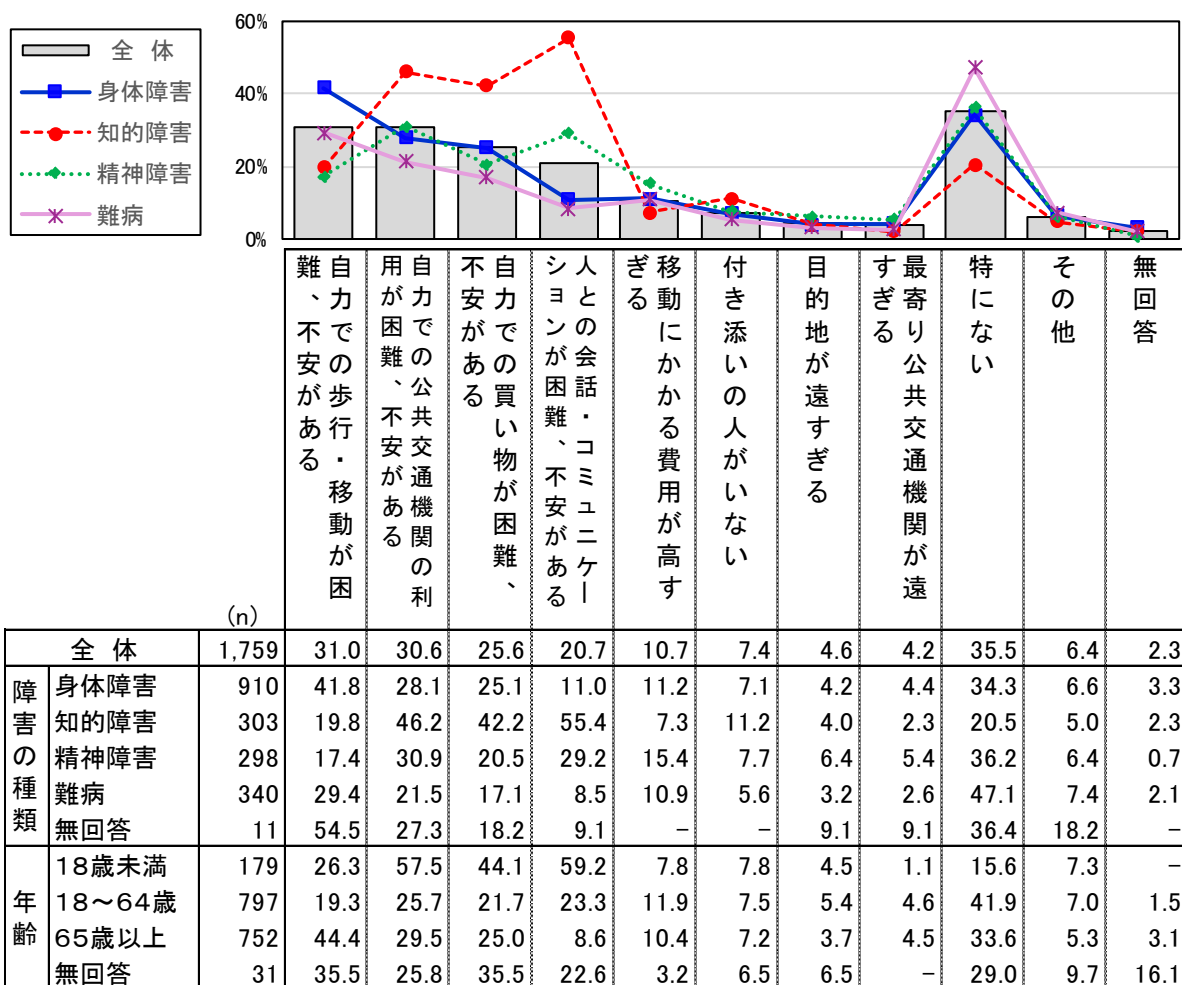
あなたが、外出のときに困ることは何ですか。(回答はいくつでも)

全体では、「自力での歩行・移動が困難、不安がある」が31.0%で最も高く、次いで「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」30.6%、「自力での買い物が困難、不安がある」25.6%、「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」20.7%となっています。

障害別にみると、身体障害では「自力での歩行・移動が困難、不安がある」41.8%が最も高いのに対し、知的障害では「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」55.4%が最も高く、「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」46.2%と「自力での買い物が困難、不安がある」42.2%も4割を超えています。精神障害では「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」と「人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」が3割程度で高く、難病では「特にない」47.1%が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「人との会話・人との会話・コミュニケーションが困難、不安がある」59.2%と「自力での公共交通機関の利用が困難、不安がある」57.5%が特に高くなっています。65歳以上では「自力での歩行・移動が困難、不安がある」44.4%が最も高くなっています。

問 15 外出に関して困っていること



(2) バリアフリー化への希望

問 16 すべての方にうかがいます。

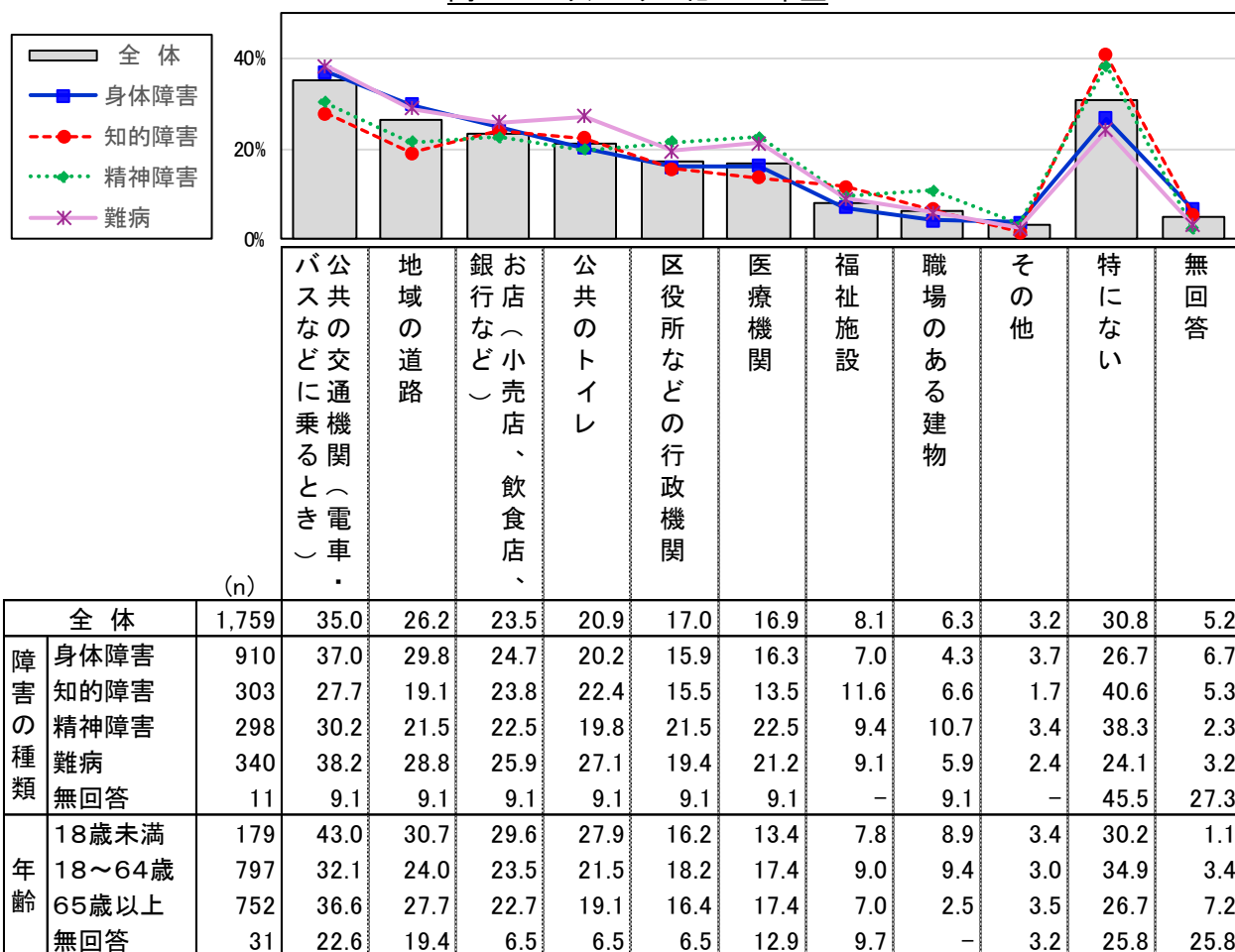
これからバリアフリー化を進めてほしい施設はありますか。(回答はいくつでも)

全体では、「公共の交通機関(電車・バスなどに乗るとき)」が 35.0%で最も高く、次いで「地域の道路」26.2%、「お店(小売店、飲食店、銀行など)」23.5%、「公共のトイレ」20.9%となっています。

障害別にみると、知的障害と精神障害では「特にない」が 4 割程度と最も高くなっています。

年齢別にみると、18 歳未満では「公共の交通機関(電車・バスなどに乗るとき)」「地域の道路」「お店(小売店、飲食店、銀行など)」「公共のトイレ」の上位 4 項目が 18 歳以上より高くなっています。

問 16 バリアフリー化への希望



身体障害の種類別にみると、視覚では「地域の道路」42.6%が最も高く、回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、免疫機能障害(n=25)では「特にない」が最も高くなっています。

問 16 バリアフリー化への希望(身体障害の種類別)

		(n)	バスなどの交通機関(電車・)	公共の道路	銀行など)	お店(小売店、飲食店、)	公共のトイレ	区役所などの行政機関	医療機関	福祉施設	職場のある建物	その他	特にない	無回答
全体		910	37.0	29.8	24.7	20.2	15.9	16.3	7.0	4.3	3.7	26.7	6.7	
身体障害の種類	視覚	61	36.1	42.6	32.8	24.6	19.7	19.7	11.5	9.8	4.9	23.0	3.3	
	聴覚・平衡機能	89	33.7	32.6	21.3	11.2	15.7	24.7	5.6	3.4	2.2	28.1	4.5	
	音声・言語機能・そしゃく	26	42.3	23.1	19.2	19.2	11.5	19.2	11.5	7.7	-	38.5	11.5	
	肢体不自由(上肢・下肢・体幹・運動)	384	43.8	36.7	30.7	26.8	18.0	19.0	8.9	6.0	5.2	19.3	4.9	
	内部障害(心臓・肝臓・呼吸器・小腸など)	345	33.3	22.9	20.9	17.1	14.8	12.8	4.6	1.7	2.6	29.9	9.0	
	免疫機能障害	25	24.0	8.0	16.0	12.0	12.0	4.0	-	4.0	4.0	56.0	-	
	その他	22	22.7	9.1	9.1	13.6	13.6	9.1	13.6	4.5	-	50.0	9.1	
	無回答	17	17.6	11.8	5.9	11.8	5.9	5.9	5.9	-	-	47.1	17.6	

(3) 外出頻度

問 17 すべての方にうかがいます。

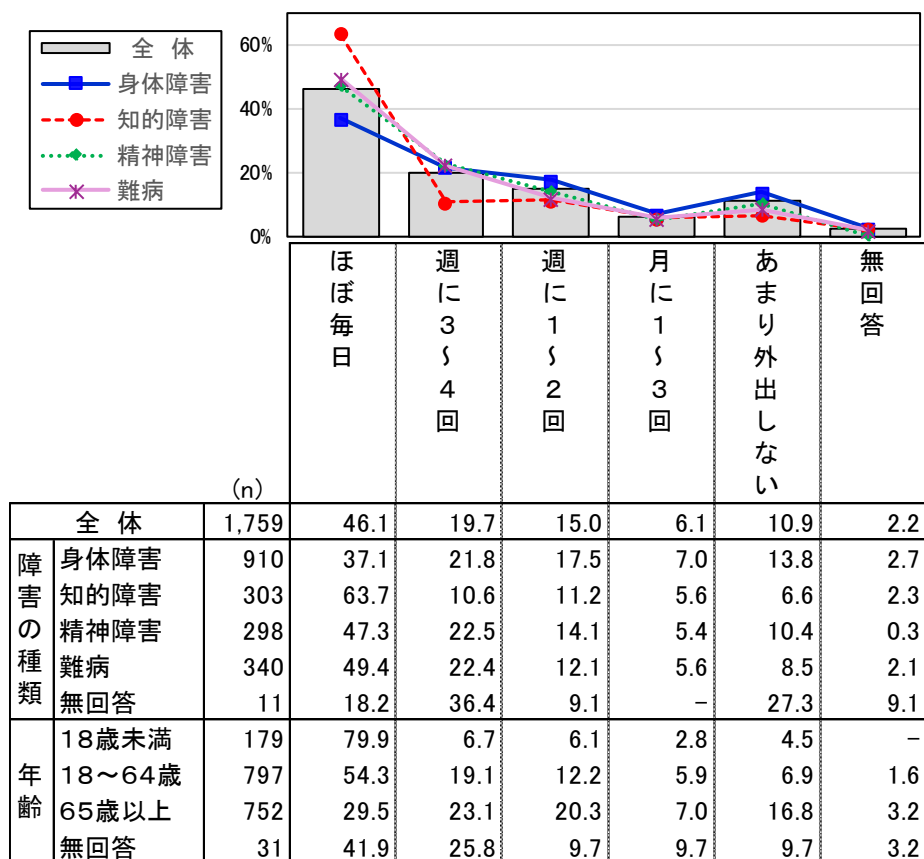
あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。(回答は1つだけ)

全体では、「ほぼ毎日」が46.1%で最も高く、次いで「週に3~4回」19.7%、「週に1~2回」15.0%となっており、8割以上の方が週に1回以上外出しています。

障害別にみると、知的障害では「ほぼ毎日」が63.7%と6割を超え、外出頻度が高い傾向にあります。身体障害では「ほぼ毎日」は37.1%にとどまり、「あまり外出しない」13.8%が他の障害に比べ高くなっています。精神障害では「ほぼ毎日」47.3%、難病では「ほぼ毎日」49.4%となっています。

年齢別にみると、18歳未満では「ほぼ毎日」79.9%が突出して高くなっています。18~64歳では「ほぼ毎日」54.3%、65歳以上では「ほぼ毎日」29.5%と年齢が高くなるほど外出頻度が低下する傾向がみられます。

問 17 外出頻度



8 情報や相談について

(1) 区政や福祉サービス情報の入手先

問 18 すべての方にうかがいます。

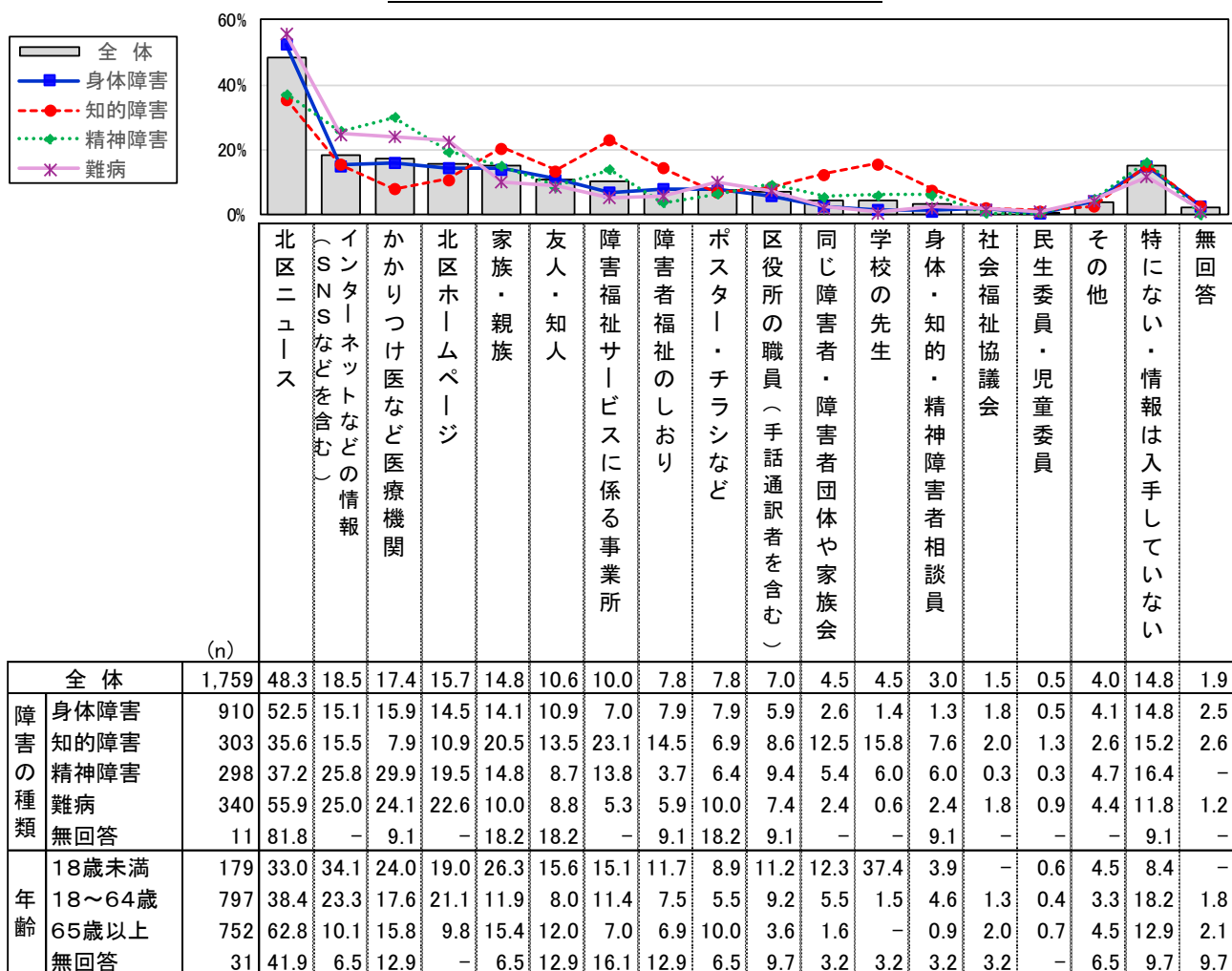
あなたは、区政や福祉サービス情報をどこから入手していますか。(回答はいくつでも)

全体では、「北区ニュース」が48.3%で最も高く、次いで「インターネットなどの情報(SNSなどを含む)」18.5%、「かかりつけ医などの医療機関」17.4%となっています。

障害別にみると、どの障害でも「北区ニュース」が最も高くなっていますが、特に身体障害と難病では5割を超えています。一方、知的障害では「北区ニュース」35.6%に次いで「障害福祉サービスに係る事業所」23.1%が高くなり、精神障害では「北区ニュース」37.2%に次いで「かかりつけ医などの医療機関」29.9%が高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「学校の先生」37.4%が最も高く、次いで「インターネットなどの情報(SNSなどを含む)」34.1%、「北区ニュース」33.0%となっています。「北区ニュース」は年齢が高い方が高くなり、18～64歳では38.4%、65歳以上では62.8%と6割を超えています。

問 18 区政や福祉サービス情報の入手先



(2) 困ったときの相談先

問 19 すべての方にうかがいます。

あなたは、悩みごとや困ったことなどについて、だれ(どこ)に相談していますか。

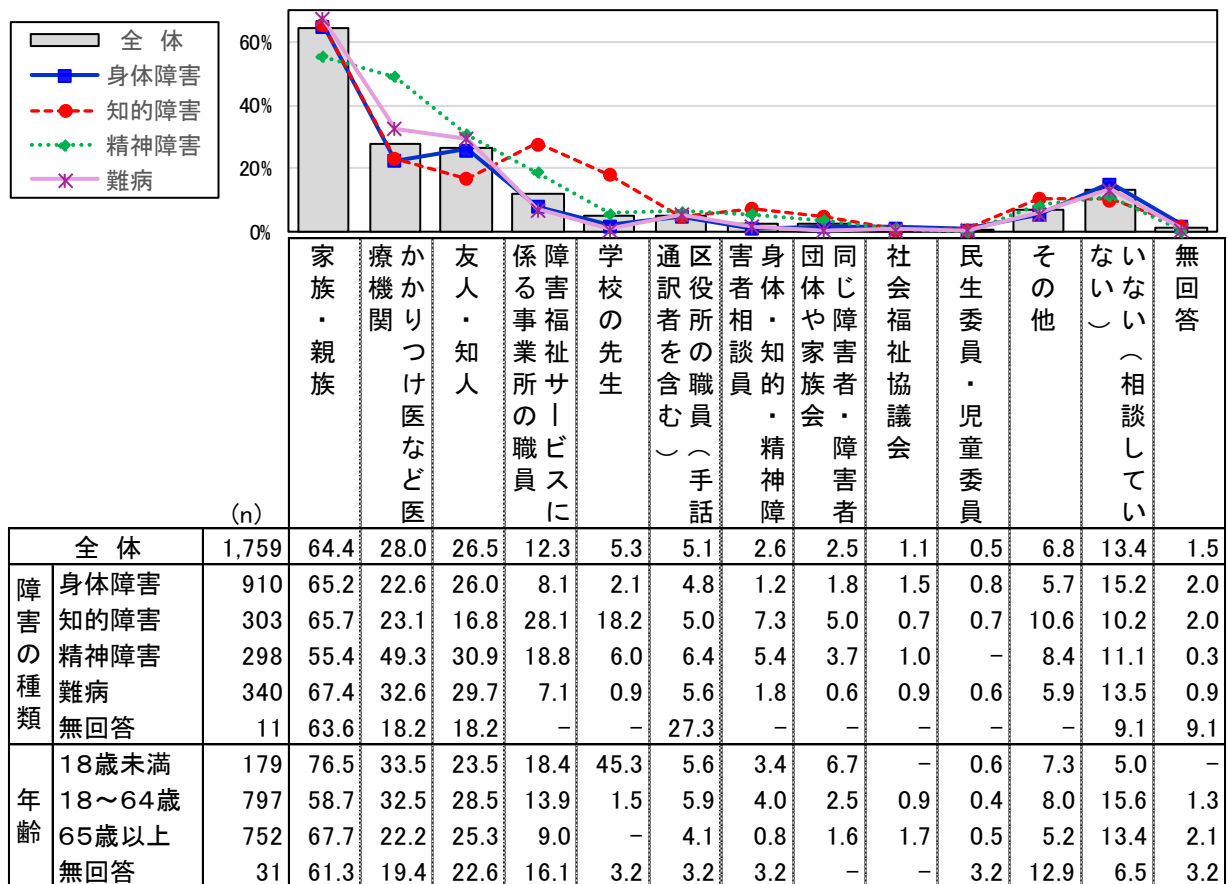
(回答はいくつでも)

全体では、「家族・親族」が 64.4%で最も高く、次いで「かかりつけ医などの医療機関」28.0%、「友人・知人」26.5%となっています。

障害別にみると、どの障害でも「家族・親族」が最も高くなっています。知的障害では「家族・親族」に次いで「障害福祉サービスに係る事業所の職員」28.1%が高くなり、精神障害と難病では「かかりつけ医などの医療機関」が高くなっています。

年齢別にみても、どの年齢でも「家族・親族」が最も高く、特に 18 歳未満では 76.5%と 8 割近くになっています。18 歳未満では「家族・親族」に次いで「学校の先生」45.3%が高くなっています。

問 19 困ったときの相談先



(3) 相談の内容

問 20 すべての方にうかがいます。

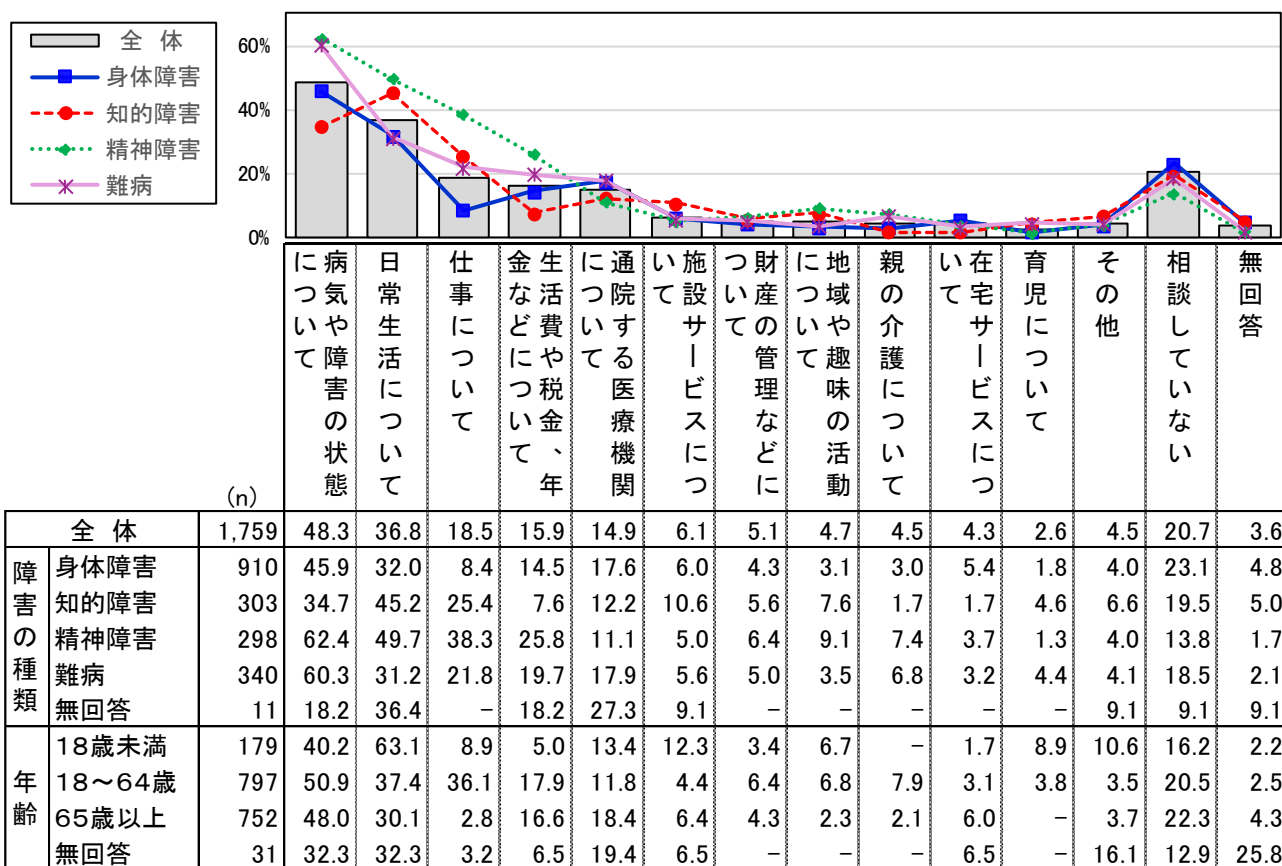
あなたは、どんな悩みごとや困ったことを相談していますか。(回答はいくつでも)

全体では、「病気や障害の状態について」が 48.3%で最も高く、次いで「日常生活について」36.8%、「仕事について」18.5%、「生活費や税金、年金などについて」15.9%、「通院する医療機関について」14.9%となっています。

障害別にみると、身体障害と精神障害、難病では「病気や障害の状態について」が最も高く、特に精神障害と難病では6割を超えています。精神障害では「日常生活について」49.7%と「仕事について」38.3%も高くなっています。一方、知的障害では「病気や障害の状態について」34.7%よりも「日常生活について」45.2%の方が高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「日常生活について」63.1%が最も高いのに対し、18歳以上では「病気や障害の状態について」が最も高くなります。18～64歳では、「仕事について」36.1%が高くなり、「日常生活について」37.4%と同程度になっています。

問 20 相談の内容



(4) 相談しやすい体制作りに必要なこと

問 21 すべての方にうかがいます。

あなたは、相談しやすい体制を作るにはどのようなことが必要だと思いますか。

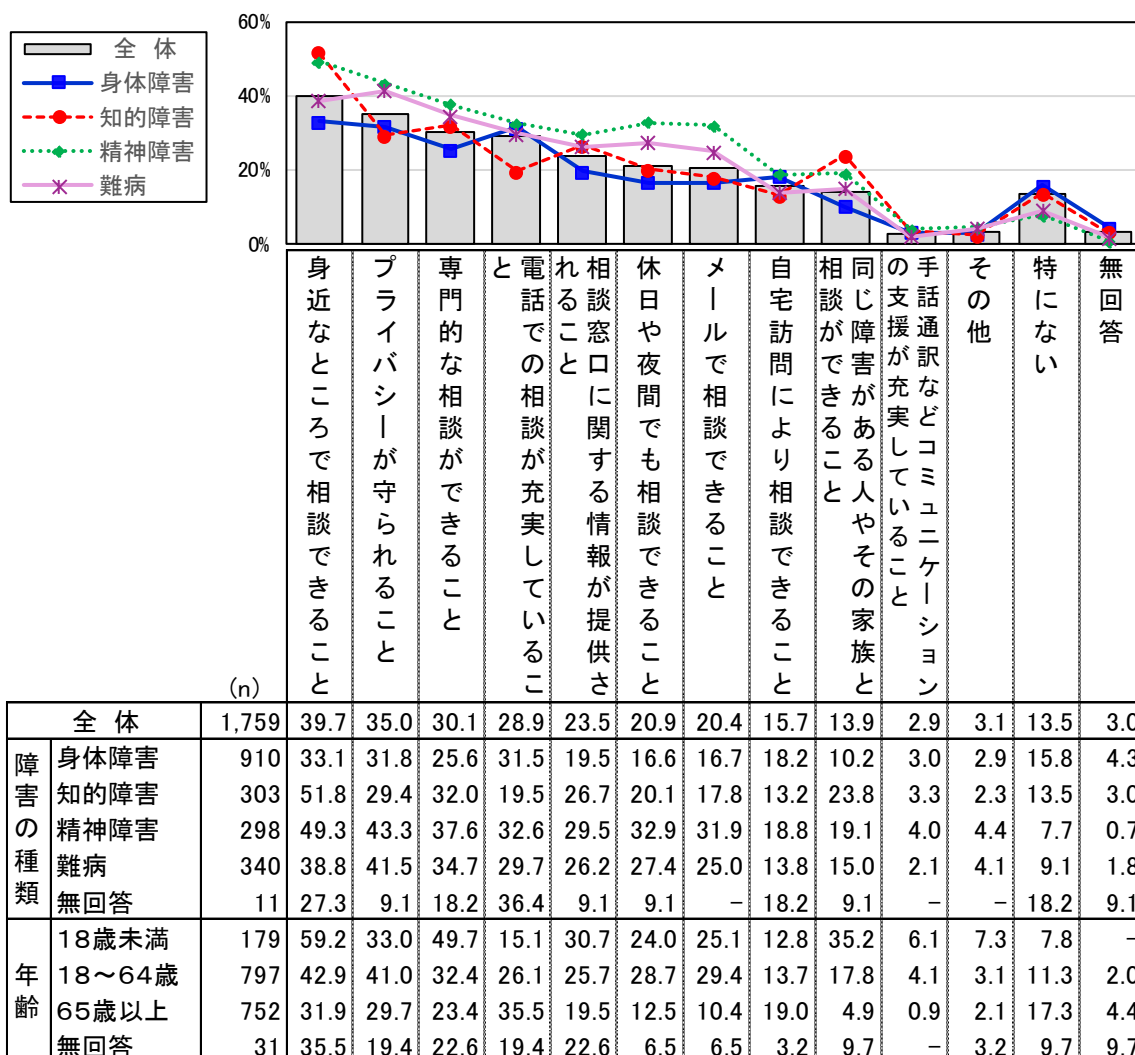
(回答はいくつでも)

全体では、「身近なところで相談できること」が 39.7% で最も高く、次いで「プライバシーが守られること」35.0%、「専門的な相談ができること」30.1%、「電話での相談が充実していること」28.9% となっています。

障害別にみると、身体障害では「身近なところで相談できること」33.1%と「プライバシーが守られること」31.8%、「電話での相談が充実していること」31.5%が高くなっています。知的障害と精神障害では「身近なところで相談できること」が最も高く、難病では「プライバシーが守られること」41.5%と「身近なところで相談ができること」38.8%が高くなっています。精神障害でも「プライバシーが守られること」は 43.3%と 4 割を超えています。

年齢別にみると、18 歳未満では「身近なところで相談できること」59.2%と「専門的な相談ができること」49.7%が特に高くなっています。年齢が若いほど、「専門的な相談ができること」「相談窓口に関する情報が提供されること」「同じ障害がある人やその家族と相談ができること」は高くなっています。逆に年齢が高くなると「電話での相談が充実していること」が高くなっています。

問 21 相談しやすい体制作りに必要なこと



9 サービスの利用について

(1) 障害福祉サービスの利用状況(現在利用)

問 22(1) すべての方にうかがいます。

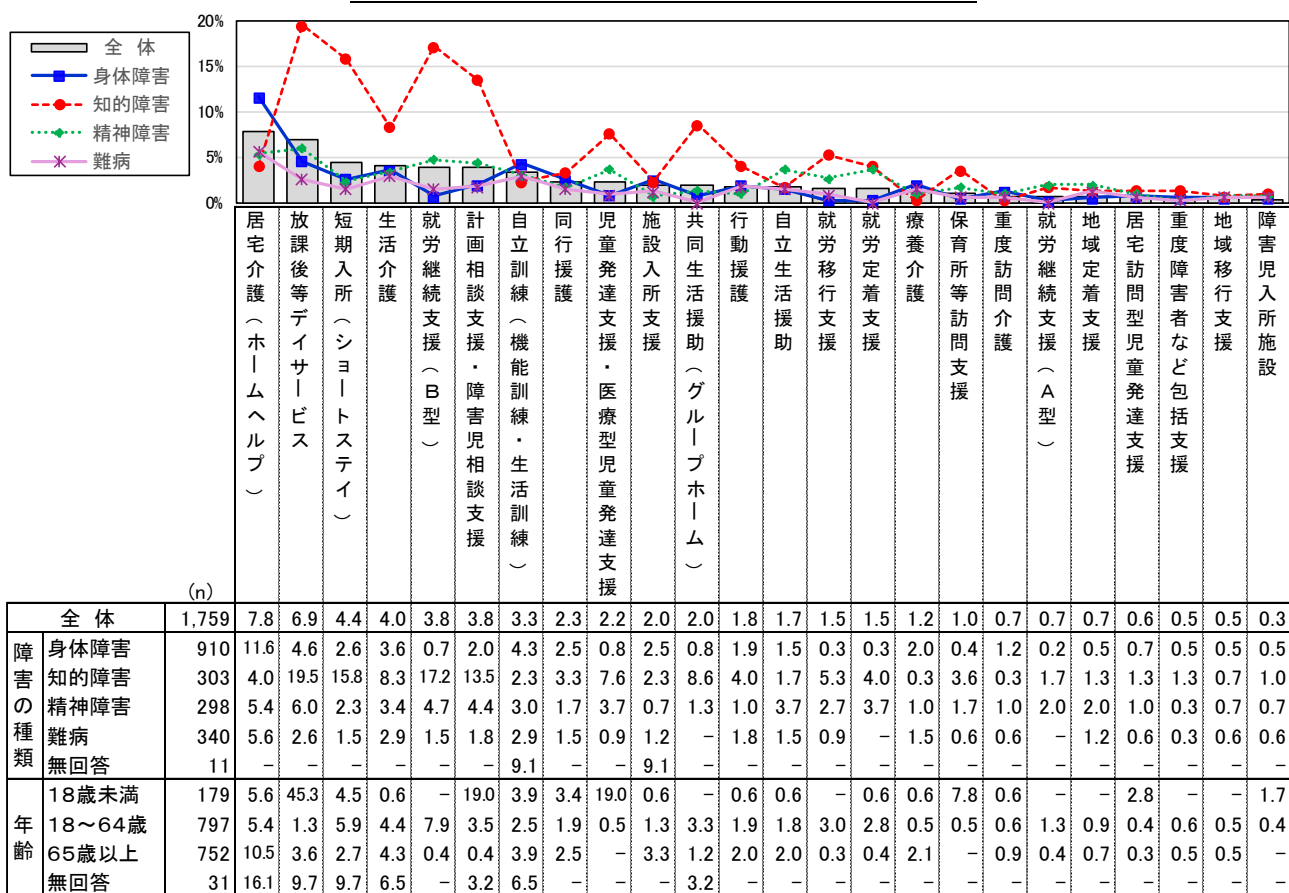
現在、利用されている障害福祉サービスをお答えください。(回答はいくつでも)

全体では、「居宅介護(ホームヘルプ)」が7.8%で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」6.9%、「短期入所(ショートステイ)」4.4%となっています。

障害別にみると、身体障害では「居宅介護(ホームヘルプ)」11.6%だけが1割を超えています。知的障害では「放課後等デイサービス」19.5%がほぼ2割、「就労継続支援(B型)」17.2%、「短期入所(ショートステイ)」15.8%、「計画相談支援・障害児相談支援」13.5%が1割を超えており、多くのサービスを利用しています。

年齢別にみると、18歳未満では「放課後等デイサービス」が45.3%と4割を超え、次いで「計画相談支援・障害児相談支援」が「児童発達支援・医療型児童発達支援」とともに19.0%と高くなっています。

問 22(1) 障害福祉サービスの利用状況(現在利用)



(2) 障害福祉サービスの今後の利用意向

問 22(2) すべての方にうかがいます。

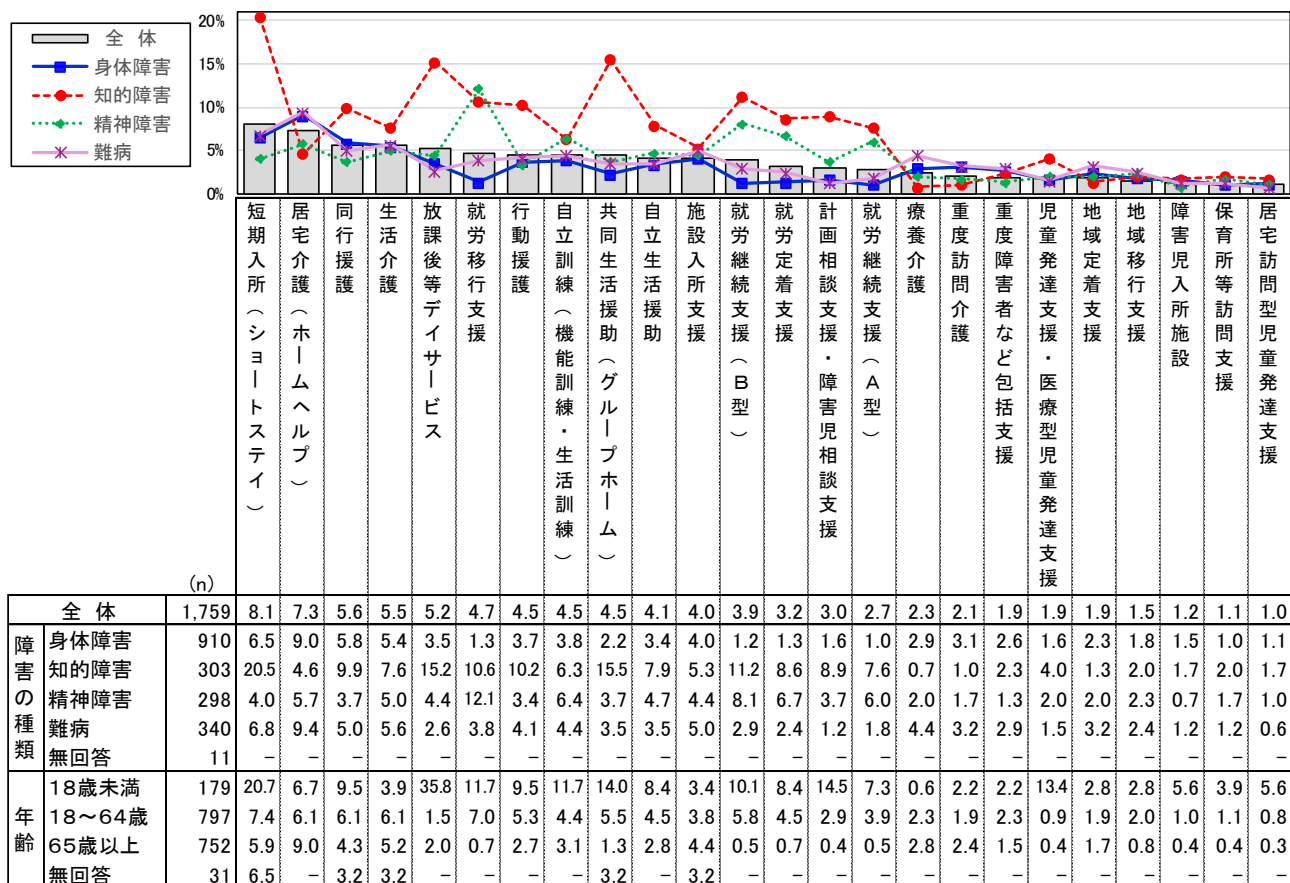
今後、またはこれからも利用したいサービスをお答えください。(回答はいくつでも)

全体では、「短期入所(ショートステイ)」が8.1%で最も高く、次いで「居宅介護(ホームヘルプ)」7.3%、「同行援護」5.6%、「生活介護」5.5%、「放課後等デイサービス」5.2%となっています。

障害別にみると、知的障害では「短期入所(ショートステイ)」20.5%が2割を超え、他にも「共同生活援助(グループホーム)」15.5%、「放課後等デイサービス」15.2%、「就労継続支援(B型)」11.2%、「就労移行支援」10.6%、「行動援護」10.2%までが1割を超え、多くのサービスを利用したいと思っています。

年齢別にみると、18歳未満では「放課後等デイサービス」35.8%が特に高く、「短期入所(ショートステイ)」20.7%も2割を超えています。

問 22(2) 障害福祉サービスの今後の利用意向



(3) 障害福祉サービスの満足度

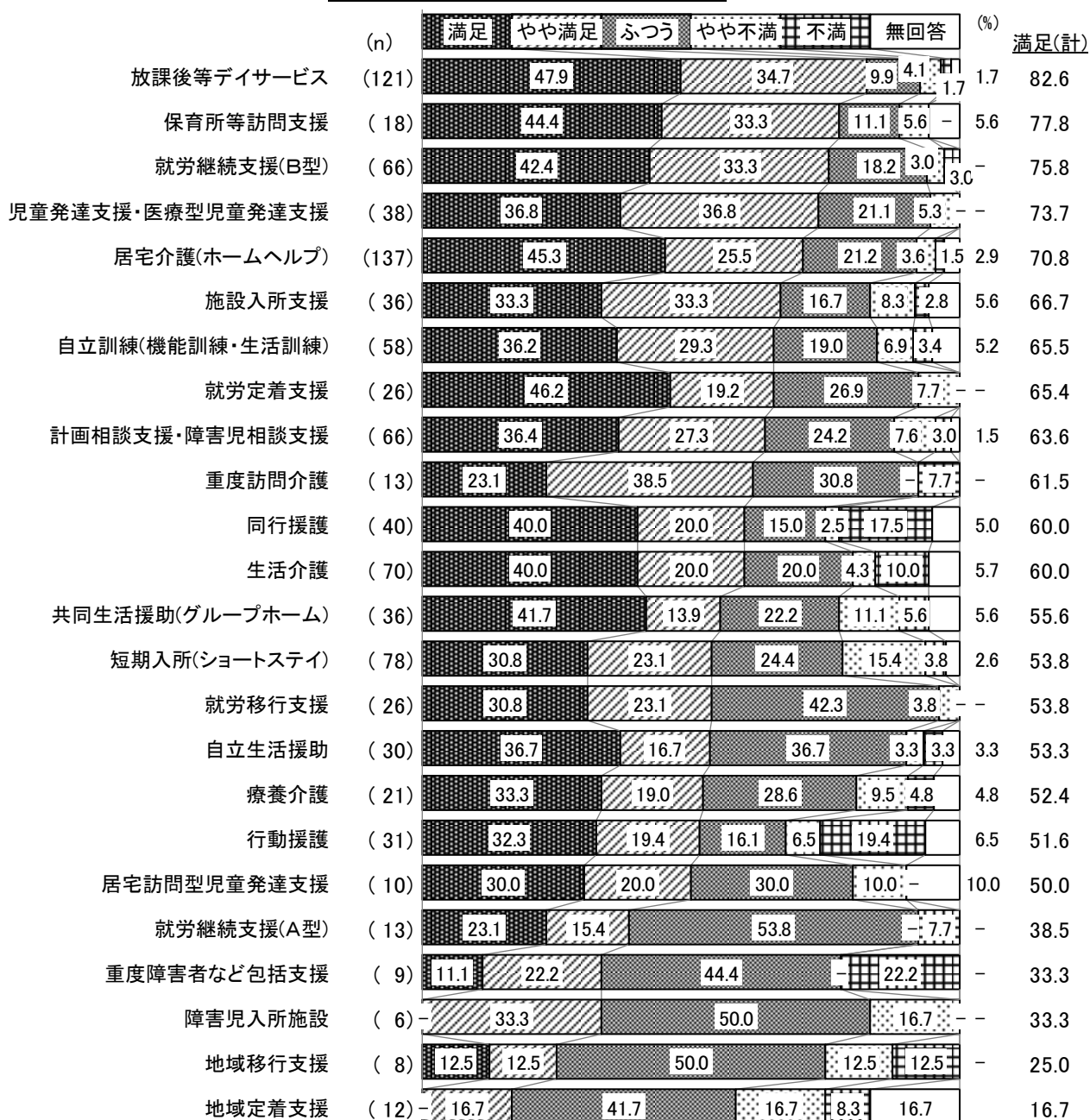
「問 22(1)で利用されている障害福祉サービスについてお答えください」

問 22(3) それぞれのサービスにどの程度、満足されていますか。(回答はそれぞれ1つずつ)

それぞれの障害福祉サービスを利用している方の「満足(計)」「満足」と「やや満足」の合計)をみると、「放課後等デイサービス」が82.6%で最も高く、次いで「保育所等訪問支援」77.8%、「就労継続支援(B型)」75.8%、「児童発達支援・医療型児童発達支援」73.7%、「居宅介護(ホームヘルプ)」70.8%が7割を超えています。

一方、「満足(計)」が4割に達していないのは「就労継続支援(A型)」「重度障害者など包括支援」「障害児入所施設」「地域移行支援」「地域定着支援」ですが、いずれも回答者(n数)となる利用者が10人程度と少なく、参考程度となります。

問 22(3) 障害福祉サービスの満足度



* 満足(計)の高い順

回答者数(n数)が少なく、多くの項目は参考程度となりますが、障害別にみると、知的障害の「放課後等デイサービス」の「満足(計)」は93.2%と非常に高くなっています。精神障害と難病は全項目とも回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、精神障害は全体的に「満足(計)」が高く、難病は低い傾向となっています。

年齢別でも多くの項目は回答者数(n数)が少なく、参考程度となりますが、18歳未満は全体的に「満足(計)」が高い傾向となっています。

問 22(3) 障害福祉サービスの満足度<「満足(計)」>

	全 体		障害の種類								年 齢					
			身体障害		知的障害		精神障害		難病		18歳未満		18～64歳		65歳以上	
	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)
放課後等デイサービス	121人	82.6%	42人	71.4%	59人	93.2%	18人	77.8%	9人	55.6%	81人	90.1%	10人	70.0%	27人	66.7%
保育所等訪問支援	18人	77.8%	4人	50.0%	11人	72.7%	5人	80.0%	2人	50.0%	14人	85.7%	4人	50.0%	—	—
就労継続支援(B型)	66人	75.8%	6人	66.7%	52人	76.9%	14人	78.6%	5人	40.0%	—	—	63人	77.8%	3人	33.3%
児童発達支援・医療型児童発達支援	38人	73.7%	7人	57.1%	23人	78.3%	11人	54.5%	3人	66.7%	34人	76.5%	4人	50.0%	—	—
居宅介護(ホームヘルプ)	137人	70.8%	106人	68.9%	12人	58.3%	16人	87.5%	19人	68.4%	10人	90.0%	43人	79.1%	79人	64.6%
施設入所支援	36人	66.7%	23人	56.5%	7人	71.4%	2人	100.0%	4人	75.0%	1人	100.0%	10人	80.0%	25人	60.0%
自立訓練(機能訓練・生活訓練)	58人	65.5%	39人	66.7%	7人	42.9%	9人	66.7%	10人	70.0%	7人	85.7%	20人	50.0%	29人	69.0%
就労定着支援	26人	65.4%	3人	33.3%	12人	58.3%	11人	81.8%	—	—	1人	—	22人	72.7%	3人	33.3%
計画相談支援・障害児相談支援	66人	63.6%	18人	66.7%	41人	56.1%	13人	84.6%	6人	33.3%	34人	61.8%	28人	64.3%	3人	66.7%
重度訪問介護	13人	61.5%	11人	63.6%	1人	—	3人	66.7%	2人	100.0%	1人	100.0%	5人	40.0%	7人	71.4%
同行援護	40人	60.0%	23人	47.8%	10人	70.0%	5人	60.0%	5人	20.0%	6人	100.0%	15人	60.0%	19人	47.4%
生活介護	70人	60.0%	33人	51.5%	25人	72.0%	10人	60.0%	10人	30.0%	1人	100.0%	35人	71.4%	32人	46.9%
共同生活援助(グループホーム)	36人	55.6%	7人	71.4%	26人	53.8%	4人	50.0%	—	—	—	—	26人	50.0%	9人	66.7%
短期入所(ショートステイ)	78人	53.8%	24人	37.5%	48人	58.3%	7人	42.9%	5人	20.0%	8人	87.5%	47人	57.4%	20人	35.0%
就労移行支援	26人	53.8%	3人	—	16人	62.5%	8人	62.5%	3人	33.3%	—	—	24人	58.3%	2人	—
自立生活援助	30人	53.3%	14人	50.0%	5人	80.0%	11人	45.5%	5人	20.0%	1人	100.0%	14人	57.1%	15人	46.7%
療養介護	21人	52.4%	18人	50.0%	1人	—	3人	100.0%	5人	60.0%	1人	100.0%	4人	75.0%	16人	43.8%
行動援護	31人	51.6%	17人	41.2%	12人	66.7%	3人	33.3%	6人	16.7%	1人	100.0%	15人	46.7%	15人	53.3%
居宅訪問型児童発達支援	10人	50.0%	6人	50.0%	4人	25.0%	3人	33.3%	2人	—	5人	60.0%	3人	—	2人	100.0%
就労継続支援(A型)	13人	38.5%	2人	—	5人	20.0%	6人	66.7%	—	—	—	—	10人	50.0%	3人	—
重度障害者など包括支援	9人	33.3%	5人	40.0%	4人	25.0%	1人	—	1人	—	—	—	5人	20.0%	4人	50.0%
障害児入所施設	6人	33.3%	5人	40.0%	3人	—	2人	—	2人	—	3人	66.7%	3人	—	—	—
地域移行支援	8人	25.0%	5人	20.0%	2人	50.0%	2人	—	2人	—	—	—	4人	25.0%	4人	25.0%
地域定着支援	12人	16.7%	5人	20.0%	4人	25.0%	6人	33.3%	4人	25.0%	—	—	7人	14.3%	5人	20.0%

※全体の「満足(計)」の高い順

は回答者数(n数)が30人未満

(4) 障害福祉サービスの不満点

「問 22(3)で「4.やや不満」、「5.不満」と回答されたサービスについてお答えください」

問 22(4) 以下の不満なことから、あてはまる番号を選んで記入してください。

各サービスの「不満(計)」「やや不満」と「不満」の合計は全体的に低く、最も不満が強いサービスでも 25.8%と 3 割未満となっています。そのため、「不満(計)」と回答した人に質問した不満点は、すべてのサービスで回答者数(n数)が少なく参考程度となっています。

問 22(4) 障害福祉サービスの不満点

	(n)	回数や時間が足りない	利用の日時が合わない	サービスの質がよくない	利用できる事業所が少ない	事業所の担当者が代わってしまう	その他	無回答	問22(3) 満足度	
									(利用者数)	不満(計)
行動援護	(8)	4人	3人	2人	5人	2人	2人	1人	31人	25.8%
地域移行支援	(2)	2人	1人	1人	2人	1人	—	—	8人	25.0%
地域定着支援	(3)	3人	2人	1人	3人	2人	—	—	12人	25.0%
重度障害者など包括支援	(2)	2人	1人	1人	2人	1人	1人	—	9人	22.2%
同行援護	(8)	5人	7人	3人	5人	4人	—	—	40人	20.0%
短期入所(ショートステイ)	(15)	5人	5人	3人	6人	1人	4人	—	78人	19.2%
共同生活援助(グループホーム)	(6)	1人	1人	2人	1人	1人	4人	1人	36人	16.7%
障害児入所施設	(1)	—	—	—	—	1人	—	—	6人	16.7%
療養介護	(3)	2人	1人	—	1人	1人	1人	—	21人	14.3%
生活介護	(10)	2人	1人	3人	5人	3人	2人	—	70人	14.3%
施設入所支援	(4)	2人	2人	2人	2人	1人	2人	—	36人	11.1%
計画相談支援・障害児相談支援	(7)	3人	2人	4人	3人	2人	1人	—	66人	10.6%
自立訓練(機能訓練・生活訓練)	(6)	3人	1人	2人	—	1人	—	1人	58人	10.3%
居宅訪問型児童発達支援	(1)	—	—	—	—	—	1人	—	10人	10.0%
重度訪問介護	(1)	1人	1人	1人	1人	1人	1人	—	13人	7.7%
就労継続支援(A型)	(1)	—	—	—	—	—	1人	—	13人	7.7%
就労定着支援	(2)	1人	1人	—	—	—	1人	—	26人	7.7%
自立生活援助	(2)	1人	—	—	1人	2人	—	—	30人	6.7%
就労継続支援(B型)	(4)	—	1人	2人	1人	1人	1人	—	66人	6.1%
放課後等デイサービス	(7)	2人	—	1人	5人	—	1人	1人	121人	5.8%
保育所等訪問支援	(1)	1人	—	—	—	—	—	—	18人	5.6%
児童発達支援・医療型児童発達支援	(2)	2人	1人	—	1人	—	—	—	38人	5.3%
居宅介護(ホームヘルプ)	(7)	2人	1人	1人	2人	1人	1人	2人	137人	5.1%
就労移行支援	(1)	—	—	—	—	—	—	1人	26人	3.8%

* 不満(計)の高い順

<サービスの説明>

サービス名	サービスの内容
① 居宅介護 (ホームヘルプ)	自宅で入浴、排せつ、食事の介護などを行う。
② 重度訪問介護	重度の障害者で常に介護を必要とする人に、自宅で入浴、排せつ、食事の介護、外出するときの移動支援などを総合的に行う。
③ 同行援護	視覚障害により移動に著しい困難を有する人が外出するときに、必要な情報の提供や支援を行う。
④ 行動援護	判断能力が制限されている人が行動するときに、危険を避けるために必要な外出の支援を行う。
⑤ 重度障害者等 包括支援	介護の必要性がとても高い人に、居宅介護(ホームヘルプ)など複数のサービスをまとめて行う。
⑥ 短期入所 (ショートステイ)	自宅で介護する人が病気のときなどに、短期間、夜間も含めて施設で受け入れて、入浴、排せつ、食事の介護などを行う。
⑦ 療養介護	医療と常時の介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の世話をを行う。
⑧ 生活介護	常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護などを行うとともに、創作的活動または生産活動の機会を提供する。
⑨ 施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日、入浴、排せつ、食事の介護などを行う。
⑩ 自立訓練(機能 訓練・生活訓練)	自立した日常生活・社会生活ができるよう、一定期間、身体機能または生活能力の向上のために必要な訓練を行う。
⑪ 就労移行支援	一般企業等への就労を希望する方に、一定期間就労に必要な知識および能力の向上のために必要な訓練を行う。
⑫ 就労継続支援 (A型)	一般企業での就労が難しい人に、雇用契約を結んで働く場を提供し、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。
⑬ 就労継続支援 (B型)	一般企業での就労が難しい人に、雇用契約を結ばずに働く場を提供し、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。
⑭ 就労定着支援	一般企業へ就労した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行う。
⑮ 自立生活援助	ひとり暮らしに必要な生活力を補うため、定期的な居宅訪問や随時の電話対応などによる必要な支援を行う。
⑯ 共同生活援助 (グループホーム)	夜間や休日に、共同生活を行う住居で、相談、入浴、排せつ、食事の介護、日常生活の援助を行う。
⑰ 児童発達支援・ 医療型児童発達 支援	未就学乳幼児を対象に、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行う。

＜サービスの説明(続き)＞

サービス名	サービスの内容
⑱放課後等 デイサービス	放課後や夏休みなどの長期休暇中に、施設に通わせて、生活能力の向上のための訓練や社会との交流促進などの支援を行う。
⑲居宅訪問型 児童発達支援	外出することが著しく難しい障害児の居宅を訪問して、日常生活における基本的な動作の指導や知識技能の付与などの支援を行う。
⑳保育所等 訪問支援	保育所などを訪問し、障害児に対して、他の児童との集団生活の適応のための専門的な支援などを行う。
㉑障害児入所 施設	施設に入所している障害児に対して、保護、日常生活の指導及び知識技能の付与を行う。
㉒計画相談支援・ 障害児相談支援	サービスを利用するときに利用計画案を作成し、利用決定後、事業者などと連絡調整を行い、利用計画を作成する。また、サービスの利用状況などを検証(モニタリング)し、必要に応じて見直しを行う。
㉓地域移行支援	入所施設や精神病院からの退所、退院を希望する方に、住居の確保など地域での生活に移行するために必要な相談などの支援を行う。
㉔地域定着支援	居宅において単身生活をしている方などを対象に、常に連絡のとれる体制を確保し、緊急事態などにおける必要な支援を行う。

(5) 北区独自サービスの利用状況(現在利用)

問 23(1) すべての方にうかがいます。

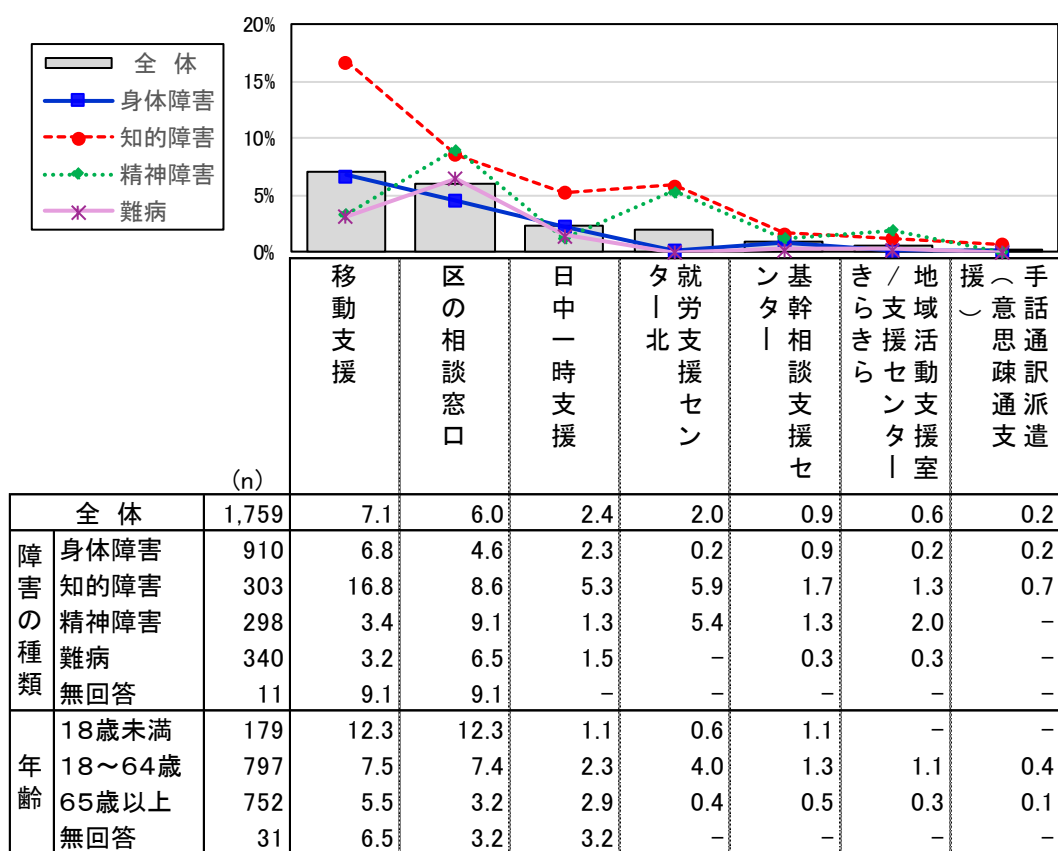
現在、利用されている障害福祉サービスをお答えください。(回答はいくつでも)

全体では、「移動支援」が7.1%で最も高く、次いで「区の相談窓口」6.0%、「日中一時支援」2.4%となっています。

障害別にみると、知的障害では「移動支援」16.8%が高くなっています。精神障害では「区の相談窓口」9.1%が比較的高くなっています。

年齢別にみると、18歳未満では「移動支援」と「区の相談窓口」がともに12.3%で1割を超えています。

問 23(1) 北区独自サービスの利用状況(現在利用)



(6) 北区独自サービスの今後の利用意向

問 23(2) すべての方にうかがいます。

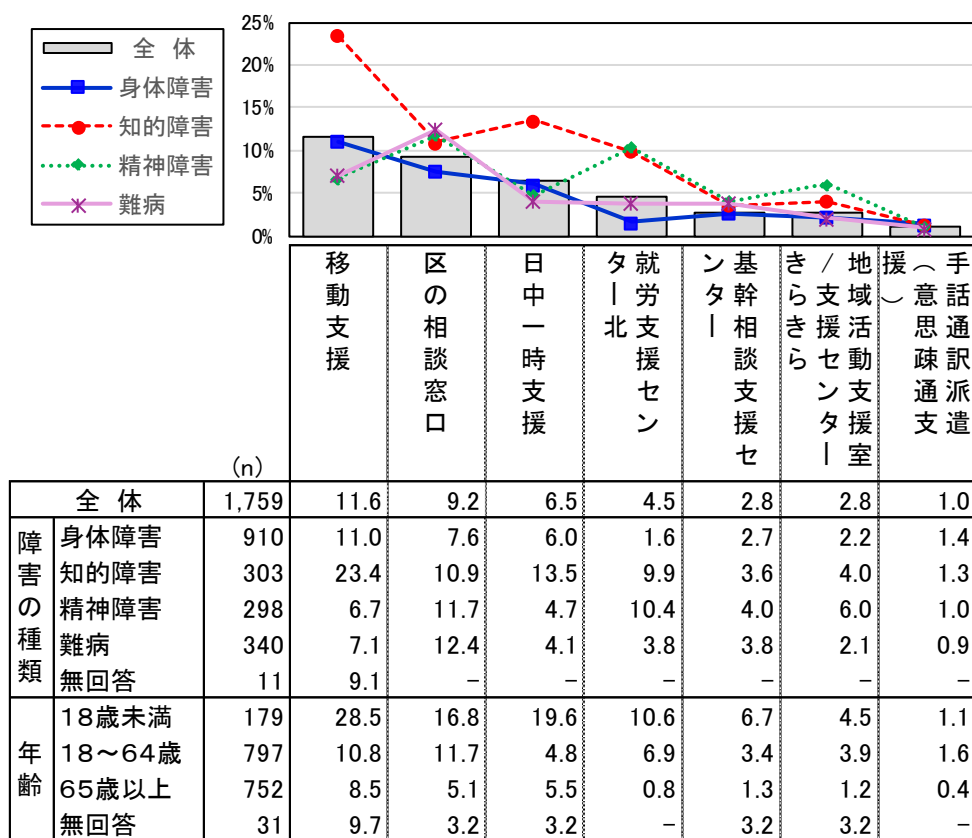
今後、またはこれからも利用したいサービスをお答えください。(回答はいくつでも)

全体では、「移動支援」が 11.6% で最も高く、次いで「区の相談窓口」9.2%、「日中一時支援」6.5% となっています。

障害別にみると、知的障害では「移動支援」が 23.4% と 2 割を超えています。

年齢別にみると、18 歳未満は全体的に回答率が高く「移動支援」が 28.5% と 3 割近く、「日中一時支援」19.6%、「区の相談窓口」16.8%、「就労支援センター北」10.6% が 1 割を超えています。

問 23(2) 北区独自サービスの今後の利用意向



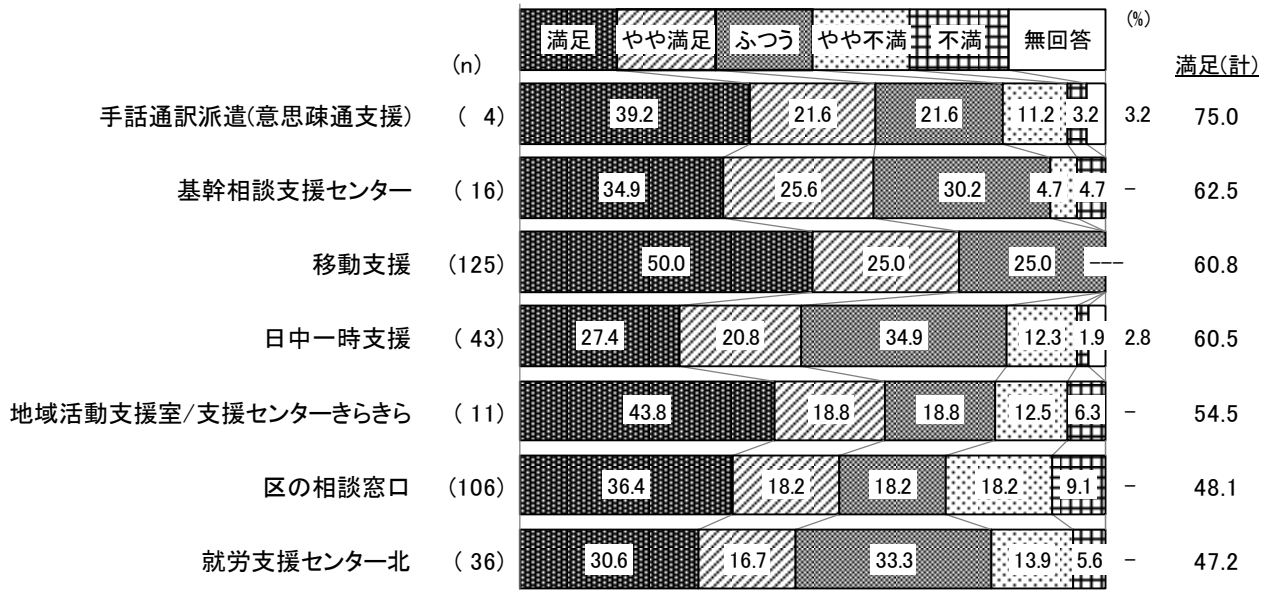
(7) 北区独自サービスの満足度

《問 23(1)で利用されている障害福祉サービスについてお答えください》

問 23(3) それぞれのサービスにどの程度、満足されていますか。(回答はそれぞれ1つずつ)

それぞれの北区独自サービスを利用している方の「満足(計)」「満足」と「やや満足」の合計をみると、回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、「手話通訳派遣(意思疎通支援)」(n=4)が75.0%で最も高く、次いで「基幹相談支援センター」(n=16)が62.5%となっています。以下、「移動支援」60.8%、「日中一時支援」60.5%が6割を超えています。

問 23(3) 北区独自サービスの満足度



障害別にみると、難病は全項目とも回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、全体的に「満足(計)」が低い傾向となっています。

年齢別でも多くの項目は回答者数(n数)が少なく、参考程度となりますが、18歳未満は全体的に「満足(計)」が高い傾向となっています。

問 23(3) 北区独自サービスの満足度<「満足(計)」>

	全体		障害の種類								年齢					
			身体障害		知的障害		精神障害		難病		18歳未満		18~64歳		65歳以上	
	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)	n	満足(計)
移動支援	125人	60.8%	62人	56.5%	51人	64.7%	10人	70.0%	11人	36.4%	22人	63.6%	60人	61.7%	41人	58.5%
日中一時支援	43人	60.5%	21人	52.4%	16人	62.5%	4人	25.0%	5人	20.0%	2人	100.0%	18人	55.6%	22人	59.1%
手話通訳派遣 (意思疎通支援)	4人	75.0%	2人	100.0%	2人	50.0%	-	-	-	-	-	-	3人	66.7%	1人	100.0%
区の相談窓口	106人	48.1%	42人	52.4%	26人	42.3%	27人	40.7%	22人	36.4%	22人	54.5%	59人	45.8%	24人	45.8%
基幹相談支援 センター	16人	62.5%	8人	50.0%	5人	60.0%	4人	75.0%	1人	-	2人	100.0%	10人	60.0%	4人	50.0%
地域活動支援室 /支援センター きらきら	11人	54.5%	2人	-	4人	75.0%	6人	50.0%	1人	-	-	-	9人	55.6%	2人	50.0%
就労支援セン ター北	36人	47.2%	2人	50.0%	18人	55.6%	16人	37.5%	-	-	1人	-	32人	53.1%	3人	-

※全体の「満足(計)」の高い順

は回答者数(n数)が30人未満

(8) 北区独自サービスの不満点

「問 23(3)で「4.やや不満」、「5.不満」と回答されたサービスについてお答えください」

問 23(4) 以下の不満なことから、あてはまる番号を選んで記入してください。

各サービスの「不満(計)」「やや不満」と「不満」の合計は全体的に低く、最も不満が強いサービスでも 27.3%と 3 割未満となっています。そのため、「不満(計)」と回答した人に質問した不満点は、すべてのサービスで回答者数(n数)が少なく参考程度となっています。

問 23(4) 北区独自サービスの不満点

	(n)	足回り数 ないや い時間 が	合利 わ用 ないの 日時 が	がサ よー くビ ない の質	業利 所用 がで 少 なる 事	し者事 まが業 う代所 わの つ担 て当	そ の 他	無 回 答	問22(3) 満足度	
									利用者 数	不満(計)
地域活動支援室/支援センターきらきら	(3)	1人	2人	1人	1人	1人	—	—	11人	27.3%
就労支援センター北	(7)	2人	2人	3人	—	1人	1人	1人	36人	19.4%
基幹相談支援センター	(3)	1人	1人	—	1人	1人	—	2人	16人	18.8%
移動支援	(18)	7人	6人	1人	10人	2人	4人	3人	125人	14.4%
区の相談窓口	(15)	2人	2人	9人	4人	5人	4人	2人	106人	14.2%
日中一時支援	(4)	3人	1人	1人	3人	1人	—	—	43人	9.3%
手話通訳派遣 (意思疎通支援)	—	—	—	—	—	—	—	—	4人	—

* 不満(計)の高い順

<サービスの説明>

サービス名	サービスの内容
①移動支援	移動が難しい障害児・者の自立生活及び社会参加を促進するため、ガイドヘルパーを派遣する。
②日中一時支援	日中の活動の場の確保、一時的な見守りを行う。
③手話通訳派遣(意思疎通支援)	聴覚・言語障害などのある人に手話通訳者などを派遣する。
④区の相談窓口※	王子障害相談係(区役所)と赤羽障害相談係(赤羽会館)で総合的な相談を行う。
⑤基幹相談支援センター	北区内の関係機関と協力しながら、障害のある人の暮らしをさまざまな方法で支援する。
⑥地域活動支援室/支援センターきらきら	相談支援や創作的活動などの機会を提供して、社会との交流などを促進する。
⑦就労支援センター北	一般就労を促進し、安心して働き続けられるよう、就労面と生活面の支援を一体的に行う。

※王子・赤羽障害相談係(手話通訳連絡所含む)、滝野川地域障害者支援センター

10 障害児について

(1) 療育に関する希望

《18歳未満の障害児の保護者の方にうかがいます》

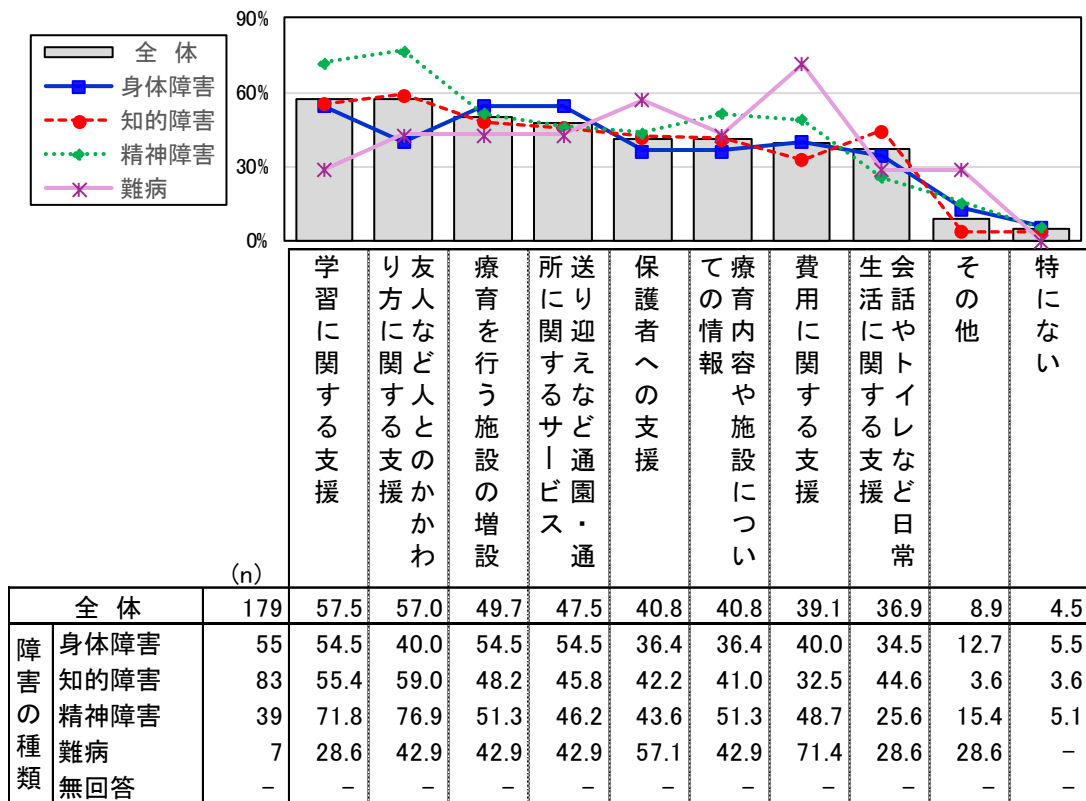
問 24 18歳未満の子どもが受けている療育について、充実を望むものは何ですか。

(回答はいくつでも)

全体では、「学習に関する支援」57.5%と「友人など人とのかかわり方に関する支援」57.0%がほぼ同率で高く、次いで「療育を行う施設の増設」49.7%、「送り迎えなど通園・通所に関するサービス」47.5%となっています。

障害別にみると、精神障害では「友人など人とのかかわり方に関する支援」76.9%、「学習に関する支援」71.8%が特に高く、回答者数が少なく参考程度となりますが、難病(n=7)では「費用に関する支援」が7割を超えています。

問 24 療育に関する希望



(2) 学校教育や学校生活に関する希望

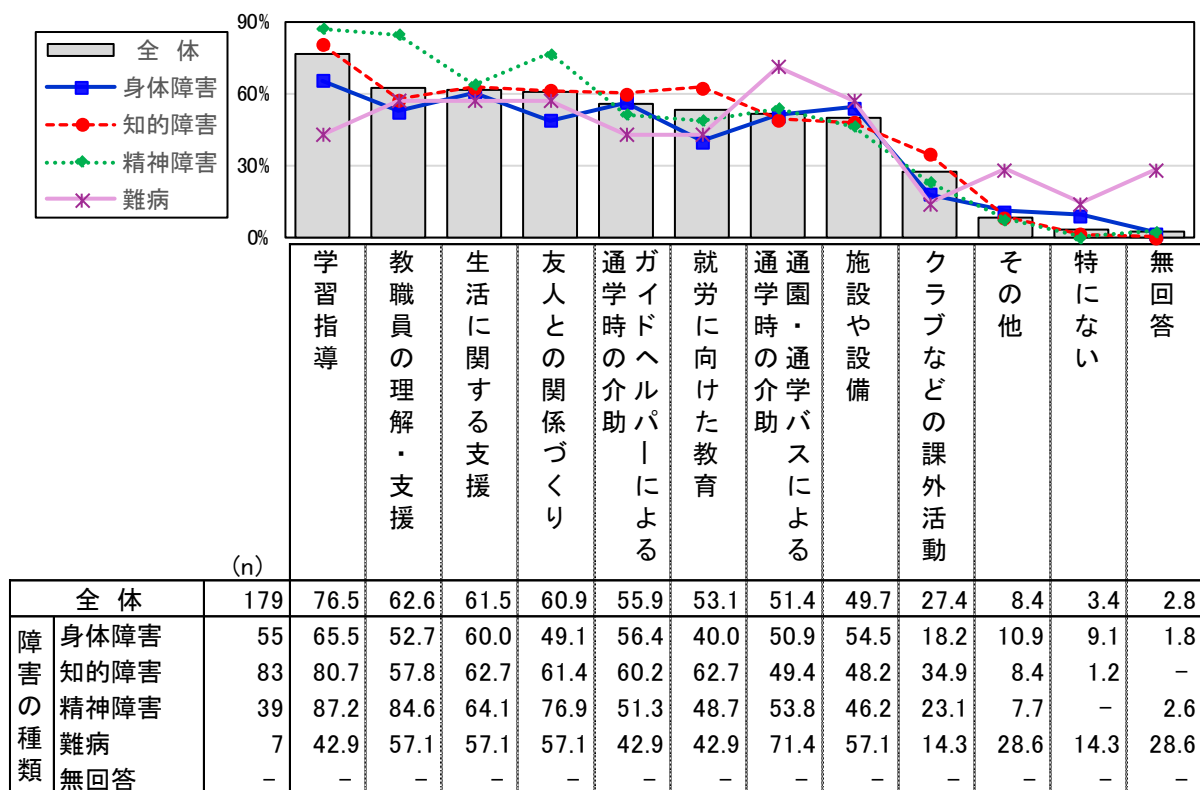
《18歳未満の障害児の保護者の方にかかっています》

問 25 小学生～高校生のお子さんが受けている教育や学校生活について、充実させるべきだと思う点がありますか。(回答はいくつでも)

全体では、「学習指導」が76.5%で最も高く、次いで「教職員の理解・支援」62.6%、「生活に関する支援」61.5%、「友人との関係づくり」60.9%が6割を超えています。

障害別にみると、知的障害と精神障害では「学習指導」が8割を超えています。精神障害では「教職員の理解・支援」と「友人との関係づくり」も8割前後と高くなっています。

問 25 小学生～高校生の教育や学校生活に関する希望



(3) 発達について気になり始めた時期

《18歳未満の障害児の保護者の方に向かっていきます》

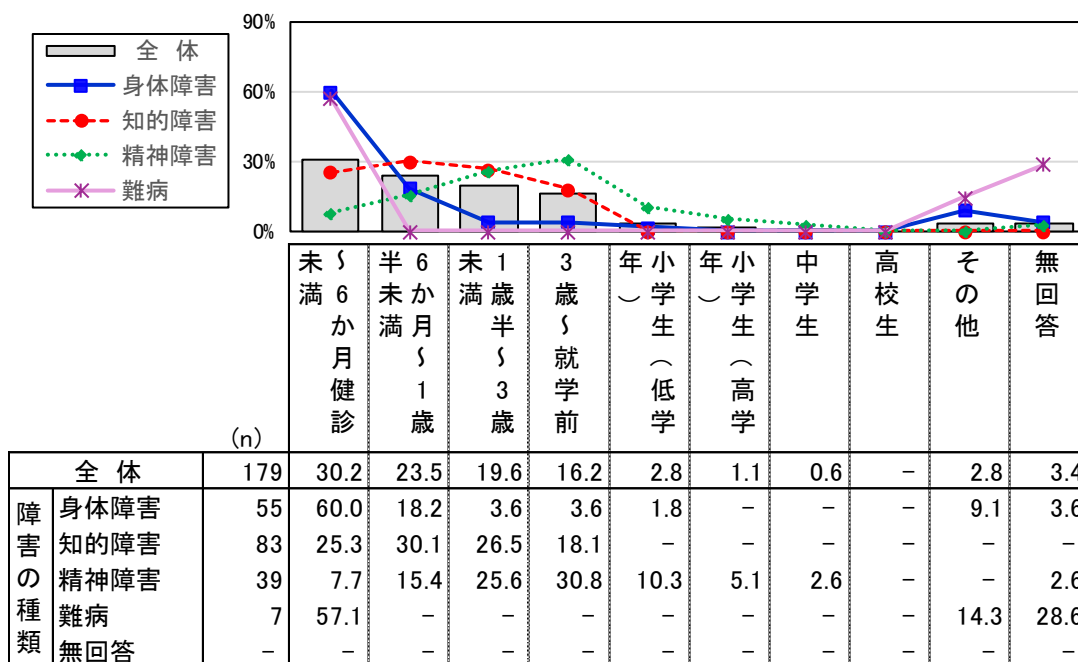
問 26 お子さんの発達や行動などについて、気になり始めたのは何歳のころですか。

(回答は1つだけ)

全体では、「～6か月健診未満」が30.2%で最も高く、次いで「6か月～1歳半未満」23.5%、「1歳半～3歳未満」19.6%と、3歳未満で7割を超え、大部分が早期の段階で気づいています。

障害別にみると、身体障害では「～6か月健診未満」が60.0%と早期に気づく一方、精神障害では「3歳～就学前」30.8%、「1歳半～3歳未満」25.6%と比較的遅くなっています。

問 26 発達について気になり始めた時期



(4) 子どもの障害や心身の不調がはじめてわかった時

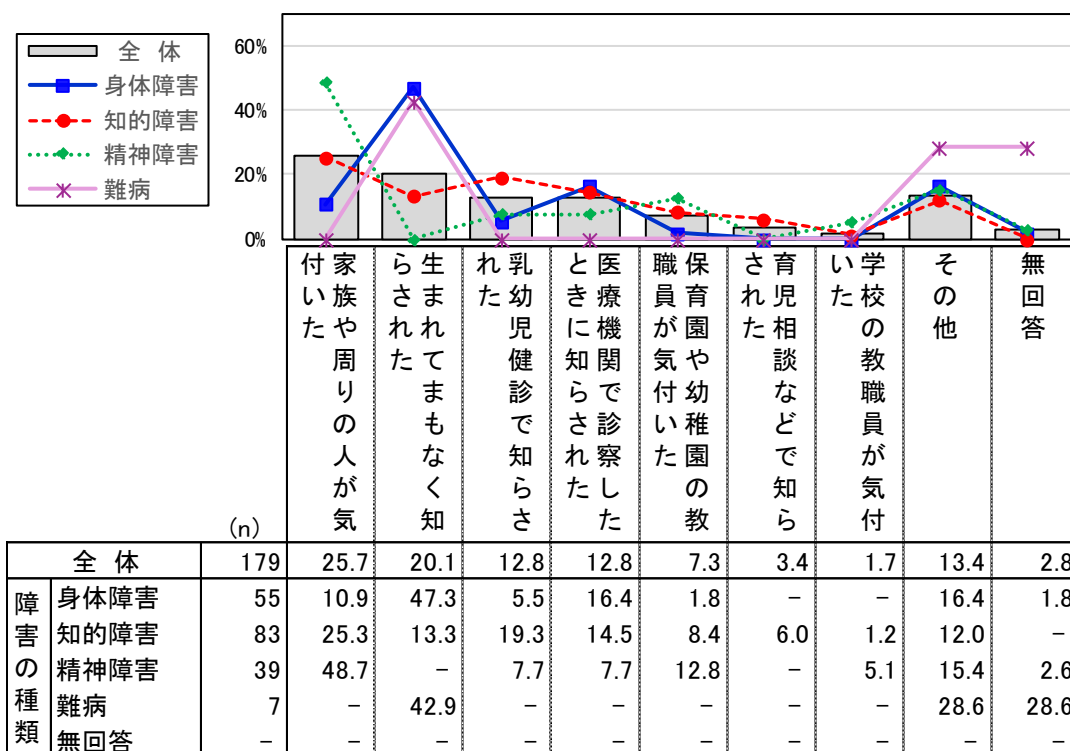
《18歳未満の障害児の保護者の方にかがいます》

問 27 お子さんの障害や心身の不調について、はじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(回答は1つだけ)

全体では、「家族や周りの人が気付いた」が 25.7%で最も高く、次いで「生まれてまもなく知らされた」20.1%、「乳幼児健診で知らされた」と「医療機関で診察した時に知らされた」がともに 12.8%となっています。

障害別にみると、身体障害では「生まれてまもなく知らされた」47.3%が最も高く、精神障害では「家族や周りの人が気付いた」48.7%が最も高くなっています。

問 27 子どもの障害や心身の不調がはじめてわかった時



(5) 子どもの発達や行動についての相談先

《18歳未満の障害児の保護者の方にかかっています》

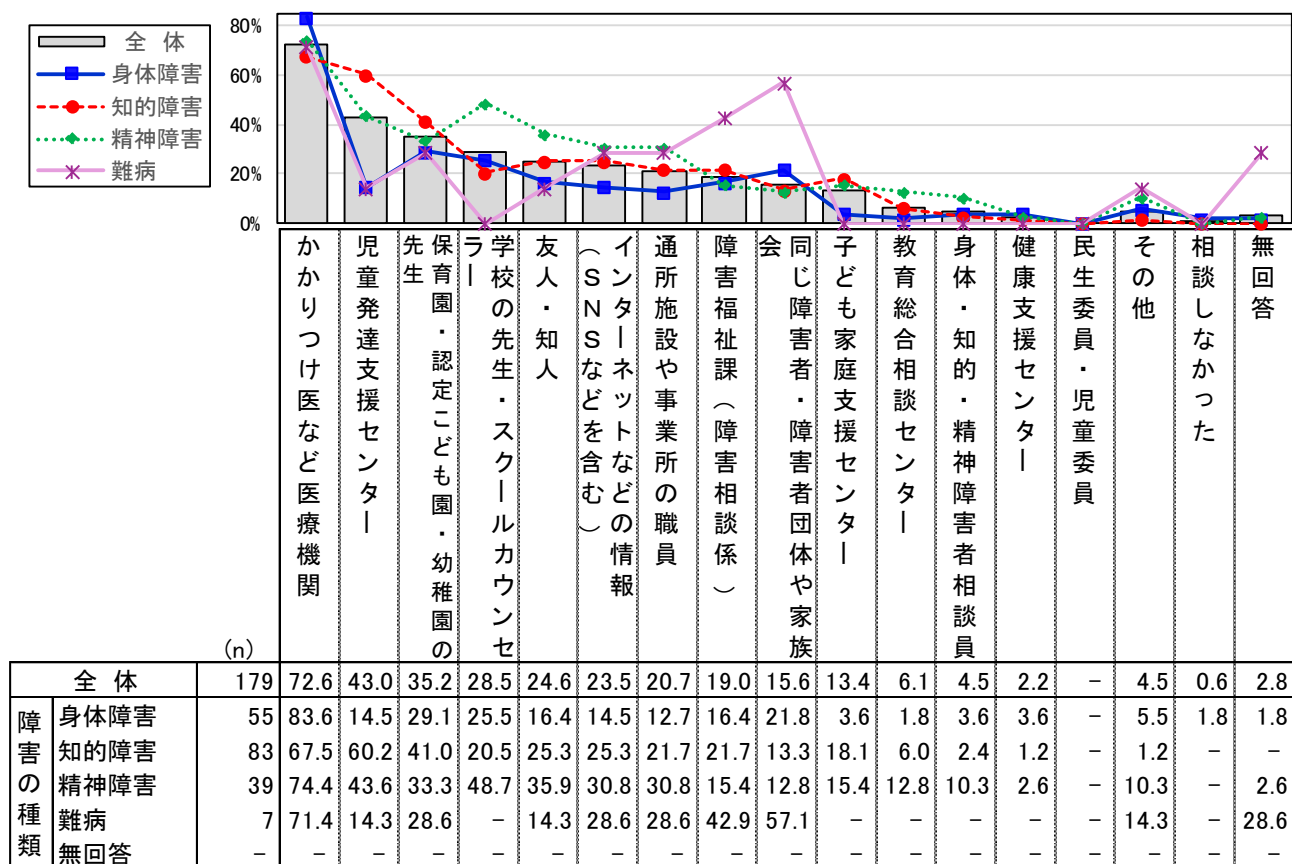
問 28 家族以外で、お子さんの発達や行動などについて、だれ(どこ)に相談しましたか。

(回答はいくつでも)

全体では、「かかりつけ医など医療機関」が72.6%で最も高く、次いで「児童発達支援センター」43.0%、「保育園・認定こども園・幼稚園の先生」35.2%となっています。

障害別にみると、身体障害では「かかりつけ医など医療機関」83.6%だけが高く、知的障害では「かかりつけ医など医療機関」67.5%、「児童発達支援センター」60.2%が高くなっています。精神障害でも「かかりつけ医など医療機関」74.4%が最も高くなっていますが、「学校の先生・スクールカウンセラー」48.7%、「児童発達支援センター」43.6%、「友人・知人」35.9%と比較的多くの人に相談しています。

問 28 子どもの発達や行動についての相談先



11 権利擁護について

問 29 を回答するにあたっての解説

成年後見制度

認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る制度です。成年後見人などがこうした人の意思を尊重し、法律面や生活面でその人らしい生活を守るため、お手伝いします。

制度には次の2種類があります。

● 「法定後見」 <すでに判断能力が不十分な方に>

家庭裁判所によって選ばれた成年後見人・保佐人・補助人が、本人の利益を考えながら、代理権や同意権・取消権を活用することによって、本人を保護・支援する制度です。

● 「任意後見」 <将来の不安に備えたい方に>

判断能力が不十分になった場合に備えて、本人があらかじめ選んだ方(将来の任意後見人)と将来お願いする内容を決め、公正証書で契約します。

(1) 成年後見制度の認知と利用

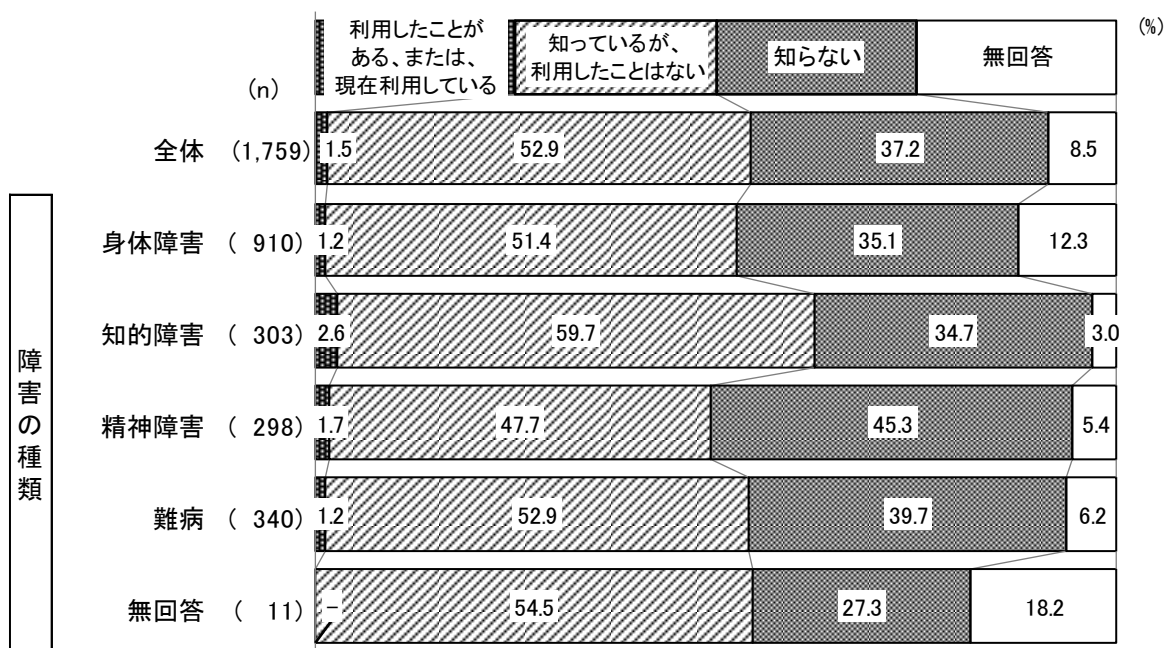
問 29 すべての方にうかがいます。

あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。また、利用したことはありますか。(回答は1つだけ)

全体では「知っているが、利用したことはない」が 52.9%で最も高く、「知らない」37.2%となっています。「利用したことがある、または、現在利用している」は 1.5%と非常に少なくなっています。

障害別にみると、知的障害では「知っているが、利用したことはない」が 59.7%とほぼ 6 割に達し、「利用したことがある、または、現在利用している」2.6%も他の障害に比べると高くなっています。精神障害では「知らない」が 45.3%と他の障害と比べて高くなっています。

問 29 成年後見制度の認知と利用





問 30～31 を回答するにあたっての解説

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)

平成 28 年 4 月 1 日からスタートした障害者差別解消法では「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。そのことによって、障害のある人もない人も共に暮らせる社会を目指しています。

● 「不当な差別的取扱いの禁止」とは

この法律では、国・都道府県・市町村などの行政機関や、会社やお店などの事業者が、障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。これを「不当な差別的取扱いの禁止」といいます。

例：「障害を理由に窓口対応を拒否される」「車いすを理由に交通機関の利用を拒否される」など

● 「合理的配慮の提供」とは

障害のある人は、社会の中にあるバリアによって生活しづらい場合があります。この法律では、国・都道府県・市町村などの行政機関や、会社やお店などの事業者に対して、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたとき(※)に、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。これを「合理的配慮の提供」といいます。

※言語(手話を含む。)、点字、拡大文字、筆談、実物を示すことや身振りなどのサインによる合図、触覚など様々な手段により意思が伝えられることをいいます。通訳や障害のある人の家族、支援者、介助者、法定代理人など、障害のある人のコミュニケーションを支援する人のサポートにより本人の意思が伝えられることも含まれます。

(2) 障害者差別解消法の認知状況

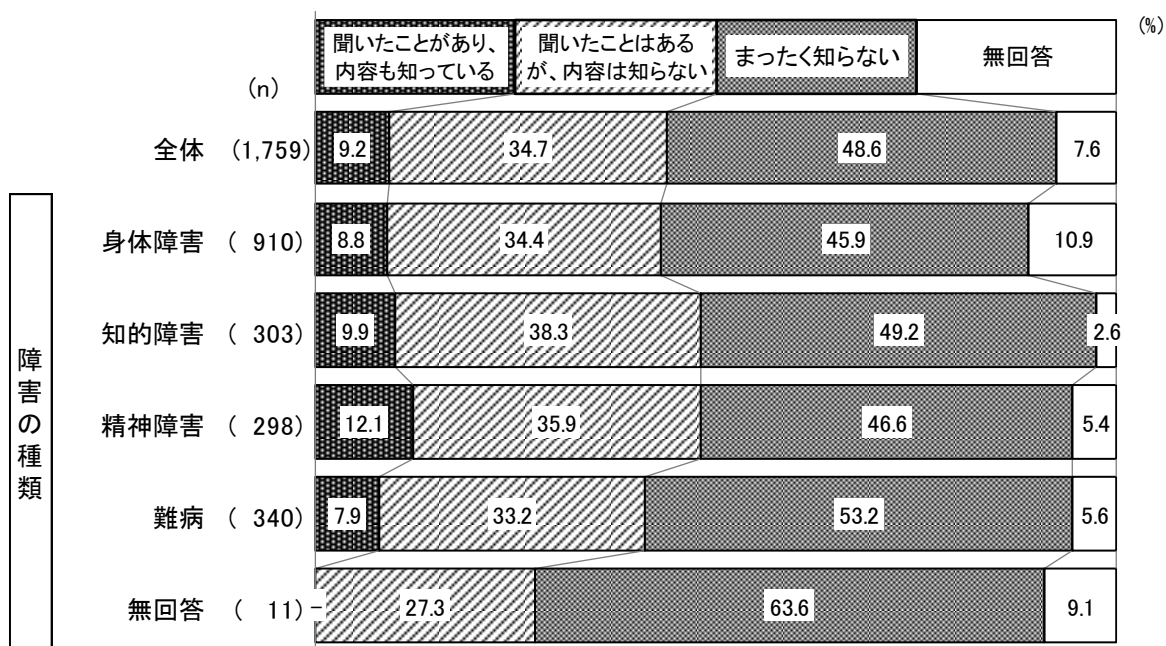
問 30 すべての方にうかがいます。

あなたは、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)について知っていますか。(回答は1つだけ)

全体では、「まったく知らない」が48.6%で約半数を占めており、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」34.7%となっています。「聞いたことがあり、内容も知っている」は9.2%と1割にとどいていません。

障害別にみると、難病では「まったく知らない」が53.2%と5割を超え、精神障害では「聞いたことがあり、内容も知っている」が12.1%と他の障害より高くなっています。

問 30 障害者差別解消法の認知状況



(3) 障害を理由とする差別を感じた経験

問 31 すべての方にうかがいます。

あなたは、障害を理由とする差別を感じたことがありますか。

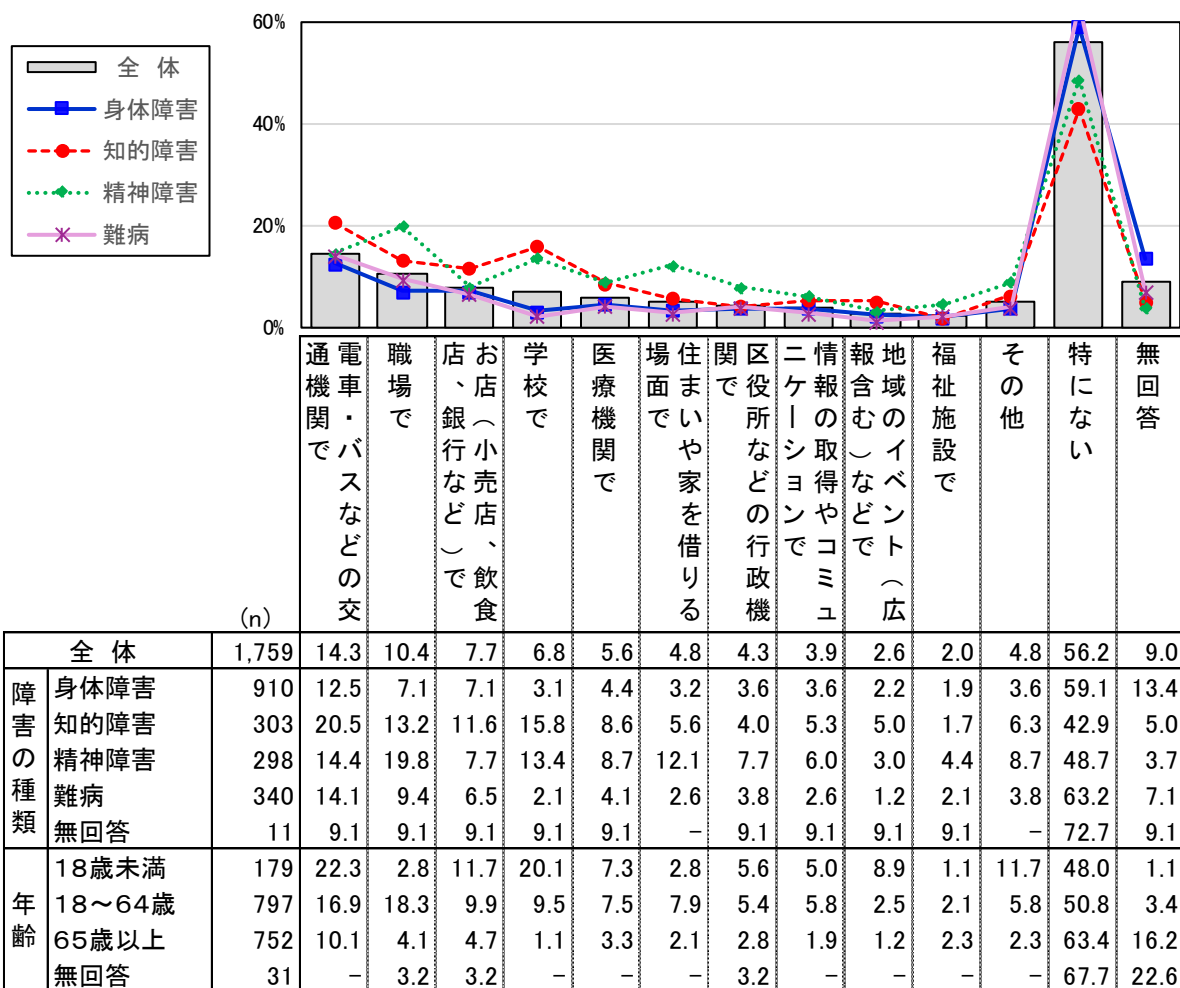
(「あてはまる場面」をいくつでも回答)

全体では、「特にない」が 56.2%で最も高くなっています。場面別では「電車・バスなどの交通機関で」14.3%が最も高く、次いで「職場で」10.4%となっています。

障害別にみると、知的障害は「特にない」が 42.9%と他の障害に比べて低く、差別を感じた経験が高い傾向があります。具体的には「電車・バスなどの交通機関で」20.5%が最も高く、次いで「学校で」15.8%、「職場で」13.2%、「お店(小売店、飲食店、銀行など)」11.6%となっています。精神障害では「職場で」19.8%が最も高く、「電車・バスなどの交通機関で」14.4%、「学校で」13.4%となっています。

年齢別にみると、18歳未満は「電車・バスなどの交通機関で」22.3%、「学校で」20.1%が高く、18～64歳は「職場で」18.3%が高くなっています。65歳以上は「特にない」が 63.4%と差別を感じたことが少なくなっています。

問 31 障害を理由とする差別を感じた経験



身体障害の種類別にみると、視覚では「お店(小売店、飲食店、銀行など)で」14.8%と「電車・バスなどの交通機関で」13.1%が比較的高くなっています。聴覚・平衡機能では「職場で」と「お店(小売店、飲食店、銀行など)で」がともに 13.5%、「電車・バスなどの交通機関で」11.2%が比較的高くなっています。肢体不自由(上肢・下肢・体幹・運動)では「電車・バスなどの交通機関で」18.5%が最も高く、内部障害(心臓・肝臓・呼吸器・小腸など)では「特にない」が 66.4%と差別を感じる事が少なくなっています。

問 31 障害を理由とする差別を感じた経験(身体障害の種類別)

		(n)	通 電 車 機 関 で	職 場 で	店 お 店 、 銀 行 な ど 、 飲 食	学 校 で	医 療 機 関 で	場 住 ま い や 家 を 借 り る	関 区 役 所 な ど の 行 政 機 関	二 情 報 の 取 得 や コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン で	報 含 む の イ ベ ン ト 、 地 域 の 広 告	福 祉 施 設 で	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		910	12.5	7.1	7.1	3.1	4.4	3.2	3.6	3.6	2.2	1.9	3.6	59.1	13.4
身 体 障 害 の 種 類	視覚	61	13.1	8.2	14.8	6.6	8.2	3.3	8.2	6.6	4.9	3.3	6.6	52.5	9.8
	聴覚・平衡機能	89	11.2	13.5	13.5	4.5	6.7	3.4	4.5	10.1	4.5	1.1	4.5	46.1	18.0
	音声・言語機能・ そしゃく	26	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	-	3.8	-	-	3.8	50.0	23.1
	肢体不自由(上肢・ 下肢・体幹・運動)	384	18.5	10.2	9.6	4.2	4.9	4.4	4.2	4.4	2.9	2.9	4.4	55.2	11.2
	内部障害(心臓・肝臓・ 呼吸器・小腸など)	345	8.4	4.1	3.8	0.9	2.0	1.4	2.6	1.4	1.2	0.6	2.3	66.4	13.3
	免疫機能障害	25	12.0	4.0	-	-	32.0	12.0	-	-	-	4.0	4.0	52.0	8.0

精神障害の種類別にみると、気分障害(うつ病など)では「職場で」27.3%が最も高く、発達障害では「学校で」32.5%が 3 割を超えています。

問 31 障害を理由とする差別を感じた経験(精神障害の種類別)

		(n)	通 電 車 機 関 で	職 場 で	店 お 店 、 銀 行 な ど 、 飲 食	学 校 で	医 療 機 関 で	場 住 ま い や 家 を 借 り る	関 区 役 所 な ど の 行 政 機 関	二 情 報 の 取 得 や コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン で	報 含 む の イ ベ ン ト 、 地 域 の 広 告	福 祉 施 設 で	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		298	14.4	19.8	7.7	13.4	8.7	12.1	7.7	6.0	3.0	4.4	8.7	48.7	3.7
精 神 障 害 の 種 類	統合失調症	54	14.8	13.0	14.8	11.1	11.1	9.3	11.1	3.7	1.9	7.4	7.4	55.6	5.6
	気分障害(うつ病など)	143	14.0	27.3	4.9	8.4	8.4	16.1	6.3	7.0	2.1	1.4	9.1	47.6	2.1
	依存症	2	-	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	てんかん	13	7.7	23.1	-	15.4	-	15.4	15.4	7.7	-	15.4	7.7	53.8	7.7
	認知症	4	-	50.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	発達障害	77	18.2	18.2	7.8	32.5	7.8	13.0	3.9	7.8	5.2	2.6	10.4	39.0	3.9
	高次脳機能障害	4	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	-



問 32～33-1 を回答するにあたっての解説

北区障害者虐待防止センター

障害福祉課王子障害相談係で、障害者の虐待にかかわる通報や届出、支援などの相談を受け付けている。障害者虐待に気づいた人は、区の担当窓口への通報義務がある。

北区障害者虐待防止センター

北区役所第一庁舎 1 階2番(障害福祉課 王子障害相談係内)

電話:03-3908-9081/FAX:03-3908-5344

(4)「障害者虐待防止センター」の認知状況

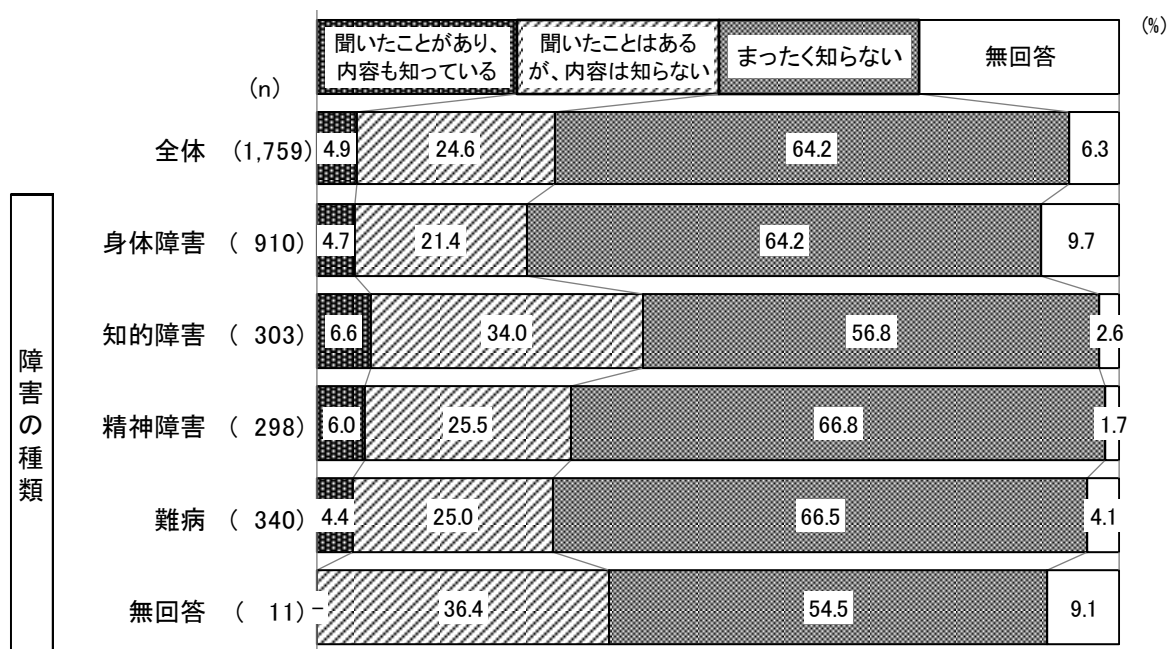
問 32 すべての方にうかがいます。

あなたは、区が障害者の虐待に関わる通報や相談を受け付ける「障害者虐待防止センター」を開設していることを知っていますか。(回答は1つだけ)

全体では「まったく知らない」が 64.2%と約 3 分の 2 を占めており、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 24.6%で、「聞いたことがあり、内容も知っている」は 4.9%にとどまっています。

障害別にみると、知的障害では「まったく知らない」が 56.8%とやや低く、「聞いたことはあるが、内容は知らない」34.0%が高くなっています。

問 32 「障害者虐待防止センター」の認知状況



(5) 虐待を見たり聞いたり、受けた経験

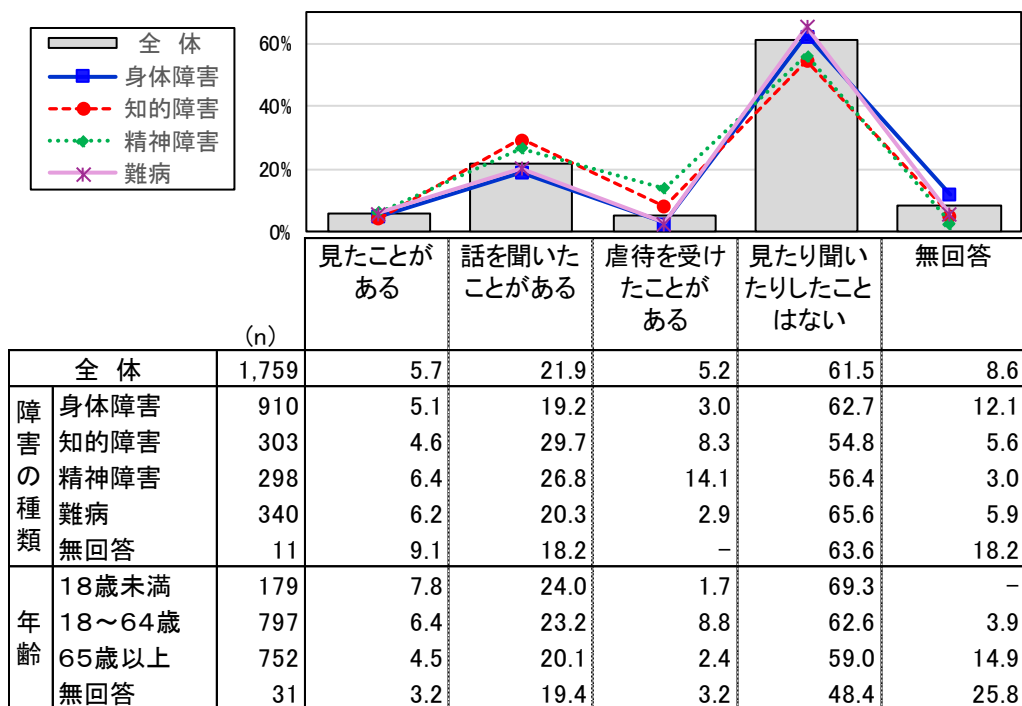
問 33 すべての方にうかがいます。

障害者に対する虐待を見たり聞いたり、または、あなたご自身が虐待を受けたことがありますか。(回答はいくつでも)

全体では、「見たり聞いたりしたことはない」が61.5%と6割を超えています。以下、「話を聞いたことがある」21.9%、「虐待を受けたことがある」5.2%、「見たことがある」5.7%となっています。

障害別にみると、精神障害では「虐待を受けたことがある」が14.1%と他の障害に比べて高くなっています。

問 33 虐待を見たり聞いたり、受けた経験



(6) 経験した虐待の内容

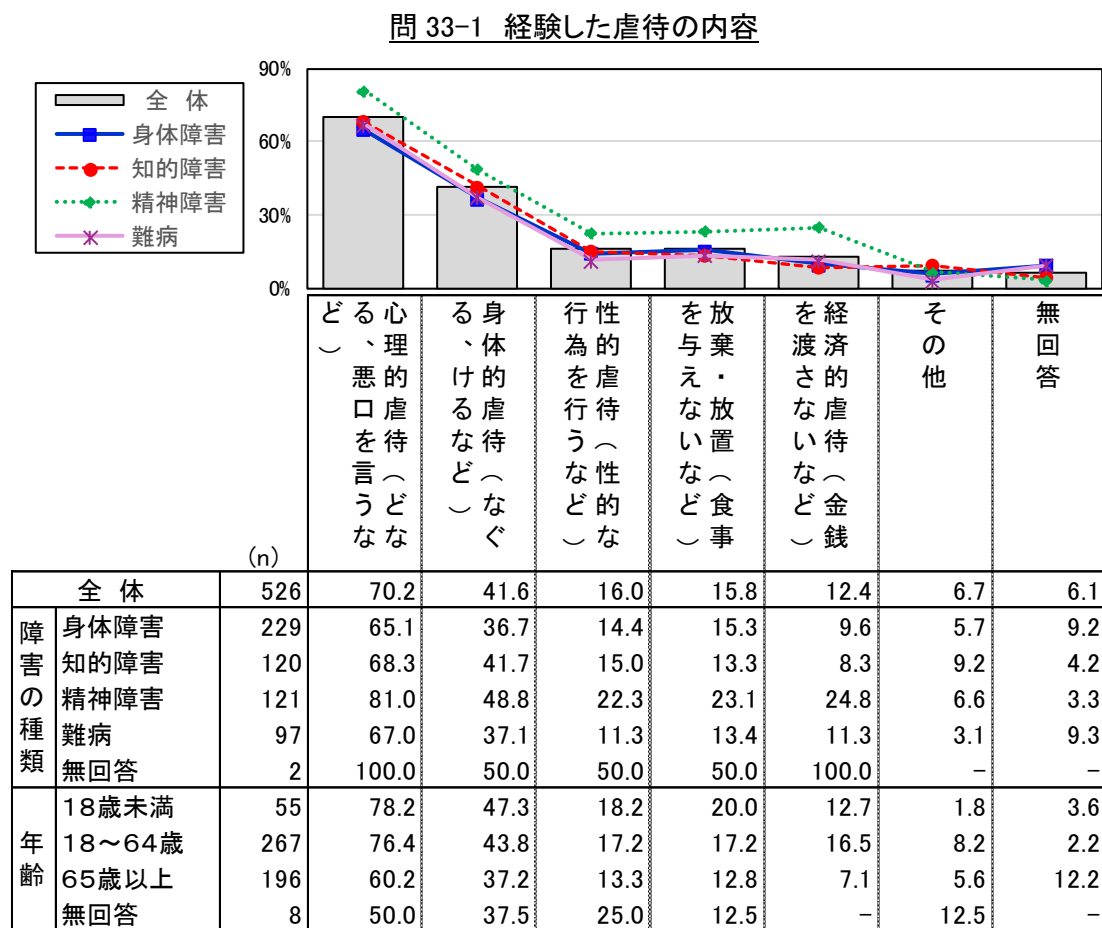
「問 33 で「1. 見たことがある」、「2. 話を聞いたことがある」、「3. 虐待を受けたことがある」に回答した方にかがいます」

問 33-1 見たり聞いたりした、または、あなたが受けた虐待の内容は、次のどれですか。
(回答はいくつでも)

全体では、「心理的虐待(どなる、悪口を言うなど)」が 70.2% で最も高く、次いで「身体的虐待(なぐる、けるなど)」41.6% となっています。

障害別にみると、精神障害では「心理的虐待(どなる、悪口を言うなど)」が 81.0% と特に高くなっています。

年齢別にみると、64 歳以下では「心理的虐待(どなる、悪口を言うなど)」が 8 割近くと特に高くなっています。



12 災害対策について



問 34～37 を回答するにあたっての解説

避難行動要支援者名簿

災害のときに、自分の力で避難することが難しく、特に支援が必要な方を「避難行動要支援者」として、自動的に、または希望した方を名簿に登録している。名簿は、安否確認などの避難支援に活用される。※以下の条件に該当する方は、自動的に登録されます。

- ①要介護 3～5 の認定を受けている方、②身体障害者手帳1・2級及び体幹3級の方、③愛の手帳(1・2 度)をお持ちの方、④精神障害者保健福祉手帳(1 級)をお持ちの方

(1) 災害への不安として感じること

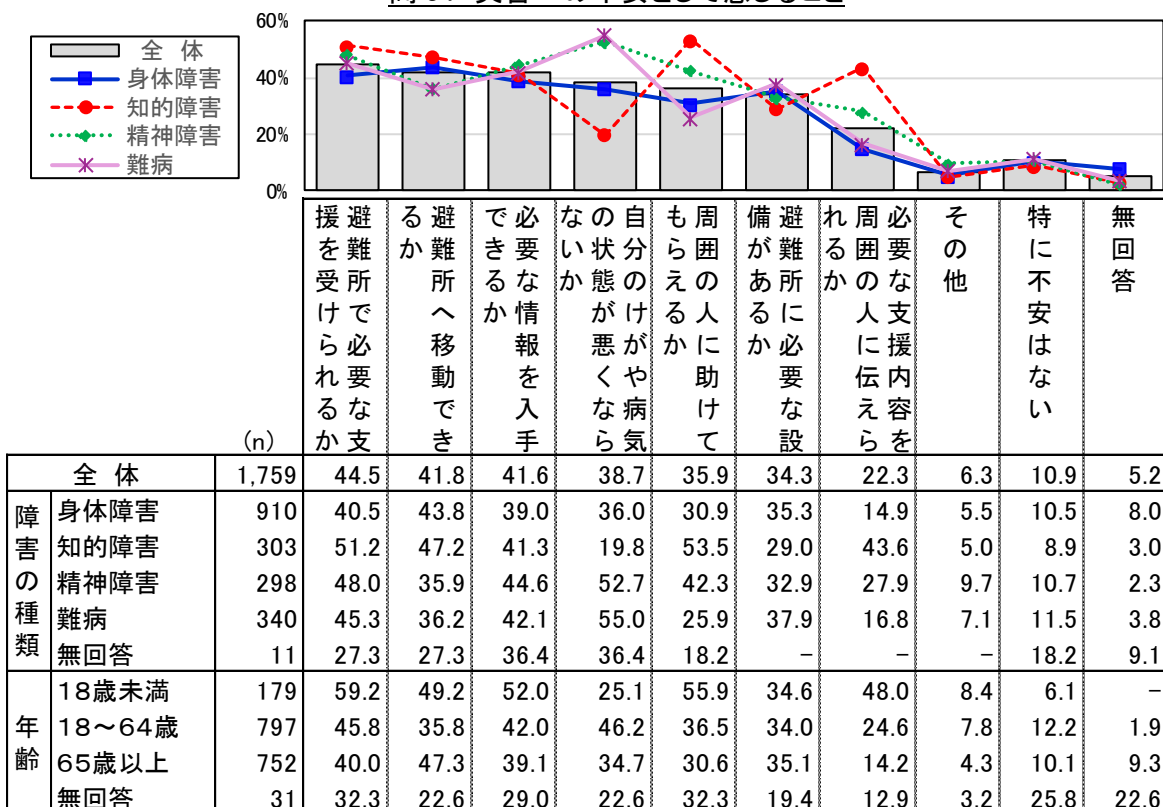
問 34 すべての方にうかがいます。あなたが地震や台風などの災害への不安として感じることは何ですか。(回答はいくつでも)

全体では、「避難所で必要な支援を受けられるか」が 44.5%で最も高く、次いで「避難所へ移動できるか」41.8%、「必要な情報を入手できるか」41.6%となっています。

障害別にみると、知的障害では「周囲の人に助けってもらえるか」53.5%と「避難所で必要な支援を受けられるか」51.2%、「避難所へ移動できるか」47.2%が 5 割前後に達しています。精神障害と難病では「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」が 5 割を超えています。

年齢別にみると、18 歳未満では「避難所で必要な支援を受けられるか」59.2%と「周囲の人に助けってもらえるか」55.9%、「必要な情報を入手できるか」52.0%が 5 割を超えています。

問 34 災害への不安として感じること



身体障害の種類別にみると、視覚と肢体不自由(上肢・下肢・体幹・運動)では「避難所へ移動できるか」が5割半ばで最も高く、聴覚・平衡機能では「必要な情報を入手できるか」57.3%が最も高くなっています。回答者数が少なく参考程度となりますが、免疫機能障害(n=25)では「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」が最も高くなっており、障害の種類によって不安の内容に違いがみられます。

問 34 災害への不安として感じる事(身体障害の種類別)

		(n)	受け難所 られるか	避難所へ 移動でき るか	必要な 情報を入 手でき るか	自分のけ がや病 気の状態 が悪く ならない か	周囲の 人に助 けてもら えるか	避難所 に必要 な設備 がある か	必要に 伝えら れるか	必要に 支援内 容を周 囲の人 に伝え られる か	その他	特に不 安はな い	無回 答
全体		910	40.5	43.8	39.0	36.0	30.9	35.3	14.9	5.5	10.5	8.0	
身体 障害 の 種 類	視覚	61	29.5	54.1	45.9	36.1	36.1	19.7	19.7	3.3	8.2	8.2	
	聴覚・平衡機能	89	40.4	34.8	57.3	22.5	38.2	31.5	15.7	3.4	10.1	11.2	
	音声・言語機能・ そしゃく	26	26.9	30.8	30.8	15.4	26.9	30.8	11.5	7.7	19.2	11.5	
	肢体不自由(上肢・ 下肢・体幹・運動)	384	44.3	55.2	35.4	32.0	36.5	42.2	14.1	6.5	10.2	6.5	
	内部障害(心臓・肝臓・呼吸 器・小腸など)	345	42.6	34.2	41.7	44.9	24.6	35.9	15.4	6.7	11.0	7.5	
	免疫機能障害	25	24.0	12.0	24.0	60.0	4.0	12.0	-	8.0	16.0	4.0	

(2) 災害時の援助者

問 35 すべての方にうかがいます。

災害のとき、あなたの避難を助けてくれる家族以外の方はいますか。

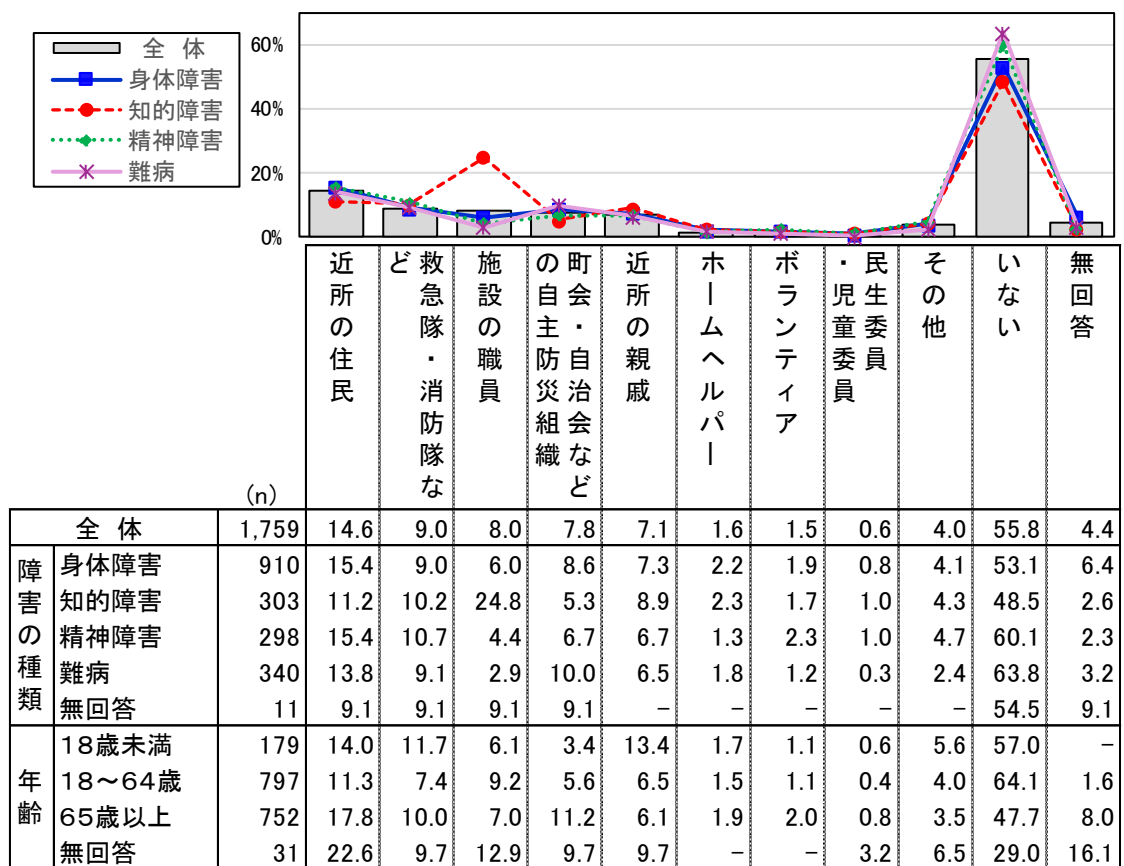
(回答はいくつでも)

全体では「いない」が 55.8%と半数を超えており、「近所の住民」が 14.6%、「救急隊・消防隊など」が 9.0%となっています。

障害別にみると、精神障害と難病では「いない」が 6 割を超えています。

年齢別にみると、65 歳以上では「近所の住民」17.8%が 64 歳以下より高く、「いない」47.7%が比較的低くなっています。

問 35 災害時の援助者



(3) 災害時避難場所

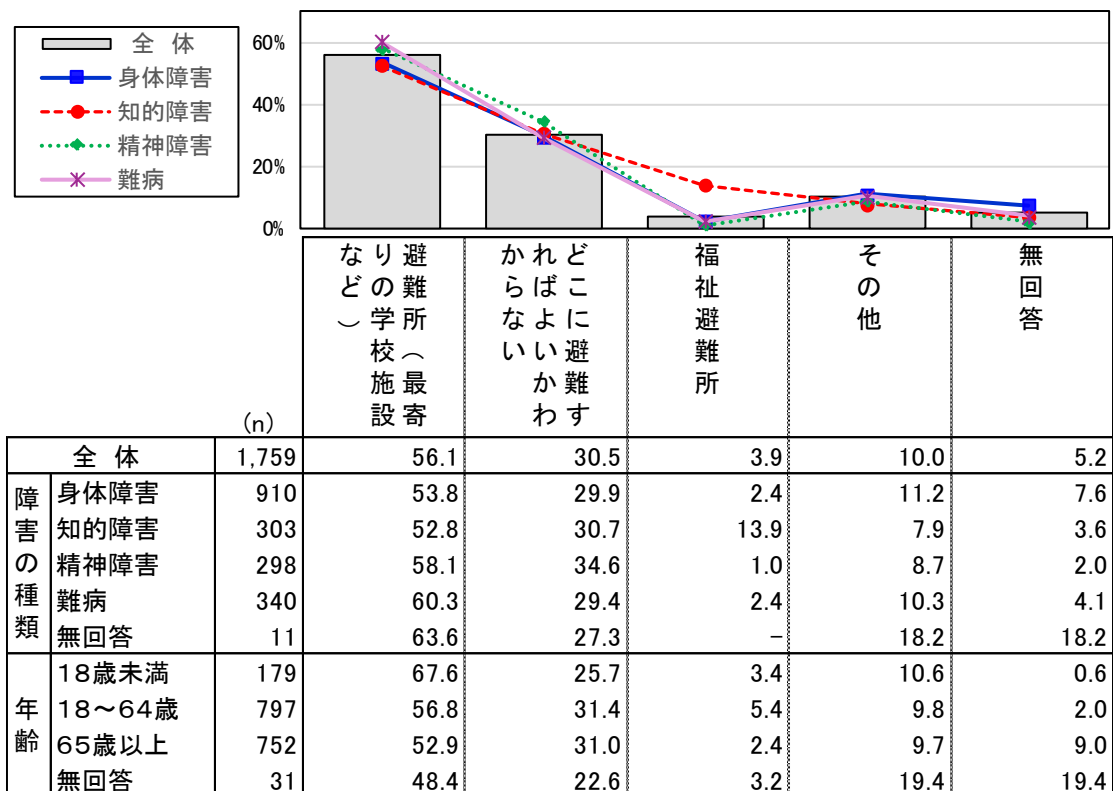
問 36 すべての方にうかがいます。

災害のとき、どこに避難するか決めていますか。(回答はいくつでも)

災害時の避難場所について、全体では「避難所(最寄りの学校施設など)」が 56.1%で最も高く、次いで「どこに避難すればよいかわからない」30.5%、「福祉避難所」3.9%となっています。

障害別にみると、難病では「避難所(最寄りの学校施設など)」が 60.3%と最も高くなっています。「どこに避難すればよいかわからない」が全体で 3 割を超えており、避難場所の事前確認の促進が課題として示されています。

問 36 災害時避難場所



(4) 災害に備えた特別な対策

問 37 すべての方にうかがいます。

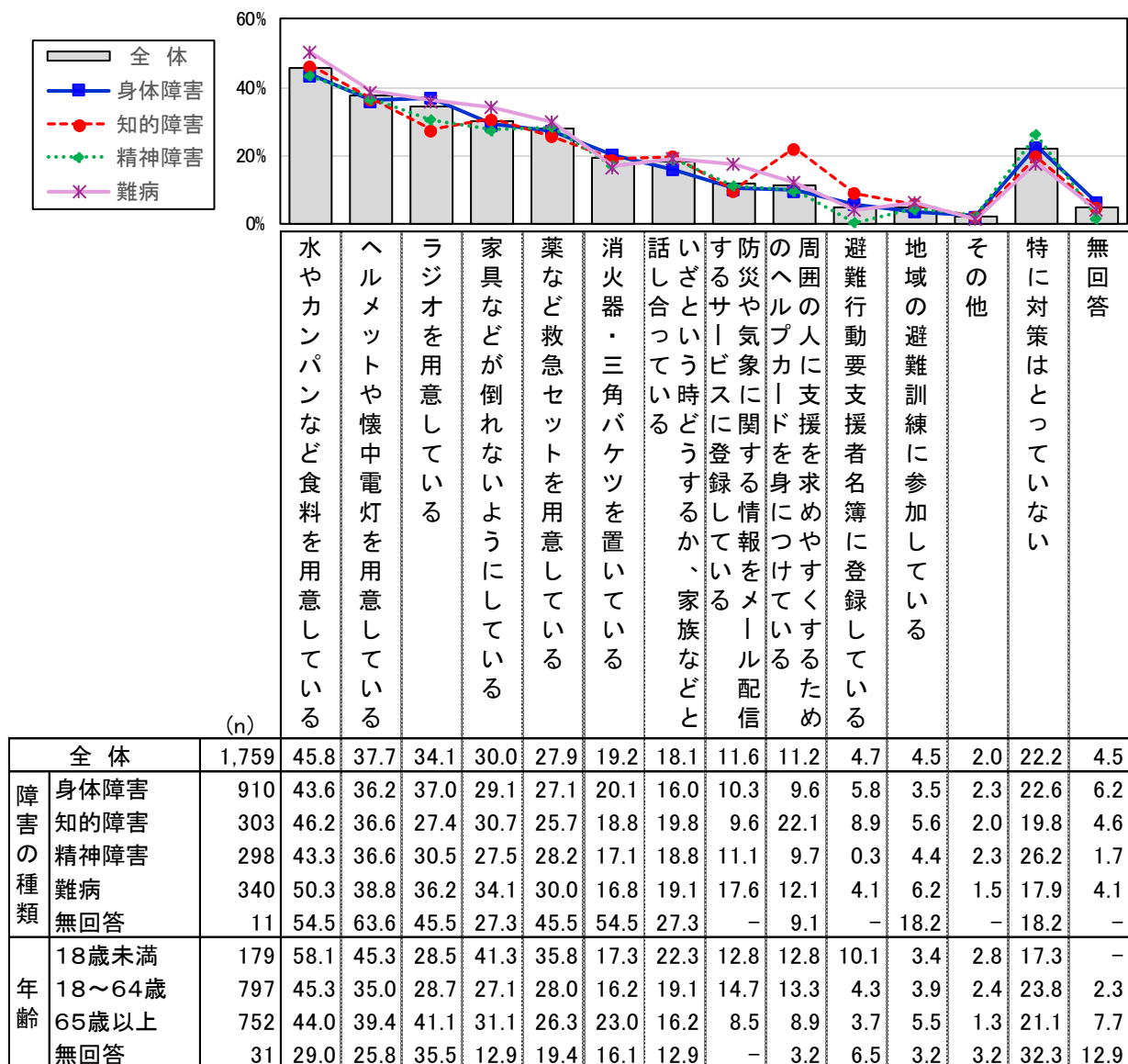
あなたは、災害に備えて特別な対策をとっていますか。(回答はいくつでも)

全体では「水やカンパンなど食料を用意している」が 45.8%で最も高く、次いで「ヘルメットや懐中電灯を用意している」37.7%、「ラジオを用意している」34.1%となっています。一方、「特に対策はとっていない」は 22.2%と 2 割を超えており、「避難行動要支援者名簿に登録している」は 4.7%にとどまっています。

障害別に大きな違いはありません。

年齢別にみると、18 歳未満では「水やカンパンなど食料を用意している」が 58.1%と 6 割近くになっています。

問 37 災害に備えた特別な対策



13 地域で安心して暮らしていくために

(1) 障害者・障害児が地域で安心して暮らしていくための施策

問 38 すべての方にうかがいます。

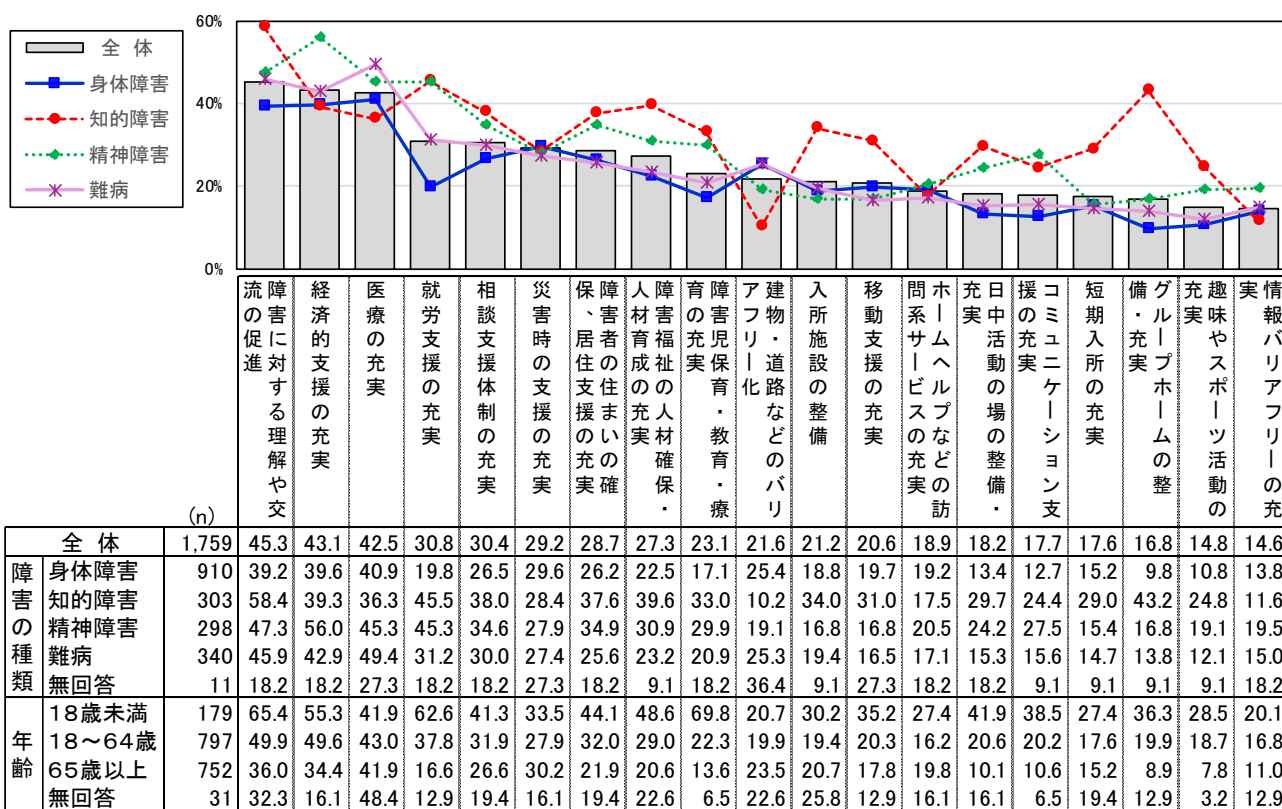
障害者・障害児が地域で安心して暮らしていくためには、どのような施策が重要だと思いますか。(回答はいくつでも)

全体では、「障害に対する理解や交流の促進」が 45.3%で最も高く、次いで「経済的支援の充実」43.1%、「医療の充実」42.5%と、上位 3 項目はあまり差がなく、いずれも 4 割を超えています。

障害別にみると、身体障害では、「医療の充実」40.9%が最も高く、僅差で「経済的支援の充実」39.6%、「障害に対する理解や交流の促進」39.2%の順になっています。知的障害では「障害に対する理解や交流の促進」58.4%が最も高く、精神障害では「経済的支援の充実」56.0%が最も高くなっています。難病では身体障害同様、「医療の充実」49.4%が最も高くなっており、障害により、重要と思う施策に違いがでてきます。

年齢別にみると、18 歳未満では「障害児保育・教育・療育の充実」69.8%が最も高く、「障害に対する理解や交流の促進」65.4%、「就労支援の充実」62.6%が 6 割を超えています。65 歳以上では「医療の充実」41.9%が最も高くなっています。

問 38 障害者・障害児が地域で安心して暮らしていくための施策



14 医療的ケア児について



問 39～42 を回答するにあたっての解説

医療的ケア児について

医療的ケア児：日常的に下記の医療的ケアが必要な方(基準日：令和 7 年 12 月 1 日)

年齢：18 歳未満の者及び 18 歳以上の者であって高等学校などに在籍するもの

- | | |
|--|--|
| ①人工呼吸器(鼻マスク式補助喚起法、ハイフローセラピー、間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置、高頻度胸壁振動装置など) | ⑧中心静脈カテーテルの管理(中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など) |
| ②気管切開の管理 | ⑨皮下注射 |
| ③鼻咽頭エアウェイの管理 | ⑩血糖測定 |
| ④酸素療法 | ⑪継続的な透析(血液透析、腹膜透析など) |
| ⑤吸引(口鼻腔内、気管内) | ⑫導尿(間欠的導尿、持続的導尿) |
| ⑥ネブライザーの管理 | ⑬排便管理(消化管スーマ、排便、洗腸、浣腸) |
| ⑦経管栄養 | ⑭痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動などの処置 |
| | ⑮その他 |

(1) 医療的ケアの必要性

《医療的ケア児の保護者の方にかかっています》

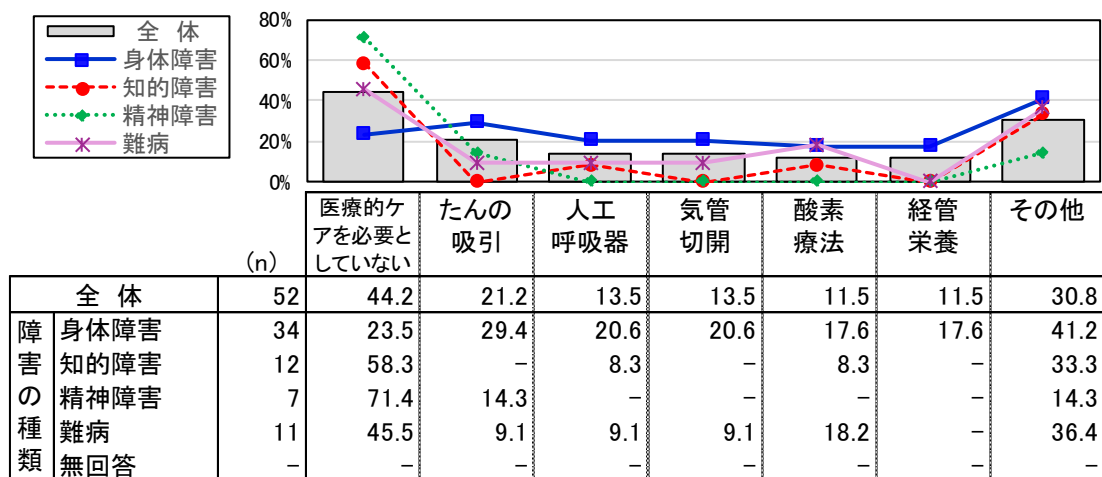
問 39 医療的ケア児の方は、日常生活で次の医療的ケアを必要としていますか。

(回答はいくつでも)

全体では、「医療的ケアを必要としていない」が 44.2%で最も高く、次いで「その他」30.8%となっています。

障害別にみると、身体障害では「その他」41.2%が最も高く、多様なケアが求められています。また、回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、知的障害(n=12)と精神障害(n=7)では「医療的ケアを必要としていない」が高くなっています。

問 39 医療的ケアの必要性



(2) 現在利用している障害サービス

《医療的ケア児の保護者の方にかがいます》

問 40(1) 現在利用している障害サービスはどのようなものですか。区内の事業所と区外の事業所についてそれぞれお答えください。(回答はそれぞれいくつでも)

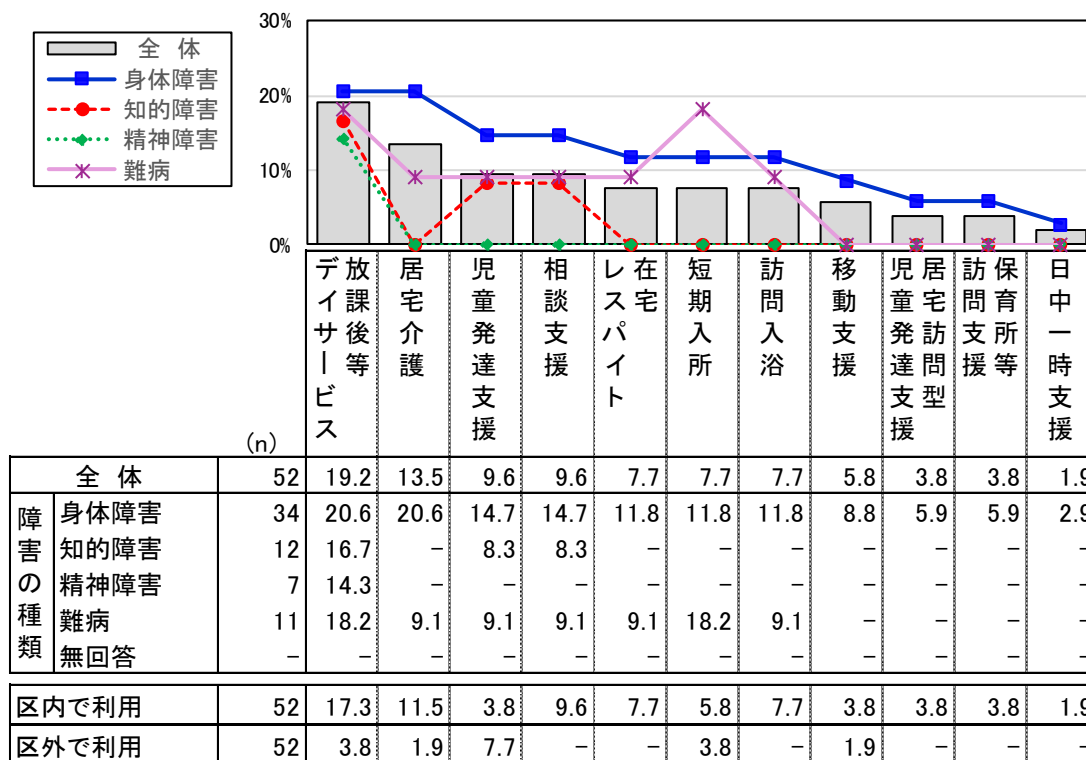
区内・区外を合わせた現在利用しているサービスとしては、「放課後等デイサービス」が 19.2% で最も高く、次いで「居宅介護」13.5%、「児童発達支援」「相談支援」がともに 9.6% となっています。

障害別にみると、身体障害では「居宅介護」「放課後等デイサービス」がともに 20.6% で最も高く、回答者数が少なく参考程度となりますが、難病(n=11)では「放課後等デイサービス」と「短期入所」がともに 18.2% で最も高くなっています。

区内で利用しているサービスでは、「放課後等デイサービス」17.3% が最も高くなっています。

区外では、「児童発達支援」7.7%、「放課後等デイサービス」と「短期入所」がともに 3.8% となっています。「児童発達支援」以外は区内の方が区外より、よく利用されています。

問 40(1) 現在利用している【区内+区外】障害サービス



(3) 今後利用したい障害サービス

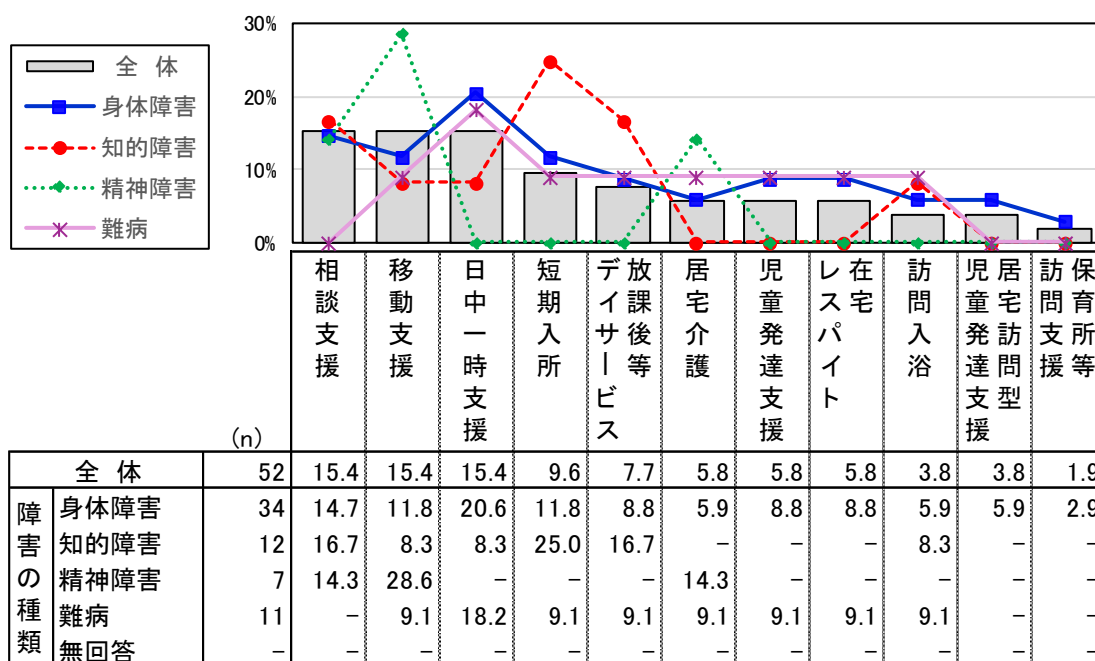
《医療的ケア児の保護者の方にかがいます》

問 40(2) 現在利用していないサービスの中で今後利用したいサービスはどれですか。
(回答はいくつでも)

全体では、「相談支援」と「移動支援」、「日中一時支援」がともに 15.4%で最も高くなっています。

障害別にみると、身体障害では「日中一時支援」20.6%が最も高く、回答者数が少なく参考程度となりますが、知的障害(n=12)では「短期入所」、精神障害(n=7)では「移動支援」、難病(n=11)では「日中一時支援」が最も高くなっています。

問 40(2) 今後利用したい障害サービス



(4) 今後利用したい理由

《問 40(2)で回答されたサービスについてうかがいます》

問 40(3) 現在利用していないが今後利用したい理由はどのようなものですか。

(サービスごとに回答はいくつでも)

どのサービスも回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、全体的に「受け入れてくれるところが分からない」「サービスをよく知らない」の回答率が高くなっています。

問 40(3) 今後利用したい理由

	(n)	分れ受 かるけ らと入 なこれ いろて がく	くサ 知し らビ ないを よ	て定 い員 な粹 いが 空 い	ス送 が迎 ないの サー ビ	無 回 答
居宅介護	3	—	66.7%	33.3%	—	—
在宅レスパイト	3	66.7%	—	—	—	33.3%
短期入所	5	60.0%	20.0%	40.0%	40.0%	—
児童発達支援	3	66.7%	66.7%	33.3%	66.7%	—
居宅訪問型 児童発達支援	2	50.0%	100.0%	—	—	—
放課後等デイサー ビス	4	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	—
保育所等 訪問支援	1	100.0%	100.0%	—	—	—
移動支援	8	50.0%	75.0%	—	25.0%	—
訪問入浴	2	50.0%	—	50.0%	—	—
相談支援	8	50.0%	50.0%	12.5%	—	—
日中一時支援	8	62.5%	75.0%	—	—	—

(5) 今後一番利用したい障害サービス

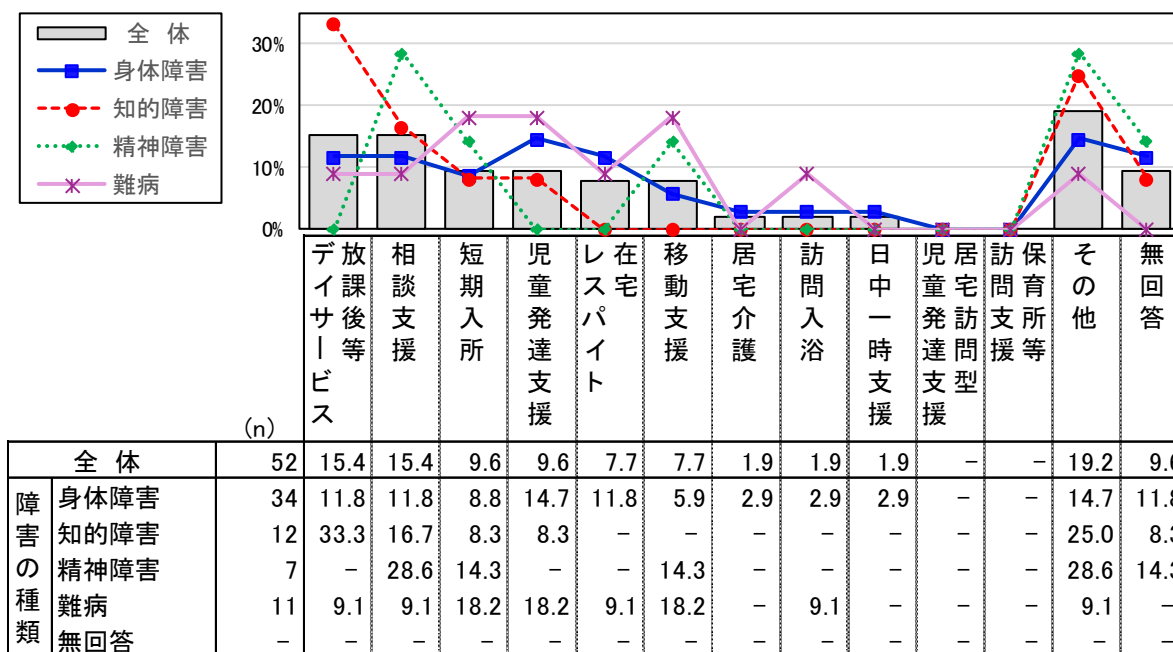
《医療的ケア児の保護者の方にうかがいます》

問 41 現在利用している、していないに関わらず、今後一番利用したいサービスはどのようなものですか。(回答は1つだけ)

全体では、「放課後等デイサービス」「相談支援」がともに15.4%で最も高く、次いで「短期入所」「児童発達支援」がともに9.6%、「在宅レスパイト」「移動支援」がともに7.7%となっています。

障害別にみると、身体障害では「児童発達支援」と「その他」がともに14.7%で最も高く、次いで「放課後等デイサービス」「相談支援」「在宅レスパイト」が11.8%で並んでいます。回答者数(n数)が少なく参考程度となりますが、知的障害(n=12)では「放課後等デイサービス」が最も高く、精神障害(n=7)では「相談支援」「その他」が最も高くなっています。

問 41 今後一番利用したい障害サービス



(6) 医療的ケア児に対するサービスや支援についての要望

《医療的ケア児の保護者の方にかかっています》

問 42 医療的ケア児に対するサービスや支援について希望はありますか。

(自由に記入してください)

医療的ケア児がいる保護者の方からは、医療的ケア児に対するサービスや支援についての自由意見が 16 件寄せられています。「区への意見・要望」がほとんどで「医療的ケア児を預かってくれるところが少ない」「放課後等デイサービスなどが少ない」と預かり先の充実と「経済的支援」を求める声が多くなっています。

No	問 42 医療的ケア児に対するサービスや支援についての希望(自由意見一覧)
1	産まれた時から、この環境(保護者が頑張ればいい)なのでなかなか思いつかない
2	北区には医療的ケア児を預かってくれるところがない。1か所預かってくれる保育園があるが、建前だけで全く機能していない。金の無駄遣いだ。もっと医療的ケア児の家族の声に耳を傾けて欲しい。ちゃんと話を聞いていたらこんな状況にはなっていないと感じる。北区には全く期待できない。子供を預けるところを探すにあたり北区に電話したが2つ返事で無理と言われ、都に連絡をしてやっと預かってくださるところを紹介してもらえた。区は「子供の幸せ1番」と言っているが、私の子供は含まれていないようだ。
3	親が病気などで世話が出来ない時に、預かってもらえるところがあると安心です。
4	医療的ケア児を一時的でも預かれるサービス(保育所やベビーシッターなど)。医療的ケア児を受け入れてくれる保育園や幼稚園の拡充
5	医療的ケア児に対して優しさが全くない。預ける場所やシッターさんなど医療的ケアが必要な子供に対しては除外が多い。
6	人工呼吸器の子が利用できる放課後等デイがほとんど無い。あってもまず空いてない。そして送迎まで看護師付きでみてくれるところは、本当に少ない。今後増やして欲しい!!!
7	就職したいです
8	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援のような預かり場所の充実(預かり回数や時間など含め)。 ・受給者証の重心型などによる区別。(医療的ケア児は重心型でないと受け入れてくれる施設はないが、重心でないと重心型の受給者証がとれない。加算の関係で断られる施設多数)。 ・経済的支援の充実(所得制限の撤廃等)。
9	障害児福祉の所得制限により、放課後等デイサービスで利用者自己負担 37,200 円を毎月払っています。在宅レスパイトも利用したいのに一般に 8 倍超の自己負担があるため、経済的に厳しく、在宅レスパイトを利用したいのに利用できず、介護者の心身の疲れが溜まっていて追い込まれて命に関わる事態です。早急に障害児福祉の所得制限を撤廃してください。区独自で対応をしてください。命にかかわります。

No	問 42 医療的ケア児に対するサービスや支援についての希望(自由意見一覧)
10	医療ケア児の親は慢性的な寝不足であり、一時的に安心して預けられるレスパイト入院先が必須だと感じています。移動も困難であるため、地域の医療機関等と連携して整備していただきたいです。また、感染症リスクや多くの医療機器を持ち運ぶ大変さから、通院等の移動は福祉タクシー一択であり、特殊な病気を抱える子をみれる医療機関も限られていることから、遠方への移動となるため、交通費が高額となります。年収に関わらず(年収の基準も低すぎます)、等しくタクシー券等のサービスが受けられるようにしていただきたいです。その他手当についても年収の基準が低すぎます。医療ケア児の生活に必要な物品は予想以上に多く、出費は多いにも関わらず、手当が受けられずに困っています。本当に困っている人に行き届く行政サービスとなるよう全面的に見直しをお願いしたいです。
11	都外入所施設との連携
12	導尿についての知識、理解が学校現場に行き渡り、保護者のサポートが難しい時に(一時的でも)教職員がサポートにつけること。(トイレでの見守りだけでも)
13	放課後等デイサービスの数が少ない
14	保育園での受け入れがすごく難しかったので、もっと理解あるようになってほしい。保育園の看護師がいても何もできないので、最悪の時はできるようにしてほしい。
15	医療的ケア児を受け入れてくれる放課後等デイサービスが少ないと聞いているので、相談して詳しく教えてくれる窓口を希望します。
16	成長の過程で変わることを考慮した運営を希望します。就労継続できるかどうかは生活に大きく影響します。希望に沿った支援が行き届く行政の取り組みを、引き続き進めて頂きたいです。よろしくお願いいたします。

15 強度行動障害について



問 43～47 を回答するにあたっての解説

強度行動障害について

強度行動障害とは、自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲のくらしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度で起こるため、特別な配慮された支援が必要になっている状態

(1) 強度行動障害者

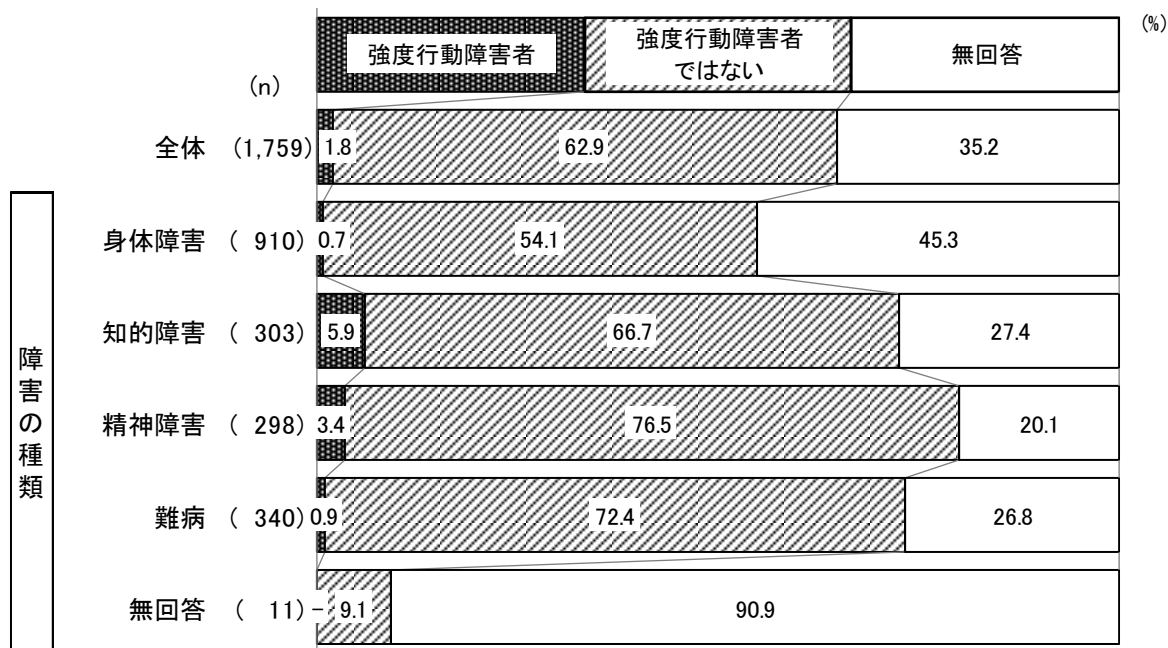
問 43 すべての方にうかがいます。

「あて名の方」は強度行動障害者ですか。(回答は1つだけ)

全体では、「強度行動障害者」は1.8%にとどまっています。

障害別にみると、知的障害では「強度行動障害者」が5.9%、精神障害では3.4%と他の障害に比べると高くなっています。

問 43 強度行動障害者



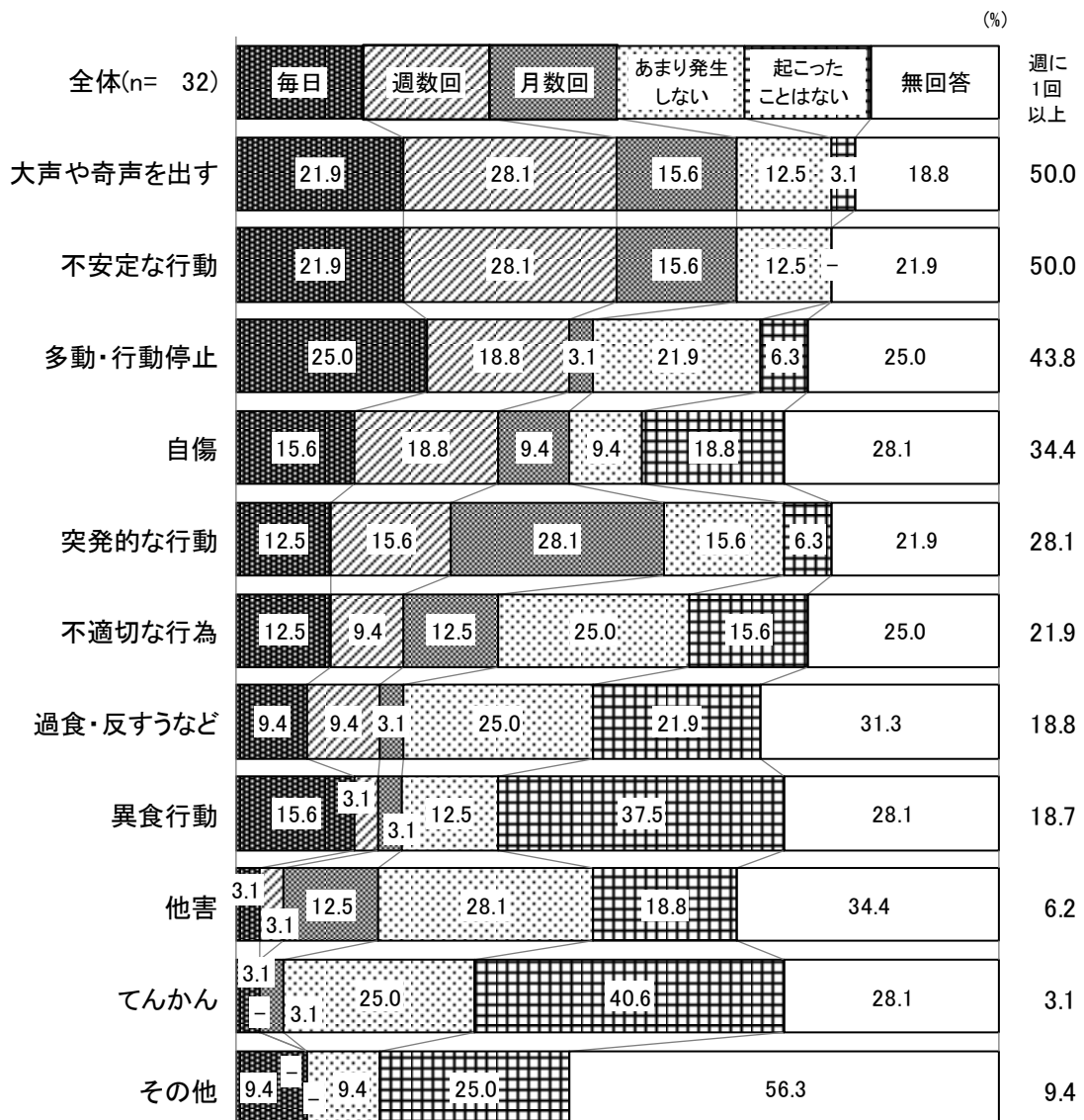
(2) 行動上の特徴や問題行動特性の頻度

《強度行動障害がある方の保護者にうかがいます》

問 44 「あて名の方」に行動上の特徴や問題行動特性は起こりますか。起こる場合、どのくらいの頻度で起こりますか。(種類ごとに回答は1つずつ)

『大声や奇声を出す』『不安定な行動』では、「毎日」「週数回」を合計した「週に1回以上」起こる割合がちょうど5割となっています。『多動・行動停止』では、「週に1回以上」は43.8%ですが「毎日」が25.0%と最も高くなっています。次いで「週に1回以上」が高いのは『自傷』34.4%、『突発的な行動』28.1%で3割前後となっています。

問 44 行動上の特徴や問題行動特性の頻度



※「週に1回以上」の高い順

(3) 日常的に困っていること

《強度行動障害がある方の保護者にうかがいます》

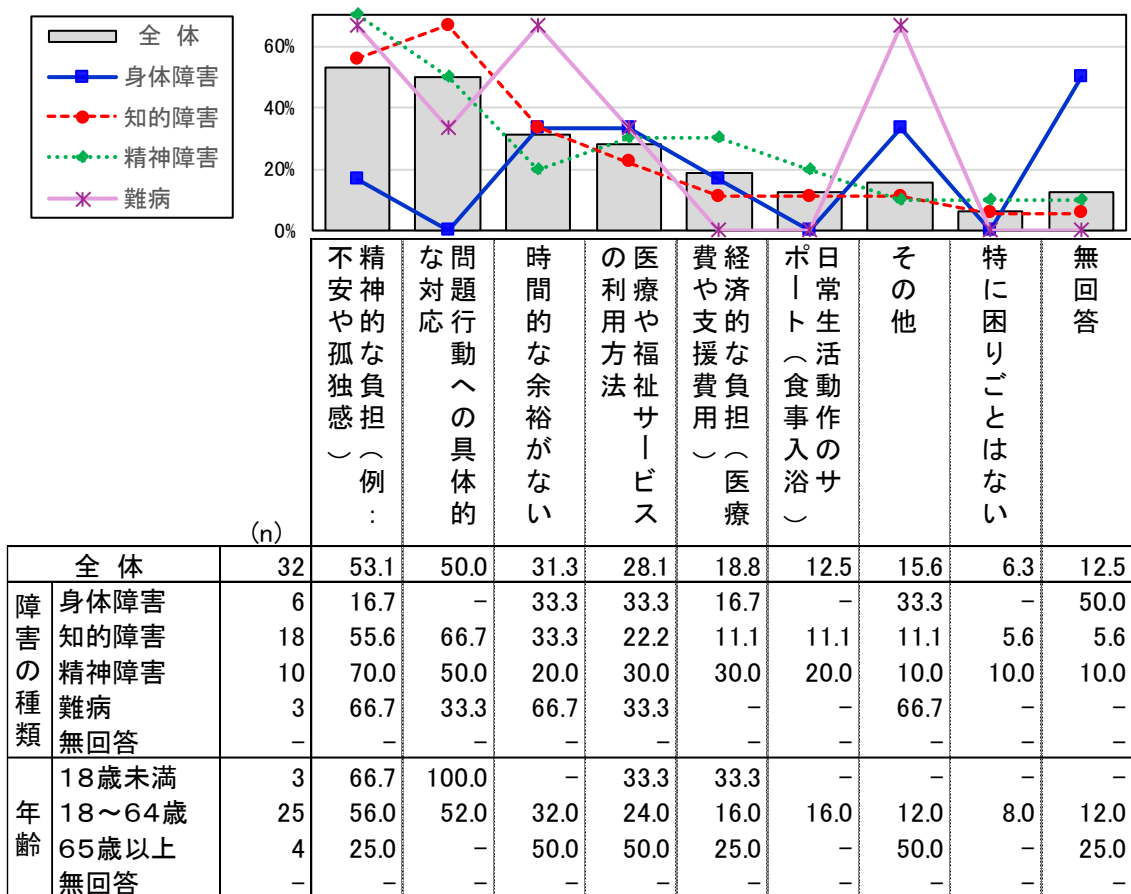
問 45 強度行動障害について日常的に困っていることを教えてください。

(回答はいくつでも)

全体では、「精神的な負担(例:不安や孤独感)」が53.1%で最も高く、次の「問題行動への具体的な対応」50.0%までが5割に達しています。以降、「時間的な余裕がない」31.3%、「医療や福祉サービスの利用方法」28.1%と続いています。「特に困りごとはない」は6.3%と1割に達せず、「無回答」12.5%とあわせても2割未満にとどまっており、多くの保護者が日常的な困難を抱えている実態がうかがえます。

障害別にみると、回答者数が少なく参考程度となりますが、知的障害(n=18)では「問題行動への具体的な対応」が最も高くなっています。

問 45 日常的に困っていること



(4) 負担を軽減するために必要と考える支援やサービス

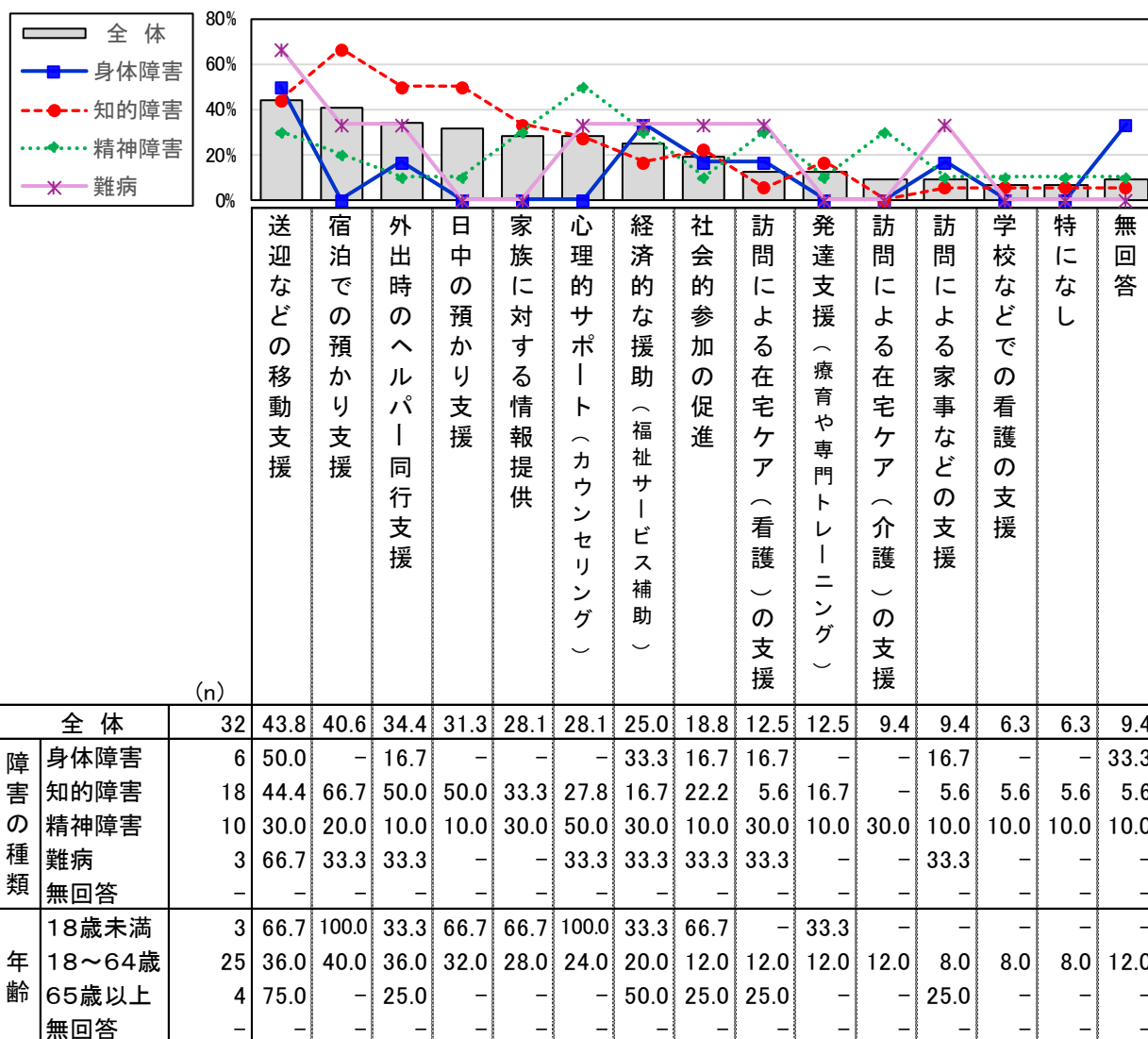
《強度行動障害がある方の保護者にうかがいます》

問 46 日々の負担を軽減するために必要と考える支援やサービスを3つまで教えてください。
(回答は3つまで)

全体では、「送迎などの移動支援」が43.8%で最も高く、次いで「宿泊での預かり支援」40.6%、「外出時のヘルパー同行支援」34.4%と続いており、外出・移動に関する支援ニーズが強くなっています。

障害別にみると、回答者数が少なく参考程度となりますが、知的障害(n=18)では「宿泊での預かり支援」が最も高くなっています。

問 46 負担を軽減するために必要と考える支援やサービス



(5) 強度行動障害に対するサービスや支援についての要望

《強度行動障害がある方の保護者にうかがいます》

問 47 強度行動障害に対するサービスや支援について希望はありますか。

(自由に記入してください)

強度行動障害がある方の保護者からは、強度行動障害に対するサービスや支援についての自由意見が 12 件寄せられています。「区への意見・要望」が多く「周囲の理解を深める支援」「(重度の人を)預けられる場所」を求める声が多くなっています。

No	問 47 強度行動障害に対するサービスや支援について希要望(自由意見一覧)
1	障害者であると警察への相談ができない。事件が起きてからになる。大きな犯罪を起こすのでは、家族の命が危ないと本当に心配だ。
2	①本人の障害レベルが成人の時の判定によるものなので、定期的な見直しのチャンスが頂けるとありがたい。(都のセンター→区の審査)(年齢的な調整力、成長や劣化) ②障害の理解が進み街中での行動で不適応があっても理解され、家族への連絡等対処がスムーズになっています。それでも忘れたところに又起きる症状に不安は尽きません。一つ乗り越え又、次の課題をとやっけていながら親も子も成長しています。慣れた地元で生涯暮らせるサービスができる事を期待します。
3	まわりの人たちの理解を強化して頂けるような支援。いざという時の支援、預かり場所。年に 1 回で良いので長い宿泊での預かり支援など。
4	支援を受けられることはとてもありがたいが、強度行動障害に対する理解、支援方法は、支援する側に不安を感じる事が多々ある。支援者の方たちの理解を深めて頂くための講習、相談できる場所を増やしてほしい。又、人手不足も感じられる。賃金が安すぎるとい話をされている人も何名かいました。
5	都外施設で見て頂いているのでサービス支援は使えません。会いに行った時に外出等で使えるサービスがあったら良いなと思いました。
6	軽度の障害者用のグループホームはありますが、重度用のグループホームはなく、強度行動障害者用のグループホームは地方にしかありません(空き)。通所施設もグループホームも重度の知的障害者用の施設が不足、本人に合ったところを選ぶ事もできません。早急に対策をお願いします。
7	休日は移動支援を利用し外出してます。慣れた支援員、スタッフ様なので不安なくストレスを発散できているように感じます。
8	頭をベットや床にごんごんするのみなので(やる事はないけれど)他のことに気持ちをそらせる支援があるといいです。
9	手の平をつねったりいじったりとその時々により皮膚をかきむしる自傷行為の場所が変わる。皮膚科には通院しているが、「かきぐせ」が治らないことになっている。大声奇声は小学校に入ってからなくなりました。床、地面に寝そべることもなくなった。発語は殆どできないためストレスがたまっていたのか？
10	どの福祉サービスも一度利用すると、次回の利用は断られ、利用できるサービスが全くない。本当に必要とする障害者がサービスを利用できず、家族が疲弊している。そこそこの聞き分けのある障害者の方はサービスが充実しているのに、本当に困っている本人・家族には支援がなく、障害福祉の世界には疑問を感じる。

No	問 47 強度行動障害に対するサービスや支援についての要望(自由意見一覧)
11	隣近所の方の目や虐待ではと思われてしまう事
12	暇になると困りごとが起こりやすいので、常に誰かとられることになるのが大変である。長らく母親の実家に預かってもらっていたが数年前に戻して生活するも、すでに限界に近い。どこも預かってはくれない。安楽死を許可してほしい。

16 中途失聴・難聴者、失語症者について

(1) 中途失聴・難聴者、失語症者

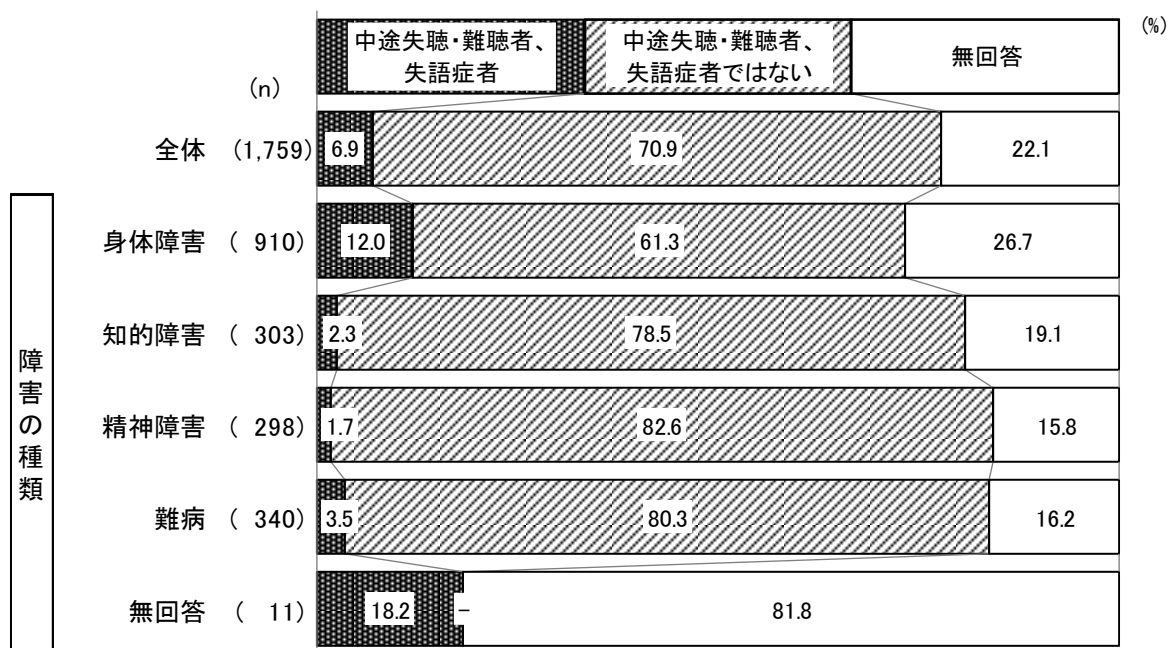
問 48 すべての方にうかがいます。

あなた(あて名の方)は中途失聴・難聴者、失語症者ですか。(回答は1つだけ)

全体では、「中途失聴・難聴者、失語症者」は6.9%にとどまっています。

障害別にみると、身体障害では「中途失聴・難聴者、失語症者」は12.0%と1割を超えています。次いで難病では3.5%、知的障害で2.3%、精神障害で1.7%の順となっています。

問 48 中途失聴・難聴者、失語症者



(2) 区政や福祉サービス情報入手先

《中途失聴・難聴者、失語症者の方にうかがいます》

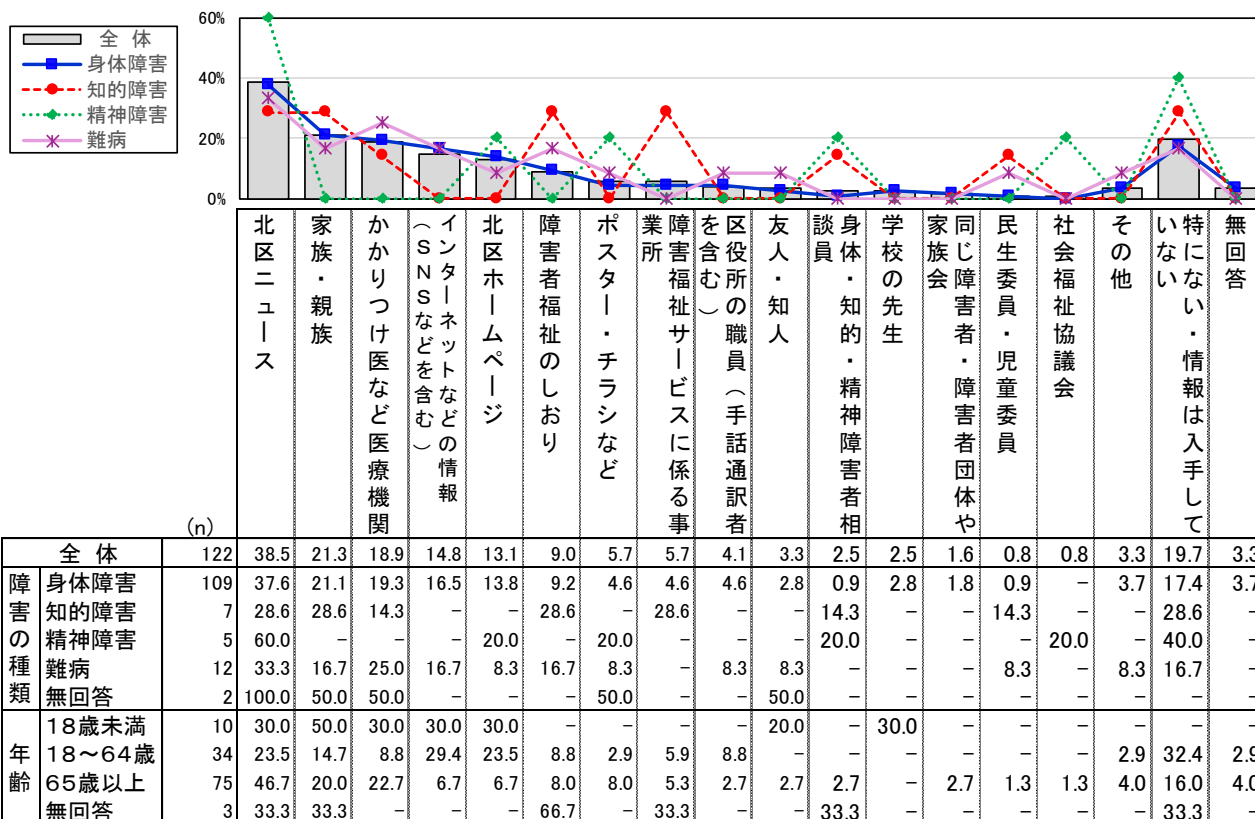
問 49 区政や福祉サービス情報入手の際にどのような方法を利用していますか。

(回答はいくつでも)

全体では、「北区ニュース」が 38.5% で最も高く、次いで「家族・親族」21.3%、「かかりつけ医など医療機関」18.9% となっています。

年齢別では、18～64 歳では「インターネットなどの情報(SNS などを含む)」29.4% が最も高いのに対し、65 歳以上では「北区ニュース」が 46.7% と最も高くなっています。

問 49 区政や福祉サービス情報入手先



(3) 情報入手、相談のための支援

《中途失聴・難聴者、失語症者の方にうかがいます》

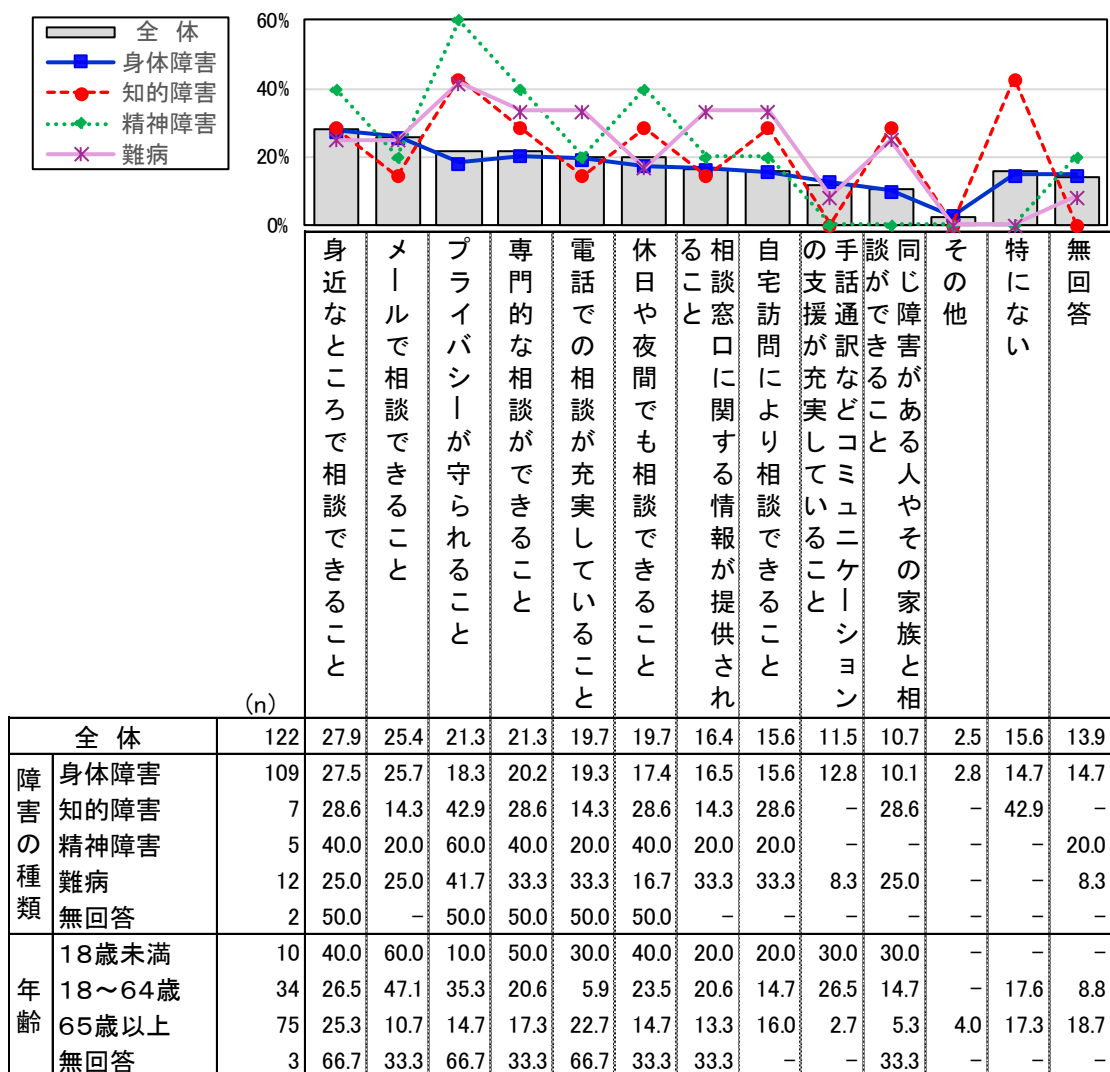
問 50 情報入手、相談のために、どのような支援があるとたすかりますか。

(回答はいくつでも)

全体では、「身近なところで相談できること」が 27.9% で最も高く、次いで「メールで相談できること」25.4%、「プライバシーが守られること」と「専門的な相談ができること」がともに 21.3% で続いています。

年齢別にみると、64 歳以下では「メールで相談できること」が最も高いのに対し、65 歳以上では「身近なところで相談できること」25.3%、「電話での相談が充実していること」22.7% が高くなっています。

問 50 情報入手、相談のための支援



※ 自由意見

すべての方にうかがいます。

北区の障害者に対する支援や福祉に対して、ご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

北区の障害者に対する支援や福祉に対するご意見・ご要望では、「区への意見・要望」209件が最も多く、次いで「福祉サービス」125件、「経済的不安・経済的支援」97件が多くなっています。

回答の内容	件数
区への意見・要望	209
福祉サービス	125
経済的不安・経済的支援	97
健康・医療	71
障害理解	67
生活環境	66
将来の不安	45
保育・療育・教育	39
就労	30
災害時の不安・災害対策	16
その他	107
回答者(何らかの回答をした人)数	553

※複数の分野にまたがる意見があるため、各項目の件数の合計は回答者数を超えます。

●主な意見

回答内容別の主な意見は以下の通りです。

※ここで掲載した回答は、大意を変えずに一部を省略・要約している場合があります。

①区への意見・要望

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
受けられる支援やサービスなど窓口に行ったときに案内してほしい(後からこんな支援があったんだ！とホームページ等で知ることがある)。	肢体不自由	10歳未満 ご家族
区役所の担当職員が1年ごとに代わってしまうのは改めてほしい。担当職員によっては電話対応で簡単に済ませる人もいれば、日中活動している施設まで子供の様子を見に行ってくれたり親身になって対応してくださる職員もあり、職員での対応に差がある。障害者福祉センターでの調理活動等一人で行ける人が対象となっているため、ヘルパー同伴での参加を可能としてほしい。平日の夕方の時間に過ごせる場所を作してほしい。放課後等デイサービスの成人対象のものを希望する。	知的障害	20代 ご家族
区の相談窓口を利用した時に担当した男の相談員の人の態度が悪く感じ悪かった。自分が間違っただのに、謝らなかつたりで嫌な思いをした。電話対応の時も感じ悪かった。他の職員の方は親切に対応して頂けたのに、そういう人がいると相談窓口のイメージが悪くなる。相談員の人の教育しっかりしてほしいと思った。	精神障害	30代 ご本人
難病申請が特定の場所でしかできないのが気になります。大きな病院でもできるようにしたり、建物の1Fでできるようにしたり、郵送やインターネットでもできるようにしたり、今後は申請しやすいような環境を整えていただけるとありがたいです。	難病	40代 ご本人
経済的支援、および、障害者雇用の支援について、分かりやすく説明する薄い冊子のような物があると良い。または北区のホームページからそのような情報にアクセスできると良い。	精神障害	50代 ご本人
社会参加(余暇活動含む)への移動支援を充実してほしい。障害の等級で移動支援の是非を決めるのではなくて、本人のニーズに沿った支援が必要だと思います。	肢体不自由	70代 ご本人

②福祉サービス

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
<p>医療的ケア児の親が育休終了後復職を希望しても安心して預けられる保育所や福祉施設が整っていないため、復職を諦めざるを得ません。例えば練馬区には医療ケア児専用の保育所が整備されていたり、他の区でも医療的ケア児を受け入れている保育所が複数あつたりしますが、北区では1ヶ所であり、しかも3歳以上でないと預けられないというのは、全く実態に合っていないと思います。実際、北区では預け先がないからと、別の区に移り住む方が多いと聞きます。また、24h 医療ケアが必要な子の親は慢性的な寝不足です。在宅レスパイトは、年間144h、一回4時間が上限とは少なすぎます。また、在宅だけでなく、安心して預けられるレスパイト入院先の整備も強く希望します。(北医療センター等との連携)、どうか現場の声に耳を傾けて、本当に求められている行政サービスの整備をお願いします。</p>	内部障害	10歳未満 ご家族
<p>北区社会福祉協議会のハンディキャブという移動支援事業がなくなり、これまでのような通院ができなくなります。近隣だと墨田区や文京区では継続して行われているので残念です。</p>	肢体不自由	10代 ご家族
<p>成年後見人の制度について考え直してほしい。障害者からお金を出すのはなぜなのか。国が支払ってほしい。年金の額と同じグループホーム代。働いている工賃は1万円です。障害者関係で働いている人の質が悪すぎる。施設の監視をしっかりやってほしい。安心できるなら高いグループホームでなくても安心できます。私の子どもは(53歳)知的障害で妻も友達も居ません。私と「一緒にいるのがいい」と言ってます。残酷と思うでしょうが、私が死んだ時に子供に安楽死を認めて欲しいです。残酷と無責任に言うなら愛情をかけて育ててくれるのでしょうか。</p>	知的障害	50代 ご家族
<p>北区では障害者支援や福祉施策が数多く用意されている一方で、実際の現場では当事者の声が十分に反映されていないと感じる場面があります。特に聴覚障害者に対しては、情報保障(手話通訳・要約筆記・分かりやすい説明)が形式的になっているケースがあり、利用しづらさを感じます。今後は制度を作る側と利用する側が直接意見交換できる場を増やし、現場の実態に即した支援を進めていただきたいです。</p>	聴覚・平衡 内部障害 難病	50代 ご本人
<p>過去、大田区、品川、中野区等に居住していたが、北区に住み始めて、住人に対するサービス等が充実しているなど感じました。高齢者が多いと聞いていたので、そのこともあるのでしょうか？これからも住人ファーストで運営をお願い致します。</p>	聴覚・平衡	70代 ご本人
<p>これから介護が必要な人がとても増えると思うので施設などを増やしてほしい。年金で精いっぱいのお金がかかるので、なるべくその中での支払いでまかないたい。障害があっても働ける場があるとありがたい。時々こういうアンケートをしてほしい。</p>	肢体不自由	80代 ご家族

③経済的不安・経済的支援

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
重い障害があるにもかかわらず、親の所得で手当をなくす、支援負担額を増やすなど、1人育てるのに全く異なる支援額になっており納得できない。親の年収ではなくこどもの成長具合等含め考えてほしい。	知的障害	10代 ご家族
全ての障害者に対する経済的支援をもっと充実させて欲しい	聴覚・平衡	30代 ご本人
今は働けているのでよいが、働けなくなったときが子どもがいるのでとにかく不安である。働けなくなったときは、障害年金にプラスする北区独自の手厚い経済的支援を18歳未満が一人でもいる子育て世帯にはお願いしたい。その場合は世帯全体の所得などの条件をつけることなく、また単発の補助金ではなく継続的な支援をお願いしたい。子育てするなら北区が一番を実感させて欲しい。そして自分のてんかんは精神的な疾患ではなく、大人になって発症した脳腫瘍によるものである。手帳としては精神障害者となっているが、鬱病などの精神疾患者と区別して支援してほしい。	精神障害	40代 ご本人
現在は「身体障害者手帳」1級から4級になった為、福祉タクシー券は頂けないのですが、歩くのが疲れてしまいバスでもしんどくてタクシーに乗りたくなる時があります。最寄り駅から自宅までタクシーで千円位かかるので、月五千元・・三千元でも良いのでまた福祉タクシー券を出して頂けると大変助かります。	内部障害	80代 ご本人

④健康・医療

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
国で指定されている難病の子を持つ母親です。医療費の負担は増すばかりで今後2つの治療を勧められております。高額なため躊躇している状況です。医療費だけではなく移動する手段の負担も大きく感じています。まだ指定難病でも医療費助成制度は適用されてません。支援して頂ける事を願っていますが、中々制度が進まず残念です。北区にも都立の福祉施設ができる事を願っています。よろしくお願いいたします。	知的障害	20代 ご本人
難病のため頂いている福祉手当が大変ありがたいです。この制度を今後も無くさないで頂けると助かります。よろしくお願いいたします。	精神障害 難病	40代 ご本人
私は王子で透析をしているのですが、近くで行ってくれる病院がなく、もう少し数があれば選んだりできると思います。	内部障害	50代 ご本人
頑張って仕事をしておりそれなりの収入がある為、殆ど恩恵を受けていません。後期高齢者なのに保険料が高すぎます。塩分制限食の栄養指導をやって欲しいです。	内部障害	70代 ご本人

⑤障害理解

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
子どもの腹膜透析の理解がないのもっと広めてほしい。自分の子供が保育園で受け入れられてないのがすごくわかった時はとても不快だった。抗がん剤をしても効かず最悪の2つの腎臓をとって腹膜透析をせざるを得なくなった本人、家族側のことも考えてほしい。発言する時は自分の子どもがそうだったらと思ってしてほしい。	内部障害	10歳未満 ご家族
対人の援助もありがたいのですが、普通の人間が障害者に対して施しているという雰囲気やそのような立場であることを感じてしまうこともあるので、どちらかといえば、書面上や医療機関等、手続きの簡易化や経済的援助を充実してくださると、日常生活において少し心に余裕が持てて少し前向きになれます。	精神障害	20代 ご本人
障害者であることを隠して生活しています。職場でもばれないようにと働いています。とても疲れています。働かないと生活出来ないのが都営住宅の基準も精神3級でも申し込めたら楽になると思っています。	精神障害	50代 ご本人
支援のため手当金のUPを求む。もう数十年も金額が変わらずです。昨今の経済状況を考えて、支給額のUPを求めます。	難病	60代 ご本人

⑥生活環境

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
現在北区立あすなろ福祉園に通所しています。施設の設備についてですが、施設に入る所と歩道の間隙間に段差があり、危険な状態です。車椅子を使っている利用者も何人かいて転倒など事故が起きてからでは遅いと思います。北区に申請しているそうなのですが、全く動いてくれず、何年も放置されています。至急対応をどうぞよろしくお願いいたします。	知的障害	30代 ご家族
駅のホームや改札にエスカレーターやエレベーターを設置してほしい。 ※1つの改札だけでなく、一つの駅に対していくつか改札がある場合は、複数の改札に設置してほしい。交通機関(電車やバスなど)で優先席に優先して座れる機会がほとんどないので、障害者や優先されるべき人が座れるようにしてほしい。	肢体不自由	30代 ご本人
全ての障害者が安心した生活ができるよう支援していただきたい。	難病	60代 ご本人
話しながら、ボードに文字が出てくるシステムを導入してほしい。また聴覚障害者の場合、身体的なものと言うよりも、社会的コミュニケーションに非常に困難があるので、そこのところスポット当ててサポートして欲しいと思う。また、聴覚に困難がある人に対しては、器具としてインターホンなど音によって作動する道具のサポートが欲しいが、その道具類が、福祉の上では旧態依然としたものが多く、現代は機器の進歩が著しいのでしっかりと見直しをして欲しい。	聴覚・平衡 肢体不自由	70代 ご本人

⑦将来の不安

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
乳児から学校に通っている間は様々な支援があると思うが、成人以降の支援が薄い気がする。親亡きあとの生活が不安。	知的障害	30代 ご家族
この先進行して書字困難、指も固く動かしにくくなって、スマホやパソコン画面も難しくなった場合、アンケートや更新書類はどうするのでしょうか。	視覚障害	50代 ご本人
町会の方々は同年代又は先輩方が多いので、助け合っていけるのではと思います。一人暮らしで今のところ働いているので、普通に動けますが、動けなくなった時、他の方も高齢になっているので、その時の不安はいなめない。	内部障害	60代 ご本人

⑧保育・療育・教育

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
障害児の保護者です。幼児療育施設や放課後等デイサービスに空きがなく、フルタイムで働く事ができません。できたとしても、心身の休まる暇はなく、一定以上収入を得ると諸制度の所得制限にかかるため、働くモチベーションは低くなります。(支払う税は増えるが給付が減り利用料金なども増加する、というイメージです)給付を充実させる、あるいは所得制限の撤廃(給付金制度に限らず、施設利用料金や税金なども含)などを求めます。また、障害の程度による経済支援はありますが、条件の緩和、あるいは一律給付などご検討ください。	知的障害	10歳未満 ご家族
娘は生まれつきの弱視で、目に障害があります。小学校は学区域の学校と、隣の区の弱視学級の両方に通っていますが、中学校になると弱視学級があるところはかなり減ります。高校になると、もっとも減っていき、弱視の子が通える学校が少ないのに、入りたい子が多くて、倍率が上がってしまい、将来的なところがとても不安です。弱視の子供が通えるような施設や、学校をもっと増やして欲しいと切に願っております。	視覚障害	10歳未満 ご家族
病院へ行く時、社会人は有給休暇がありますが、学校にはありません。成績に響いていきます。「学校を休みたくない」我慢をして体調を悪くすることがありました。学校を休んで病院に行っても欠席にならない制度があったらいいと思うことがあります。	難病	10代 ご家族

⑨就労

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
就労継続支援B型を増やすか定員を多くして頂きたい。仕事の確保も工賃を上げるために区の方で積極的に動いてほしい。区役所での知的障害者の仕事ができるようにしてほしい。学校卒業後の居場所(放課後デイサービスのよな)を作ってほしい。そのための人材育成、確保等をもっと区に積極的に動いてほしい。	知的障害	10代 ご家族
働きたくても、うまく働けない。経済的な不安が大きい。生活支援を充実させてほしい。生きていくことに不安。お金がないと生きていけない。	精神障害	40代 ご本人
今は年齢的にもまだ普通に働けていますが、会社を定年退職しても家のローンが残ります。ですから65歳を過ぎても自分にできる職について少しでも収入を得たいと考えています。しかし、今の私の(65歳を過ぎてからの)体の状況に合った職に果たして就けるのかという心配があります。	肢体不自由	50代 ご本人

⑩災害時の不安・災害対策

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
災害時に避難所の中でも別のエリアでもいいので障害者とその家族のみが避難できるような場所を作って欲しい。気兼ねなく過ごせる場所であればいいなと思う。入所施設を新設して欲しい。	知的障害	10代 ご家族
もし災害が起きた場合、人工透析はどこで受ければいいのか。	内部障害 難病	50代 ご本人
災害が起きて避難する際に家族が留守の場合、どうすればいいのか悩んでしまう。目が不自由で椅子にしか座れない(床に座れない)母と逃げるのがかなり困難だと思っている。	視覚障害	70代 ご家族

⑪その他

意見の概要	障害の種類	年齢・回答者
<p>障害がある人に、この問題自体答えるのは難しすぎる。家族あるいは理解している人と一緒に記入していくしか方法がない。言葉自体も難しく、もっと簡単な言葉にしてほしい。</p>	<p>精神障害</p>	<p>20代 ご本人</p>
<p>スマートフォン、役所、その他すべてがネットになり、私にはわかりません。昭和生まれには別世界です(字を書くのが一番良いです)。頭の中が大変です(中学校卒業の年寄りには無理です)。1~10 まですべて、生活にはインターネットは要りません。好きで障害者になったのではありません。生きるのが大変な世の中ですね。</p>	<p>内部障害</p>	<p>70代 ご本人</p>
<p>個々人に対応する際はなかなか本音が出ないのが障害者です。複数人で本音を隠さず遠慮なく声に出せる環境が大切かと思います。</p>	<p>肢体不自由</p>	<p>80代 ご本人</p>

資料(調査票)

＜本調査＞

はじめに：このアンケートで「あなた」というのは、「あて名」のご本人のことです。
 ※令和8年1月1日現在の状況でお答えください。

問1 すべての方にうかがいます。このアンケートに回答していただく方はどなたですか。
 (回答は1つだけ)

1. 本人(代筆を含む)	3. 施設職員・サービス提供者など
2. 家族	4. その他()

1. あなたご自身のことについて

問2 すべての方にうかがいます。あなたの年齢をお答えください。

年 齢	()歳	※年齢を記入
-----	------	--------

問3 すべての方にうかがいます。あなたは次の手帳や都医療券をお持ちですか。
 (回答はそれぞれ1つずつ)

身体障害者手帳	1. ない	2. ある → 問3-1へ
愛の手帳	1. ない	2. ある → 問3-2へ
精神障害者保健福祉手帳	1. ない	2. ある → 問3-3へ
都医療券(難病医療費助成)	1. ない	2. ある → 問3-4へ

＜問3の 身体障害者手帳 で、「2. ある」に回答した方にうかがいます＞

問3-1 あなたが持っている身体障害者手帳の等級と障害名はどれですか。

等 級	1. 1級 2. 2級 3. 3級 4. 4級 5. 5級 6. 6級
	(回答は1つだけ)
障害名	1. 視覚 2. 聴覚・平衡機能 3. 音声・言語機能・そしゃく 4. 肢体不自由 (上肢・下肢・体幹・運動)
	5. 内部障害(心臓・じん臓・肝臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸など) 6. 免疫機能障害 7. その他() (回答はいくつでも)

＜問3の 愛の手帳 で、「2. ある」に回答した方にうかがいます＞

問3-2 あなたが持っている愛の手帳の度数はどれですか。(回答は1つだけ)

等 級	1. 1度 2. 2度 3. 3度 4. 4度
-----	--

＜問3の 精神障害者保健福祉手帳 で、「2. ある」に回答した方にうかがいます＞

問3-3 あなたが持っている精神障害者保健福祉手帳の等級と疾病名はどれですか。

等 級	1. 1級 2. 2級 3. 3級 (回答は1つだけ)
疾病名	1. 統合失調症 2. 気分障害(うつ病・躁うつ病) 3. 依存症 4. てんかん 5. 認知症
	6. 発達障害 7. 高次脳機能障害 8. その他() 9. わからない (回答はいくつでも)

《問3の ㊦医療券(難病医療費助成)で、「2. ある」に回答した方にうかがいます》

問3-4 あなたが持っている ㊦医療券(難病医療費助成)に記されている疾病名はどれですか。(回答はいくつでも)

1. 潰瘍性大腸炎	5. 網膜色素変性症
2. パーキンソン病	6. 脊髄小脳変性症
3. 全身性エリテマトーデス	7. 後縦靭帯骨化症
4. クロウン病	8. その他()

問4 すべての方にうかがいます。あなたの障害支援区分はどれですか。また、介護保険制度の要支援・要介護認定を受けていますか。(それぞれ回答は1つだけ)

障害支援区分		介護保険制度の要支援・要介護度	
1. 未申請(※)	6. 区分4	1. 未申請(※)	6. 要介護2
2. 非該当(※)	7. 区分5	2. 非該当(自立)(※)	7. 要介護3
3. 区分1	8. 区分6	3. 要支援1	8. 要介護4
4. 区分2	9. わからない	4. 要支援2	9. 要介護5
5. 区分3		5. 要介護1	10. わからない

※未申請…申請したことがない。

非該当…認定審査を受けたが、非該当または自立と判断された。

2. 通院や入院について

問5 すべての方にうかがいます。あなたは最近1年間で、どれくらい通院しましたか。※入院はのぞく。(回答は1つだけ)

1. 通院していない	5. 月に1~2日以内(または2週間に1日)
2. 毎日	6. 年に数回
3. 週に4~6日	7. その他()
4. 週に1~3日	

3. 住居について

問6 すべての方にうかがいます。現在、あなたが暮らしているところは次のどれですか。(回答は1つだけ)

1. 持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	5. グループホーム
2. 民間賃貸住宅	6. 入所施設
3. 公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅	7. 病院
4. 社宅や会社の寮、官公舎	8. その他()

《問6で「1」~「4」、「8. その他」に回答した方にうかがいます》

問6-1 現在、だれと暮らしていますか。(回答はいくつでも)

1. ひとり暮らし(他にいない)	6. 孫やその夫または妻
2. 夫または妻	7. 祖父母
3. 父母	8. その他親族()
4. 兄弟姉妹やその夫または妻	9. その他()
5. 子どもやその夫または妻	

問7 すべての方にうかがいます。将来はどこで暮らしたいですか。理由もお答えください。(回答は1つだけ)

1. 持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)	4. グループホーム
2. 民間賃貸住宅	5. 入所施設
3. 公社・公団住宅・都営住宅・区営住宅	6. その他()
理由(具体的に)	

《問7で「4. グループホーム」に回答した方にうかがいます》

問7-1 グループホームで生活するにあたり不安なことや支援してほしいことはどんなことですか。(回答は1つだけ)

1. 他の入居者との人間関係に関すること	4. 地域とのつながりや外出支援
2. スタッフの対応や支援の質	5. 経済面(生活費など)
3. 健康管理や医療サポート	
6. その他(具体的に)	

《問7で「5. 入所施設」に回答した方にうかがいます》

問7-2 入所施設で生活するにあたり不安なことや支援してほしいことはどんなことですか。(回答は1つだけ)

1. 施設のルールや決まりごと	4. 施設内での活動や余暇の充実への期待
2. 入所者同士や職員との人間関係	5. プライバシーの確保に関する不安
3. 医療や健康管理の充実について	6. 家族や地域とのつながりの維持
7. その他(具体的に)	

4. 収入・就労について

問8 すべての方にうかがいます。あなたの収入はどれですか。(回答はいくつでも)

1. 仕事による収入(工賃を含む)	4. 生活保護
2. 障害年金などの年金	5. その他()
3. 親族からの援助や仕送り	

《問8で「1. 仕事による収入(工賃を含む)」に回答した方にうかがいます》

問8-1 現在、どのような形で仕事をしていますか。(回答はいくつでも)

1. 自営業	6. 就労移行支援
2. 家業の手伝い(家族の仕事の手伝い)	7. 就労継続支援A型
3. 会社などの正社員	8. 就労継続支援B型
4. 会社などの契約社員、派遣社員	9. 在宅ワーク(内職、パソコン入力など)
5. パート・アルバイト	10. その他()

《問8で「1. 仕事による収入(工賃を含む)」に回答した方にうかがいます》

問8-2 あなたの収入額は月平均どれぐらいですか。(回答は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 5万円未満 | 5. 20万円以上30万円未満 |
| 2. 5万円以上10万円未満 | 6. 30万円以上50万円未満 |
| 3. 10万円以上15万円未満 | 7. 50万円以上 |
| 4. 15万円以上20万円未満 | 8. わからない |

問9 すべての方にうかがいます。あなたは今後、どのような形で仕事をしたいですか。

(回答はいくつでも)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 自営業 | 6. 就労移行支援 |
| 2. 家業の手伝い(家族の仕事の手伝い) | 7. 就労継続支援A型 |
| 3. 会社などの正社員 | 8. 就労継続支援B型 |
| 4. 会社などの契約社員、派遣社員 | 9. 在宅ワーク(内職、パソコン入力など) |
| 5. パート・アルバイト | 10. その他() |
| | 11. 就労を希望しない |

《問9で「3. 会社などの正社員」、「4. 会社などの契約社員、派遣社員」、「5. パート・アルバイト」に回答した方にうかがいます》

問9-1 会社などで働くにあたり心配なことはありますか。(回答はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 仕事・作業などの内容が自分には重すぎるのではないかと |
| 2. 職場の障害に対する理解が不足しているのではないかと |
| 3. 職場の人間関係がうまくいかないのではないかと |
| 4. 通勤が大変なのではないかと |
| 5. 給料・待遇などが自分の希望と合わないのではないかと |
| 6. 職種・やりがいなどが自分の希望と合わないのではないかと |
| 7. その他() |
| 8. 特になし |

問10 すべての方にうかがいます。障害者が働くにあたり、必要な支援は何だと思えますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1. 就職するために必要な情報提供や相談 | 8. 仕事を続けるための相談 |
| 2. 就職するために必要な知識や技術を学ぶための支援 | 9. 仕事を続けるための家族への支援 |
| 3. 職場実習(インターンシップ)の充実 | 10. 障害についての職場での理解と協力 |
| 4. 能力や体調に合った仕事の紹介 | 11. 職場や通勤道路のバリアフリー化 |
| 5. 職場で自分の考えをうまく伝える方法を学ぶための支援 | 12. 自立して通勤するための訓練や支援 |
| 6. 健康管理などの支援 | 13. 再就職の相談 |
| 7. 職場でよい人間関係をつくるための支援(ジョブコーチ) | 14. 本人の働きたい気持ちを育てること |
| | 15. その他() |
| | 16. 特になし |

5. 介護・支援について

問11 すべての方にかがいます。介護や支援など、あなたを支えてくれる人はだれですか。(回答はいくつでも)

1. 夫または妻	6. 祖父母	11. その他
2. 父母	7. 隣人・知人	()
3. 兄弟姉妹やその夫または妻	8. ボランティア	12. だれもない
4. 子どもやその夫または妻	9. ホームヘルパー	13. 介護などは必要でない
5. 孫やその夫または妻	10. 施設の職員	

《問11で「1～6」の親族に回答した方にかがいます》

問11-1 主な介護者の年齢をかがいます。(回答は1つだけ)

1. 10歳代	4. 40歳代	7. 65～69歳
2. 20歳代	5. 50歳代	8. 70～74歳
3. 30歳代	6. 60～64歳	9. 75歳以上

問12 すべての方にかがいます。あなたや介護者のためにどのような支援が必要ですか。(回答は1つだけ)

1. 一時的に預かるサービスの充実	5. 訪問看護・リハビリなどの充実
2. 移動に係る支援の充実	6. 相談できる体制の充実
3. 保育所や学校などにおける環境整備	7. 情報提供の充実
4. 経済的な支援などの充実	8. その他()

6. 日常生活について

問13 すべての方にかがいます。あなたは、平日の昼間、主にどこで過ごしていますか。(回答は1つだけ)

1. 自宅	5. 小・中学校
2. 通所施設(生活介護、就労移行支援、就労継続支援A型・B型など)	6. 高等学校
3. 保育園・認定こども園・幼稚園	7. 専門学校・大学・短期大学
4. 特別支援学校(幼・小・中・高等部)	8. 会社など職場
	9. その他()

問14 すべての方にかがいます。あなたは、余暇をどのように過ごしていますか。(回答はいくつでも)

1. 個人でする趣味をしている(家の中・庭)	6. 人が集まる場所(集会所など)に行く
2. 個人でする趣味をしている(家の外)	7. ペットと過ごしている
3. 仲間とする趣味をしている(屋内)	8. 余暇らしい余暇はない
4. 仲間とする趣味をしている(屋外)	9. 何もしていない
5. 家族と過ごしている	10. その他()

7. 外出・地域環境・交通について

問15 すべての方にかがいます。あなたが、外出のときに困ることは何ですか。

(回答はいくつでも)

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 1. 自力での歩行・移動が困難または不安がある | 5. 付き添いの人がいない |
| 2. 人との会話・コミュニケーションが困難、
または不安がある | 6. 目的地が遠すぎる |
| 3. 自力での公共交通機関の利用が困難、または不安が
ある | 7. 最寄り公共交通機関が遠すぎる |
| 4. 自力での買い物が困難、または不安がある | 8. 移動にかかる費用が高すぎる |
| | 9. 特にない |
| | 10. その他() |

問16 すべての方にかがいます。これからバリアフリー化を進めてほしい施設はありますか。

(回答はいくつでも)

- | | | |
|------------------------------|-------------------------|---------------|
| 1. 区役所などの行政機関 | 5. 医療機関 | 8. 地域の道路 |
| 2. 公共の交通機関(電車・
バスなどに乗るとき) | 6. お店(小売店、飲食店、
銀行など) | 9. その他
() |
| 3. 公共のトイレ | 7. 福祉施設 | 10. 特にない |
| 4. 職場のある建物 | | |

問17 すべての方にかがいます。あなたはどれくらいの頻度で外出していますか。

(回答は1つだけ)

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 4. 月に1～3回 |
| 2. 週に3～4回 | 5. あまり外出しない |
| 3. 週に1～2回 | |

8. 情報や相談について

問18 すべての方にかがいます。あなたは、区政や福祉サービス情報をどこから入手していますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 区役所の職員(手話通訳者を含む) | 9. 身体・知的・精神障害者相談員 |
| 2. 北区ニュース | 10. 社会福祉協議会 |
| 3. 北区ホームページ | 11. 同じ障害者・障害者団体や家族会 |
| 4. インターネットなどの情報
(メール相談、SNSなどを含む) | 12. かかりつけ医など医療機関 |
| 5. 障害者福祉のしおり | 13. 学校の先生 |
| 6. ポスター・チラシなど | 14. 家族・親族 |
| 7. 民生委員・児童委員 | 15. 友人・知人 |
| 8. 障害福祉サービスに係る事業所 | 16. その他() |
| | 17. 特にない・情報は入手していない |

問19 すべての方にかがいます。あなたは、悩みごとや困ったことなどについて、だれ(どこ)に相談していますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 家族・親族 | 7. 障害福祉サービスに係る事業所の職員 |
| 2. 友人・知人 | 8. 同じ障害者・障害者団体や家族会 |
| 3. 区役所の職員(手話通訳者を含む) | 9. かかりつけ医など医療機関 |
| 4. 民生委員・児童委員 | 10. 学校の先生 |
| 5. 身体・知的・精神障害者相談員 | 11. その他() |
| 6. 社会福祉協議会 | 12. いない(相談していない) |

問20 すべての方にかがいます。あなたは、どんな悩みごとや困ったことを相談していますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 病気や障害の状態について | 8. 施設サービスについて |
| 2. 通院する医療機関について | 9. 生活費や税金、年金などについて |
| 3. 日常生活について | 10. 財産の管理などについて |
| 4. 仕事について | 11. 育児について |
| 5. 地域や趣味の活動について | 12. その他() |
| 6. 親の介護について | 13. 相談していない |
| 7. 在宅サービスについて | |

問21 すべての方にかがいます。あなたは、相談しやすい体制を作るにはどのようなことが必要だと思いますか。(回答はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 電話での相談が充実していること |
| 2. メールで相談できること |
| 3. 手話通訳などコミュニケーションの支援が充実していること |
| 4. プライバシーが守られること |
| 5. 自宅訪問により相談できること |
| 6. 休日や夜間でも相談できること |
| 7. 身近なところで相談できること |
| 8. 専門的な相談ができること |
| 9. 同じ障害がある人やその家族と相談ができること |
| 10. 相談窓口に関する情報が提供されること |
| 11. その他() |
| 12. 特になし |

9. サービスの利用について

問22 すべての方にうかがいます。障害福祉サービスについて(1)～(4)にお答えください。

(1) 現在、利用されている障害福祉サービスをお答えください。(回答はいくつでも)

(2) 今後、またはこれからも利用したいサービスをお答えください。(回答はいくつでも)

《(1)で利用されている障害福祉サービスについてお答えください》

(3) それぞれのサービスにどの程度、満足されていますか。(回答はそれぞれ1つずつ)

《(3)で「4. やや不満」、「5. 不満」と回答されたサービスについてお答えください》

(4) 以下の不満なことから、あてはまる番号を選んで記入してください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 回数や時間が足りない | 4. 利用できる事業所が少ない |
| 2. 利用の日時が合わない | 5. 事業所の担当者が代わってしまう |
| 3. サービスの質がよくない | 6. その他 |

サービス (記入例)	(1)		(3)満足度					(4)
	現在 利用	利用 意向	満足	やや 満足	ふつう	やや 不満	不満	不満点 (記入例)
①居宅介護 (ホームヘルプ)	①	①	1	2	3	④	5	1, 3
①居宅介護 (ホームヘルプ)	1	1	1	2	3	4	5	
②重度訪問介護	2	2	1	2	3	4	5	
③同行援護	3	3	1	2	3	4	5	
④行動援護	4	4	1	2	3	4	5	
⑤重度障害者など包 括支援	5	5	1	2	3	4	5	
⑥短期入所 (ショートステイ)	6	6	1	2	3	4	5	
⑦療養介護	7	7	1	2	3	4	5	
⑧生活介護	8	8	1	2	3	4	5	
⑨施設入所支援	9	9	1	2	3	4	5	
⑩自立訓練(機能 訓練・生活訓練)	10	10	1	2	3	4	5	
⑪就労移行支援	11	11	1	2	3	4	5	
⑫就労継続支援 (A型)	12	12	1	2	3	4	5	

前頁からの続きです。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 回数や時間が足りない | 4. 利用できる事業所が少ない |
| 2. 利用の日時が合わない | 5. 事業所の担当者が代わってしまう |
| 3. サービスの質がよくない | 6. その他 |

サービス	(1)	(2)	(3)満足度					(4)
	現在 利用	利用 意向	満足	やや 満足	ふつう	やや 不満	不満	不満点
⑬就労継続支援 (B型)	13	13	1	2	3	4	5	
⑭就労定着支援	14	14	1	2	3	4	5	
⑮自立生活援助	15	15	1	2	3	4	5	
⑯共同生活援助 (グループホーム)	16	16	1	2	3	4	5	
⑰児童発達支援・ 医療型児童発達支援	17	17	1	2	3	4	5	
⑱放課後等 デイサービス	18	18	1	2	3	4	5	
⑲居宅訪問型 児童発達支援	19	19	1	2	3	4	5	
⑳保育所等 訪問支援	20	20	1	2	3	4	5	
㉑障害児入所施設	21	21	1	2	3	4	5	
㉒計画相談支援 ・障害児相談支援	22	22	1	2	3	4	5	
㉓地域移行支援	23	23	1	2	3	4	5	
㉔地域定着支援	24	24	1	2	3	4	5	

問23 すべての方にかがいます。北区独自のサービスについて(1)～(4)にお答えください。

(1) 現在、利用されている障害福祉サービスをお答えください。(回答はいくつでも)

(2) 今後、またはこれからも利用したいサービスをお答えください。(回答はいくつでも)

《(1)で利用されている障害福祉サービスについてお答えください》

(3) それぞれのサービスにどの程度、満足されていますか。(回答はそれぞれ1つずつ)

《(3)で「4. やや不満」、「5. 不満」と回答されたサービスについてお答えください》

(4) 以下の不満なことから、あてはまる番号を選んで記入してください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 回数や時間が足りない | 4. 利用できる事業所が少ない |
| 2. 利用の日時が合わない | 5. 事業所の担当者が代わってしまう |
| 3. サービスの質がよくない | 6. その他 |

サービス (記入例)	(1)		(3)満足度					(4)
	現在 利用	利用 意向	満足	やや 満足	ふつう	やや 不満	不満	不満点 (記入例)
①移動支援	1	1	1	2	3	4	5	1, 3
①移動支援	1	1	1	2	3	4	5	
②日中一時支援	2	2	1	2	3	4	5	
③手話通訳派遣 (意思疎通支援)	3	3	1	2	3	4	5	
④区の相談窓口※	4	4	1	2	3	4	5	
⑤基幹相談 支援センター	5	5	1	2	3	4	5	
⑥地域活動支援室 支援センターきらきら	6	6	1	2	3	4	5	
⑦就労支援 センター北	7	7	1	2	3	4	5	

※:王子・赤羽障害相談係(手話通訳連絡所含む)、滝野川地域障害者相談支援センター

10. 障害児について

問24 18歳未満の障害児の保護者の方にうかがいます。18歳未満の子どもが受けている療育について、充実を望むものは何ですか。(回答はいくつでも)

- | |
|------------------------|
| 1. 会話やトイレなど日常生活に関する支援 |
| 2. 学習に関する支援 |
| 3. 友人など人とのかかわり方に関する支援 |
| 4. 保護者への支援 |
| 5. 療育を行う施設の増設 |
| 6. 費用に関する支援 |
| 7. 送り迎えなど通園・通所に関するサービス |
| 8. 療育内容や施設についての情報 |
| 9. その他() |
| 10. 特にない |
| 11. 18歳未満の障害児はいない→問29へ |

《以下、問25-問28は18歳未満(問2で18歳未満と回答)の保護者の方にうかがいます》

問25 小学生～高校生のお子さんが受けている教育や学校生活について、充実させるべきだと思う点がありますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 学習指導 | 6. 友人との関係づくり |
| 2. 施設や設備 | 7. 教職員の理解・支援 |
| 3. ガイドヘルパーによる通学時の介助 | 8. 就労に向けた教育 |
| 4. 通園・通学バスによる通学時の介助 | 9. クラブなどの課外活動 |
| 5. 生活に関する支援 | 10. その他() |
| | 11. 特にない |

問26 お子さんの発達や行動などについて、気になり始めたのは何歳のころですか。(回答は1つだけ)

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| 1. ～6か月健診未満 | 4. 3歳～就学前 | 7. 中学生 |
| 2. 6か月～1歳半未満 | 5. 小学生(低学年) | 8. 高校生 |
| 3. 1歳半～3歳未満 | 6. 小学生(高学年) | 9. その他() |

問27 お子さんの障害や心身の不調について、はじめてわかったのは、どのようなときでしたか。(回答は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 生まれてまもなく知らされた | 5. 医療機関で診察したときに知らされた |
| 2. 家族や周りの人が気付いた | 6. 保育園や幼稚園の教職員が気付いた |
| 3. 乳幼児健診で知らされた | 7. 学校の教職員が気付いた |
| 4. 育児相談などで知らされた | 8. その他() |

問28 家族以外で、お子さんの発達や行動などについて、だれ(どこ)に相談しましたか。(回答はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 1. 友人・知人 | 10. 民生委員・児童委員 |
| 2. かかりつけ医など医療機関 | 11. 身体・知的・精神障害者相談員 |
| 3. 保育園・認定こども園・幼稚園の先生 | 12. 通所施設や事業所の職員 |
| 4. 学校の先生・スクールカウンセラー | 13. 同じ障害者・障害者団体や家族会 |
| 5. 子ども家庭支援センター | 14. インターネットなどの情報
(メール相談、SNSなどを含む) |
| 6. 児童発達支援センター | 15. その他() |
| 7. 教育総合相談センター | 16. 相談しなかった |
| 8. 障害福祉課(障害相談係) | |
| 9. 健康支援センター | |

11. 権利擁護について

問29 すべての方にうかがいます。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。また、利用したことはありますか。(回答は1つだけ)

- | |
|---------------------------|
| 1. 利用したことがある、または、現在利用している |
| 2. 知っているが、利用したことはない |
| 3. 知らない |

問30 すべての方にうかがいます。あなたは、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)について知っていますか。(回答は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1. 聞いたことがあり、内容も知っている |
| 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

問31 すべての方にうかがいます。あなたは、障害を理由とする差別を感じたことがありますか。(「あてはまる場面」をいくつでも回答)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 区役所などの行政機関で | 7. 福祉施設で |
| 2. 電車・バスなどの交通機関で | 8. 住まいや家を借りる場面で |
| 3. 職場で | 9. 情報の取得やコミュニケーションで |
| 4. 学校で | 10. 地域のイベント(広報含む)などで |
| 5. お店(小売店、飲食店、銀行など)で | 11. その他() |
| 6. 医療機関で | 12. 特にない |

問32 すべての方にうかがいます。あなたは、区が障害者の虐待に関わる通報や相談を受け付ける「障害者虐待防止センター」を開設していることを知っていますか。(回答は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1. 聞いたことがあり、内容も知っている |
| 2. 聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3. まったく知らない |

問33 すべての方にかがいます。障害者に対する虐待を見たり聞いたり、または、あなたご自身が虐待を受けたことがありますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 見たことがある | 3. 虐待を受けたことがある |
| 2. 話を聞いたことがある | 4. 見たり聞いたりしたことはない |

《問33で「1. 見たことがある」、「2. 話を聞いたことがある」、「3. 虐待を受けたことがある」に回答した方にかがいます》

問33-1 見たり聞いたりした、または、あなたが受けた虐待の内容は、次のどれですか。(回答はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 身体的虐待(なぐる、けるなど) | 4. 放棄・放置(食事を与えないなど) |
| 2. 性的虐待(性的な行為を行うなど) | 5. 経済的虐待(金銭を渡さないなど) |
| 3. 心理的虐待(どなる、悪口を言うなど) | 6. その他() |

12. 災害対策について

問34 すべての方にかがいます。あなたが地震や台風などの災害への不安として感じることは何ですか。(回答はいくつでも)

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 必要な情報を入手できるか | |
| 2. 必要な支援内容を周囲の人に伝えられるか | |
| 3. 周囲の人に助けてもらえるか | |
| 4. 避難所へ移動できるか | |
| 5. 避難所で必要な支援を受けられるか | |
| 6. 避難所に必要な設備があるか | |
| 7. 自分のけがや病気の状態が悪くならないか | |
| 8. その他() | |
| 9. 特に不安はない | |

問35 すべての方にかがいます。災害のとき、あなたの避難を助けてくれる家族以外の方はいますか。(回答はいくつでも)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 近所の親戚 | 6. 民生委員・児童委員 |
| 2. 近所の住民 | 7. ホームヘルパー |
| 3. ボランティア | 8. 施設の職員 |
| 4. 町会・自治会などの自主防災組織 | 9. その他() |
| 5. 救急隊・消防隊など | 10. いない |

問36 すべての方にかがいます。災害のとき、どこに避難するか決めていますか。(回答はいくつでも)

- | |
|---------------------|
| 1. 避難所(最寄りの学校施設など) |
| 2. 福祉避難所 |
| 3. どこに避難すればよいかわからない |
| 4. その他() |

問37 すべての方にかがいます。あなたは、災害に備えて特別な対策をとっていますか。(回答は
いくつでも)

1. 消火器・三角バケツを置いている
2. 家具などが倒れないようにしている
3. 水やカンパンなど食料を用意している
4. ヘルメットや懐中電灯を用意している
5. 薬など救急セットを用意している
6. ラジオを用意している
7. 周囲の人に支援を求めやすくするためのヘルプカードを身につけている
8. 防災や気象に関する情報をメール配信するサービスに登録している
9. 避難行動要支援者名簿に登録している
10. いざという時どうするか、家族などと話し合っている
11. 地域の避難訓練に参加している
12. その他()
13. 特に対策はとっていない

14. 地域で安心して暮らしていくために

問38 すべての方にかがいます。障害者・障害児が地域で安心して暮らしていくためには、どのよ
うな施策が重要だと思えますか。(回答はいくつでも)

1. 障害に対する理解や交流の促進
2. 医療の充実
3. 障害児保育・教育・療育の充実
4. 就労支援の充実
5. 経済的支援の充実
6. 相談支援体制の充実
7. ホームヘルプなどの訪問系サービスの充実
8. 日中活動の場の整備・充実
9. 短期入所の充実
10. 移動支援の充実
11. コミュニケーション支援の充実
12. 情報バリアフリーの充実
13. グループホームの整備・充実
14. 入所施設の整備
15. 障害者の住まいの確保、居住支援の充実
16. 建物・道路などのバリアフリー化
17. 災害時の支援の充実
18. 趣味やスポーツ活動の充実
19. 障害福祉の人材確保・人材育成の充実
20. その他()
21. 特にない

15. 医療的ケア児について

【医療的ケア児についての説明】

医療的ケア児：日常的に下記の医療的ケアが必要な方(基準日：令和7年12月1日)

年齢：18歳未満の者及び18歳以上の者であって高等学校などに在籍するもの

①人工呼吸器(鼻マスク式補助喚起法、ハイフローセラピー、間歇的陽圧吸入法、排痰補助装置、高頻度胸壁振動装置など)	⑧中心静脈カテーテルの管理(中心静脈栄養、肺高血圧症治療薬、麻薬など)
②気管切開の管理	⑨皮下注射
③鼻咽頭エアウェイの管理	⑩血糖測定
④酸素療法	⑪継続的な透析(血液透析、腹膜透析など)
⑤吸引(口鼻腔内、気管内)	⑫導尿(間欠的導尿、持続的導尿)
⑥ネプライザーの管理	⑬排便管理(消化管ストーマ、摘便、洗腸、浣腸)
⑦経管栄養	⑭痙攣時における座薬挿入、吸引、酸素投与又は迷走神経刺激装置の作動などの処置
	⑮その他

問39 医療的ケア児の保護者の方にうかがいます。医療的ケア児の方は、日常生活で次の医療的ケアを必要としていますか。(回答はいくつでも)

1. 医療的ケアを必要としていない	5. 人工呼吸器
2. 酸素療法	6. 気管切開
3. たんの吸引	7. その他()
4. 経管栄養	8. 医療的ケア児はいない→問43へ

《以下、問40～問42は医療的ケア児がいる保護者の方にうかがいます》

問40(1) 現在利用している障害サービスはどのようなものですか。区内の事業所と区外の事業所についてそれぞれお答えください。(回答はそれぞれいくつでも)

(2) 現在利用していないサービスの中で今後利用したいサービスはどれですか。(回答はいくつでも)

サービス名	(1)利用している		(2)現在利用していないが利用したい
	区内	区外	
居宅介護	1	1	1
在宅レスパイト	2	2	2
短期入所	3	3	3
児童発達支援	4	4	4
居宅訪問型児童発達支援	5	5	5
放課後等デイサービス	6	6	6
保育所等訪問支援	7	7	7
移動支援	8	8	8
訪問入浴	9	9	9
相談支援	10	10	10
日中一時支援	11	11	11

《問 40(2) で回答されたサービスについてうかがいます》

問 40(3) 現在利用していないが今後利用したい理由はどのようなものですか。
(サービスごとに回答はいくつでも)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	居宅介護	在宅レスパイト	短期入所	児童発達支援	居宅訪問型児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問支援	移動支援	訪問入浴	相談支援	日中一時支援
受け入れてくれるところ が分からない	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
サービスをよく知らない	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
定員枠が空いていない	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
送迎のサービスがない	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

問 41 現在利用している、していないに関わらず、今後一番利用したいサービスはどのようなもの
ですか。(回答は1つだけ)

1. 居宅介護	7. 保育所等訪問支援
2. 在宅レスパイト	8. 移動支援
3. 短期入所	9. 訪問入浴
4. 児童発達支援	10. 相談支援
5. 居宅訪問型児童発達支援	11. 日中一時支援
6. 放課後等デイサービス	12. その他()

問 42 医療的ケア児に対するサービスや支援について希望はありますか
(自由に記入してください)

16. 強度行動障害について

【強度行動障害について】

強度行動障害とは、自傷行為や物を壊すなど周囲の人に影響を及ぼす行動が多く、家庭でかなり努力をして養育しても難しい状態が続き、特別な支援が必要な状態を言います。

問 43 すべての方のうちうかがいます。「あて名の方」は強度行動障害者ですか。
(回答は1つだけ)

1. 強度行動障害者	2. 強度行動障害者ではない → 問 48 へ
------------	-------------------------

《以下、問 44～問 47 は強度行動障害がある方の保護者にうかがいます》

問 44 「あて名の方」に行動上の特徴や問題行動特性は起こりますか。起こる場合、どのくらいの頻度で起こりますか。(種類ごとに回答は1つずつ)

	毎日	週数回	月数回	あまり発生しない	起こったことはない
1. 大声や奇声を出す	1	2	3	4	5
2. 異食行動	1	2	3	4	5
3. 多動・行動停止	1	2	3	4	5
4. 不安定な行動	1	2	3	4	5
5. 自傷	1	2	3	4	5
6. 他害	1	2	3	4	5
7. 不適切な行為	1	2	3	4	5
8. 突発的な行動	1	2	3	4	5
9. 過食・反すうなど	1	2	3	4	5
10. てんかん	1	2	3	4	5
11. その他	1	2	3	4	5

問 45 強度行動障害について日常的に困っていることを教えてください。

(回答はいくつでも)

1. 問題行動への具体的な対応	5. 日常生活動作のサポート(食事入浴)
2. 経済的な負担(医療費や支援費用)	6. 時間的な余裕がない
3. 精神的な負担(例: 不安や孤独感)	7. その他()
4. 医療や福祉サービスの利用方法	8. 特に困りごとはない

問 46 日々の負担を軽減するために必要と考える支援やサービスを3つまで教えてください。(回答は3つまで)

1. 訪問による在宅ケア(看護)の支援	8. 発達支援(療育や専門トレーニング)
2. 訪問による在宅ケア(介護)の支援	9. 学校などでの看護の支援
3. 訪問による家事などの支援	10. 社会的参加の促進
4. 日中の預かり支援	11. 家族に対する情報提供
5. 宿泊での預かり支援	12. 心理的サポート(カウンセリング)
6. 外出時のヘルパー同行支援	13. 経済的な援助(福祉サービス補助)
7. 送迎などの移動支援	14. 特になし

問 47 強度行動障害に対するサービスや支援について希望はありますか。

(自由に記入してください)

17. 中途失聴・難聴者、失語症者について

問 48 すべての方にかがいます。あなた(あて名の方)は中途失聴・難聴者、失語症者ですか。
(回答は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 中途失聴・難聴者、失語症者 | 2. 中途失聴・難聴者、失語症者ではない |
|------------------|----------------------|

《以下問 49～問 50 は中途失聴・難聴者、失語症者の方にかがいます》

問 49 区政や福祉サービス情報入手の際にどのような方法を利用していますか。
(回答はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 区役所の職員(手話通訳者を含む) | 9. 身体・知的・精神障害者相談員 |
| 2. 北区ニュース | 10. 社会福祉協議会 |
| 3. 北区ホームページ | 11. 同じ障害者・障害者団体や家族会 |
| 4. インターネットなどの情報
(メール相談、SNSなどを含む) | 12. かかりつけ医など医療機関 |
| 5. 障害者福祉のしおり | 13. 学校の先生 |
| 6. ポスター・チラシなど | 14. 家族・親族 |
| 7. 民生委員・児童委員 | 15. 友人・知人 |
| 8. 障害福祉サービスに係る事業所 | 16. その他() |
| | 17. 特にない・情報は入手していない |

問 50 情報入手、相談のために、どのような支援があるとたすかりますか。
(回答はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1. 電話での相談が充実していること | 7. 身近なところで相談できること |
| 2. メールで相談できること | 8. 専門的な相談ができること |
| 3. 手話通訳などコミュニケーションの支援が充実していること | 9. 同じ障害がある人やその家族と相談ができること |
| 4. プライバシーが守られること | 10. 相談窓口に関する情報が提供されること |
| 5. 自宅訪問により相談できること | 11. その他() |
| 6. 休日や夜間でも相談できること | 12. 特にない |

【自由意見】すべての方にかがいます。北区の障害者に対する支援や福祉に対して、ご意見・ご要望などありましたら自由にお書きください。

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました

北区障害者実態・意向調査報告書

令和8年3月発行

刊行物登録番号

7-1-120

東京都北区 福祉部 障害福祉課
発行 東京都北区王子本町一丁目15番22号
電話(03) 3908-9085